

広岡古墳群発掘調査概要報告書  
—広岡76・77・78・79・80・81・82号墳の調査—

一九八九

1989

鳥取市遺跡調査団

## 序 文

鳥取市内には数多くの原始・古代遺跡が存在しており、近年の各種開発事業の増加とともに発掘調査が必要となり、消えていく遺跡も増えております。しかしながら、埋蔵文化財は地域の先人の生活を語る歴史資料であり、後世に継承していくべき市民の貴重な財産です。このような認識のもと、鳥取市遺跡調査団では開発と文化財の共存をはかるべく、関係各機関の指導を得ながら埋蔵文化財調査事業を進めているところです。

さて、今年度調査を実施しました広岡古墳群の発掘調査事業も、古墳7基を発掘調査し、ここに無事所期の目的をはたし報告書刊行のはこびとなりました。ささやかな冊子ではありますが、市民各位ならびに関係各位のご利用に供していただければ幸いです。

最後になりましたが、文化財保護に対する深いご理解とご協力を頂いた関係者の皆様に心から感謝申し上げる次第です。

平成元年3月

鳥取市遺跡調査団

団長 田 中 哲 夫

## 例　　言

1. 本書は、鳥取県鳥取市広岡字富座他に所在した広岡76・77・78・79・80・81・82号墳の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、昭和63年度に鳥取市教育委員会の指導を受けて鳥取市遺跡調査団が実施した。
3. 本書に用いた方位は遺跡分布図を除き磁北を示し、レベルは海拔標高である。
4. 本書に掲載した実測図、写真は、調査参加者全員の協力によって作成したものである。
5. 発掘調査によって作成された記録類及び出土遺物は、鳥取市教育委員会に保管されている。

## 目 次

I. 発掘調査の経過 .....	1
II. 歴史的環境 .....	1
1. 遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
2. 広岡古墳群 .....	2
III. 発掘調査の概要 .....	5
1. 調査古墳の概要 .....	5
2. 広岡76号墳 .....	6
3. 広岡77号墳 .....	18
4. 広岡78号墳 .....	21
5. 広岡79号墳 .....	25
6. 広岡80号墳 .....	32
7. 広岡81号墳 .....	35
8. 広岡82号墳 .....	45
IV. 小 結 .....	53

## 図 版 目 次

- 図版 1 広岡76・77・78号墳調査前全景（東から）  
    広岡79・80・81・82号墳調査前遠景（西から）
- 図版 2 広岡76号墳調査前全景（東から）  
    広岡76号墳調査後全景（東から）
- 図版 3 広岡76号墳第1主体部埋土状況  
    広岡76号墳第1主体部木棺痕跡検出状況
- 図版 4 広岡76号墳第1・第2主体部（東から）  
    広岡76号墳第1主体部遺物出土状況
- 図版 5 広岡76号墳第1主体部遺物出土状況  
    広岡76号墳第1主体部遺物出土状況
- 図版 6 広岡76号墳第2主体部埋土状況  
    広岡76号墳第2主体部（東から）
- 図版 7 広岡76号墳第2主体部遺物出土状況

- 広岡76号墳第3主体部石材出土状況（東から）
- 図版8 広岡76号墳第3主体部石材出土状況（東から）
- 広岡76号墳第3主体部床面石材出土状況（東から）
- 図版9 広岡76号墳第4主体部（北東から）
- 広岡76号墳第5主体部（土器棺）遺存状況
- 図版10 広岡77号墳調査前全景（東から）
- 広岡77号墳調査後全景（東から）
- 図版11 広岡77号墳周溝埋土状況（西側）
- 広岡77号墳主体部埋土状況
- 図版12 広岡77号墳主体部（北から）
- 広岡77号墳主体部完掘後（北から）
- 図版13 広岡77号墳主体部遺物出土状況
- 広岡77号墳主体部遺物出土状況
- 図版14 広岡78号墳調査前全景（東から）
- 広岡78号墳全景（東から）
- 図版15 広岡78号墳周溝埋土状況（西側）
- 広岡78号墳主体部（北から）
- 図版16 広岡78号墳主体部遺物出土状況
- 広岡78号墳主体部遺物出土状況
- 図版17 広岡78号墳主体部遺物出土状況
- 広岡78号墳主体部完掘後（北から）
- 図版18 広岡79号墳調査前全景（南から）
- 広岡79号墳調査後全景（東から）
- 図版19 広岡79号墳周溝埋土状況（北側）
- 広岡79号墳第1主体部埋土状況
- 図版20 広岡79号墳第1主体部（北から）
- 広岡79号墳第1主体部完掘後（西から）
- 図版21 広岡79号墳第1主体部遺物出土状況
- 広岡79号墳第1主体部遺物出土状況
- 図版22 広岡79号墳第2主体部石棺検出状況（東から）
- 広岡79号墳第2主体部蓋石遺存状況（西から）
- 図版23 広岡79号墳第2主体部蓋石除去後（南から）
- 広岡79号墳第2主体部完掘後（東から）

- 図版24 広岡79号墳第2主体部石棺東側小口遺存状況  
広岡79号墳第2主体部石棺南側側板遺存状況
- 図版25 広岡79号墳第2主体部石棺内遺物出土状況  
広岡79号墳第2主体部石棺内遺物出土状況
- 図版26 広岡80号墳調査前全景（西から）  
広岡80号墳調査後全景（南から）
- 図版27 広岡80号墳周溝埋土状況（北側）  
広岡80号墳主体部埋土状況
- 図版28 広岡80号墳主体部完掘後（東から）  
広岡80号墳主体部（西から）
- 図版29 広岡80号墳主体部遺物出土状況  
広岡80号墳主体部遺物出土状況
- 図版30 広岡81号墳調査前全景（西から）  
広岡81号墳調査後全景（南から）
- 図版31 広岡81号墳主体部遺存状況（北から）  
広岡81号墳第1主体部埋土状況
- 図版32 広岡81号墳第1主体部完掘後（北から）  
広岡81号墳第1主体部（東から）
- 図版33 広岡81号墳第1主体部遺物出土状況  
広岡81号墳第1主体部遺物出土状況
- 図版34 広岡81号墳第2主体部（東から）  
広岡81号墳第2主体部遺物出土状況
- 図版35 広岡81号墳第2主体部遺物出土状況  
広岡81号墳第2主体部遺物出土状況
- 図版36 広岡81号墳第3主体部（上器棺）遺存状況（北から）  
広岡81号墳第3主体部完掘後（東から）
- 図版37 広岡81号墳第4主体部（土器棺）遺存状況  
広岡81号墳第5主体部（北から）
- 図版38 広岡82号墳調査前全景（北西から）  
広岡82号墳調査後全景（南から）
- 図版39 広岡82号墳第1主体部埋土状況  
広岡82号墳第1主体部（西から）
- 図版40 広岡82号墳第1主体部（北から）

- 広岡82号墳第1主体部遺物出土状況  
 図版41 広岡82号墳第1主体部遺物出土状況  
     広岡82号墳第2主体部石棺遺存状況(東から)  
 図版42 広岡82号墳第2主体部蓋石除去後(北東から)  
     広岡82号墳第2主体部蓋石除去後(西から)  
 図版43 広岡82号墳第2主体部完掘後(東から)  
     広岡82号墳第3主体部(土器棺)遺存状況全景(南から)  
 図版44 広岡82号墳第3主体部遺存状況(西側)  
     広岡82号墳第3主体部土器棺組合せ状況(南から)  
 図版45 広岡76号墳出土遺物  
     広岡78号墳出土遺物  
 図版46 広岡79号墳出土遺物  
     広岡80号墳出土遺物  
     広岡81号墳出土遺物  
 図版47 広岡81号墳出土内行花文鏡  
 図版48 広岡81号墳出土土器棺  
     広岡82号墳出土遺物

## 挿図目次

第1図	鳥取市南東部遺跡分布図	3
第2図	広岡76・77・78号墳地形実測図	7
第3図	広岡76・77・78号墳墳丘遺存図	8
第4図	広岡76号墳墳丘断面図	9
第5図	広岡76号墳第1主体部実測図	10
第6図	広岡76号墳第2主体部実測図	11
第7図	広岡76号墳第3主体部実測図	13
第8図	広岡76号墳第4主体部実測図	14
第9図	広岡76号墳出土上遺物実測図(1)	15
第10図	広岡76号墳出土上遺物実測図(2)	16
第11図	広岡77号墳墳丘断面図	19
第12図	広岡77号墳主体部実測図	20
第13図	広岡77号墳出土遺物実測図	21

第14図	広岡78号墳墳丘断面図	22
第15図	広岡78号墳主体部実測図	23
第16図	広岡78号墳出土遺物実測図	24
第17図	広岡79・80・81・82号墳地形実測図	26
第18図	広岡79・80号墳墳丘遺存図	27
第19図	広岡79号墳第1主体部実測図	29
第20図	広岡79号墳第2主体部実測図	30
第21図	広岡79号墳出土遺物実測図	31
第22図	広岡80号墳出土遺物実測図	32
第23図	広岡79号墳墳丘断面図	33
第24図	広岡80号墳墳丘断面図	33
第25図	広岡80号墳主体部実測図	34
第26図	広岡81号墳墳丘遺存図	36
第27図	広岡81号墳第1主体部実測図	37
第28図	広岡81号墳第2主体部実測図	39
第29図	広岡81号墳第1主体部出土遺物実測図	40
第30図	広岡81号墳第3主体部実測図	40
第31図	広岡81号墳第4主体部実測図	41
第32図	広岡81号墳第5主体部実測図	41
第33図	広岡81号墳第2主体部出土遺物実測図	43
第34図	広岡81号墳第3主体部出土遺物実測図	44
第35図	広岡82号墳墳丘遺存図	49
第36図	広岡81号墳墳丘断面図	50
第37図	広岡82号墳墳丘断面図	50
第38図	広岡82号墳第1主体部実測図	51
第39図	広岡82号墳第2主体部実測図	52
第40図	広岡82号墳第2主体部墓壙実測図	53
第41図	広岡82号墳出土遺物実測図	55
第42図	広岡82号墳第3主体部実測図	56



## I 発掘調査の経過

今回発掘調査を実施した広岡76~82号墳は、鳥取市広岡に所在する。発掘調査の契機は、鳥取市農林水産部の計画する農用地造成事業によるものである。この造成工事は、鳥取市広岡、船木にまたがる丘陵地6haを造成し、果樹園等の農用地として開発するものである。現地は、広岡、船木、集落の背後にあたり、標高50~60mの起伏に富んだ丘陵地で雜木を主体とする山林であり、周辺部は古墳等の埋蔵文化財が多く分布する地域である。造成事業計画の進展にともない事業地内に分布する古墳について発掘調査が必要となった。このため造成工事によって削平等現状の変更されるおそれのある古墳7基について発掘調査を実施することとなった。

調査は、鳥取市遺跡調査團があたることになり、昭和63年10月11日から平成元年3月31日まで実施した。

なお、本調査事業は、文化庁と農林省との覚書「農業基盤整備事業等と埋蔵文化財の保護との関係について」Ⅰの(5)に基づく、事業者負担分の発掘調査として実施したものである。

## II 歴史的環境

### 1. 遺跡の位置と歴史的環境

広岡古墳群は、鳥取市街地より南へ6kmほど離れた広岡部落の背後の丘陵地に展開している。この北に面する標高60~80m前後の低丘陵は、鳥取市と郡家町を界する空山（標高340m）につづいている。これらの丘陵の間にはいくつもの小平野が形成されており、入りくんだ地形となっている。周辺の丘陵は、地質学的には円通寺疊岩層や粘土層及び安山岩を含むローム層からなっており、疊と粘土が互層となった露頭も随所で見ることができる。丘陵間の小平野は緩やかな傾斜で鳥取平野中央部へとつながっていく。鳥取平野は、中央を流れる千代川やその支流である袋川、大路川などによって運ばれた上砂によって形成された沖積平野である。この肥沃な平野は、古代から現代に至るまで人々の生活を支える重要な生産基盤となっている。

広岡部落は、丘陵の裾部に立地し、集落前面の平野部で水稻栽培が、背後の丘陵部では梨を中心とする果樹栽培が盛んに行われている。また、特色ある産業として、付近に産出する粘土を利用した屋根瓦の生産があり、「津ノ井瓦」として広く知られている。

鳥取市広岡は、かつて因幡国法美郡に含まれ、1889年（明治22）津ノ井村の大字となり、1963年（昭和38）からは合併によって鳥取市の大字となって現在に至っている。

広岡の所在する鳥取平野南部の縄文・弥生時代の遺跡は、現在のところあまり知られていない。縄文時代の遺跡として、晚期前半の上器とともに貯蔵穴が検出された大路川遺跡がある。弥生時代の遺跡として、中期を主体とする久木、古郡家遺跡、流氷文銅鐸の出土した越路銅鐸出土地がある。この他にいくつかの石器、土器出土地が知られているが、詳細は不明である。

古墳時代に入ると、この地域の丘陵地帯には大小様々な古墳が築造されるようになる。古墳時代前・中期を代表する古墳として特異な埴輪、変形獸首鏡が出土した六部山3号墳（全長63m）、異形銅鏡、短甲などが出土した古郡家1号墳（全長90m）などの大型前方後円墳がある。後期になると小規模な円墳を中心とした古墳群が造営されるようになる。後期群集墳として広岡古墳群の南西に隣接する空山古墳群が良く知られている。この古墳群は、その多くが横穴式石室を主体部に持つ91基の古墳で構成されている。石室内部に鳥、木、舟などの線刻壁画を有する古墳があり、「中高天井」とともにこの地域の特徴となっている。なお、広岡古墳群にも弓を引く武人の線刻のある11号墳（坊ヶ塚古墳）がある。この他には家形石棺の残る橋本古墳、馬鋒などの馬具の出土した六部山1号墳などが注目される。

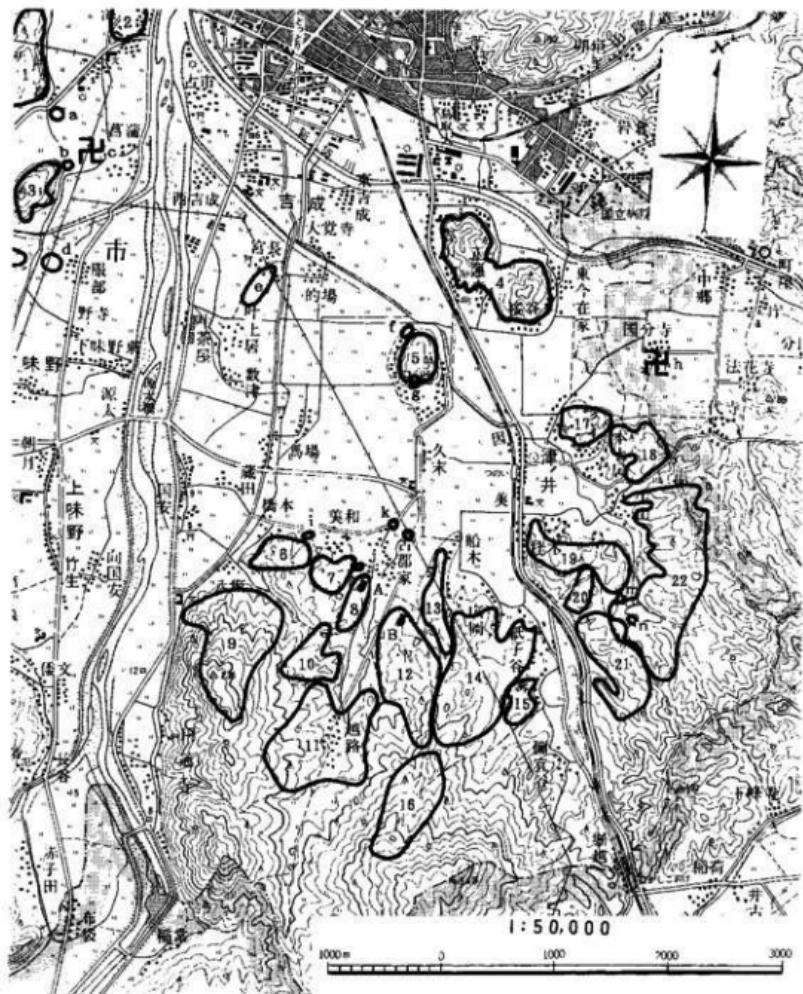
古墳時代の集落については、ほとんど知られていないが、いくつかの遺物散布地等から丘陵上や現在の集落に重なって存在するものと考えられる。調査された遺跡として、貯蔵穴、竪穴住居跡が検出された津ノ井字跡遺跡が知られている。

律令時代になると、この地域は因幡国邑美郡、法美郡に組み込まれる。因幡国府が法美郡に置かれたことからも、この地域が早くから因幡国の中心となっていたと考えられる。

## 2. 広岡古墳群

広岡周辺の丘陵地は、梨を中心とする果樹栽培が古くから盛んであり、園地の造成や耕作による古墳の発見や遺物の出土も多い。このため、早くから考古学的な調査・研究の対象となり、市域でも古墳分布や横穴式石室の特色などが比較的把握されてきた地域である。

1924年（大正13）前後には木山竹治氏らの調査がすでに行なわれており、広岡11号墳（坊ヶ塚古墳）などが、その調査成果である『鳥取縣史蹟勝地調査報告第二冊』に紹介された。その後1960年代前半には古郡家1号墳の発掘を契機とする鳥取大学歴史学研究会を中心とする調査があり、古墳の分布状況についてその大要が明らかにされた。この調査後は空山古墳群などとともに横穴式石室内に線刻された壁画を重点とした調査・研究が進められてきた。このように広岡古墳群は、早くから注目を集め調査もされてきたが、発掘調査の手が入ったのはごく近年のことである。律ノ井ニュータウン造成の進展など周辺の開発を契機として、広岡古墳群にも本格的な時代の波が押し寄せてきたわけである。1985年（昭和60年）には、農地造成、農道建設に伴って3基の古墳の発掘調査が実施された。この調査では、2基の横穴式石室と1基の木棺直葬が対象となった。このうち48号墳の末開口の横穴式石室からは、金銅装主頭大刀をはじめ多量の須恵器と玉類、馬具が出土した。さらに墳丘列石など墳丘の構造、築造過程などにも新知見をもたらした。1986年（昭和61）には、同様に農道建設に伴って新しく確認された2基の古墳の発掘調査が実施された。49号墳の箱形石棺からは管玉が出土し、攪乱されている箱形石棺と推測される50号墳では遺物の出土は見られなかった。また、今後増加するであろう開発事業に対処するため踏査を行った結果、この時点で総数67基を確認した。これらの中で内部主体が何らかの形で明らかになつていい



- |           |            |            |             |                |
|-----------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1. 古海古墳群  | 9. 八坂古墳群   | 17. 杉崎古墳群  | a. 山ヶ原道路跡   | i. 橋本道路        |
| 2. 徳尾古墳群  | 10. 陶原古墳群  | 18. 泽ノ井古墳群 | b. 芦瀬武跡     | j. 伊勢谷道路       |
| 3. 鈴山古墳群  | 11. 遠路古墳群  | 19. 住木古墳群  | c. 丹波魔寺     | k. 久末・古郡家道路    |
| 4. 面影山古墳群 | 12. 六郎山古墳群 | 20. 海藏寺古墳群 | d. 服部道路     | l. 大路川道路       |
| 5. 大路山古墳群 | 13. 藤木古墳群  | 21. 藤子谷古墳群 | e. 宮長竹ヶ鼻道路跡 | m. 牛山大池道路松ヶ谷地区 |
| 6. 稲本古墳群  | 14. 広畠古墳群  | 22. 牛山古墳群  | f. 西大路上石道跡  | n. 瓢子谷門上谷道路    |
| 7. 美和古墳群  | 15. 香取古墳群  | A. 古郡家1号墳  | g. 大路山道路    |                |
| 8. 古郡家古墳群 | 16. 龍山古墳群  | B. 六郎山3号墳  | h. 因幡國分寺跡   |                |

第1図 烏取市南東部遺跡分布図

る古墳は21基あり、箱形石棺3基、木棺直葬3基、横穴式石室17基という内訳になる。これら67基の古墳は、すべて後期を中心として築造された円墳と考えられていた。しかし、今回の調査ではさらに古墳総数が増え、また、これまで広岡古墳群では知られていなかった前期に遡る古墳や方形墳が検出された。広岡という現在の行政地域内に所在する古墳のあり方は一様でないことを改めて認識させられた。

#### 主要参考文献

- 梅原末治「因伯二間に於ける古墳の調査」『鳥取県史蹟勝地調査報告』第二冊 鳥取県 1924年  
古郡家1号墳調査団「美和古墳群」「ひすい」78~100号 佐々木古代文化研究室 1960~1962年  
『鳥取県史』第1巻 鳥取県 1972年  
「大路川遺跡調査概報」『鳥取市文化財報告書Ⅲ』鳥取市教育委員会 1978年  
「久末・古郡家遺跡発掘調査報告書」鳥取市教育委員会 1974年  
『津ノ井字符串遺跡・津ノ井40号墳』鳥取市教育委員会 1984年  
『広岡古墳群発掘調査報告書』鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団 1986年  
『鳥取県裝飾古墳分布調査概報』鳥取県教育委員会 1981年  
『改訂・鳥取県遺跡地図第一分冊』鳥取県教育委員会 1973年  
『鳥取県の古墳』鳥取県埋蔵文化財センター 1986年

### III 発掘調査の概要

#### 1. 調査古墳の概要

今回調査を実施した7基の古墳は、いずれも昭和48年刊行の『鳥取県遺跡分布地図』には記載されていない古墳である。このため発掘調査にあたってはそれぞれ広岡76・77・78・79・80・81・82号墳と呼称する。

この7基の古墳は、農地造成計画のほぼ中央に位置する。いずれも空山山塊から北側に派生する標高60mほどの丘陵に立地する。この丘陵は、76号墳西側の標高64mほどの主稜線頂部から東側に派生するもので、79~82号墳の立地するゆるやかな高まりで北東に向きを変える。いくつもの枝尾根を延ばしており、谷と尾根の入り組んだ複雑な地形を呈している。調査地は、広岡、船木集落から南に約300mほど入ったところにあたり、谷水田との比高差は約30mを測る。調査前の現況は、雜木を主体とした山林になっていて、近年は利用されていなかった。

7基の古墳は、3基と4基の二群に分かれ、それぞれ隣接して築造されている。

76~78号墳は、主稜線頂部からやや下がった尾根上に、高所から76・77・78号墳と隣接して順に築造された方形墳である。調査前は、墳丘の高まりもほとんど認められなかつたが、わずかに墳丘部が尾根の左右に張り出し直交する溝の部分がくびれた状況を呈しており、このことによって古墳の可能性が考えられた。古墳の築造された尾根の南側斜面は急傾斜で下るが、北側は比較的ゆるやかである。調査の結果76~78号墳の3基の古墳は、いずれも尾根に直交して直線状に掘削された掘り削り状の溝と、尾根斜面をテラス状に加工することによって区画された方形墳であった。墳丘盛土はそう多くはなされてはいなかつたものと考えられる。墳丘規模は一辺12m前後を測り、平面形はほぼ正方形に近い。中心になる埋葬施設はいずれも土師器転用枕を使用した木棺直葬であり、副次的な埋葬施設としては土器棺等が認められる。出土遺物は全体に少なく、土器としては土師器転用枕、土棺枕の他墳丘から少量の上師器細片が出土している。この他、鉄器(ヤリガンナ、鉄斧等)、装身具(勾玉)が出土した。

79~82号墳の4基は、主稜線頂部から西に派生する尾根が北側に屈曲する部分に位置する。この標高61mを測る頂部は、東西20m南北40m程度の比較的広い平坦な地形となっている。4基は、この丘陵頂部に隣接して築造された円墳群である。立木伐開前から墳丘状の高まりがいくつか認められ、古墳群であることは明らかであった。4基の古墳は、いずれも円形ないし弧状にめぐる周溝によって区画され、墳丘は盛土と地山の掘削によって造られている。墳丘規模は3基が11~12m、1基はやや小さいが7mである。中心になる埋葬施設は土師器転用枕を使用した木棺直葬であり、副次的な埋葬施設として箱形石棺、上器棺が認められる。出土遺物は76~78号墳と同様に少ない。土器として土師器転用枕、土器棺のほか墳丘からごく少量の上師器細片が出土している。このほか、埋葬施設に伴う副葬・供獻遺物として鉄器(ヤリガンナ、鉄斧、刀子等)、銅鏡、

装身具（勾玉等）が出土した。

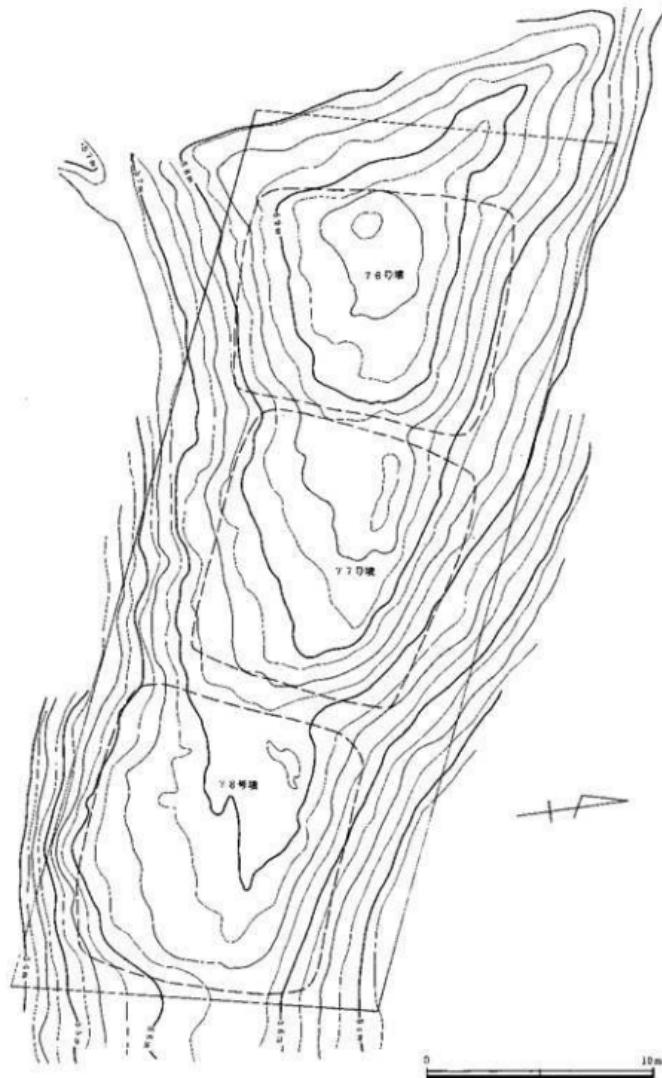
## 2. 広岡76号墳

広岡76号墳は、広岡77号墳の西側に隣接し、76-78号墳の一群の中では最高所に位置する方形墳である。3基の古墳の中では比較的保存状態が良いが、墳丘の西側を通る林道の切通し法面によって西側の溝の一部を切られている。調査前の現況は、墳丘東側の溝の部分にあたる尾根がややくびれ、墳丘北側の尾根斜面にテラス状の段が認められることなどによって古墳と判断することができた。

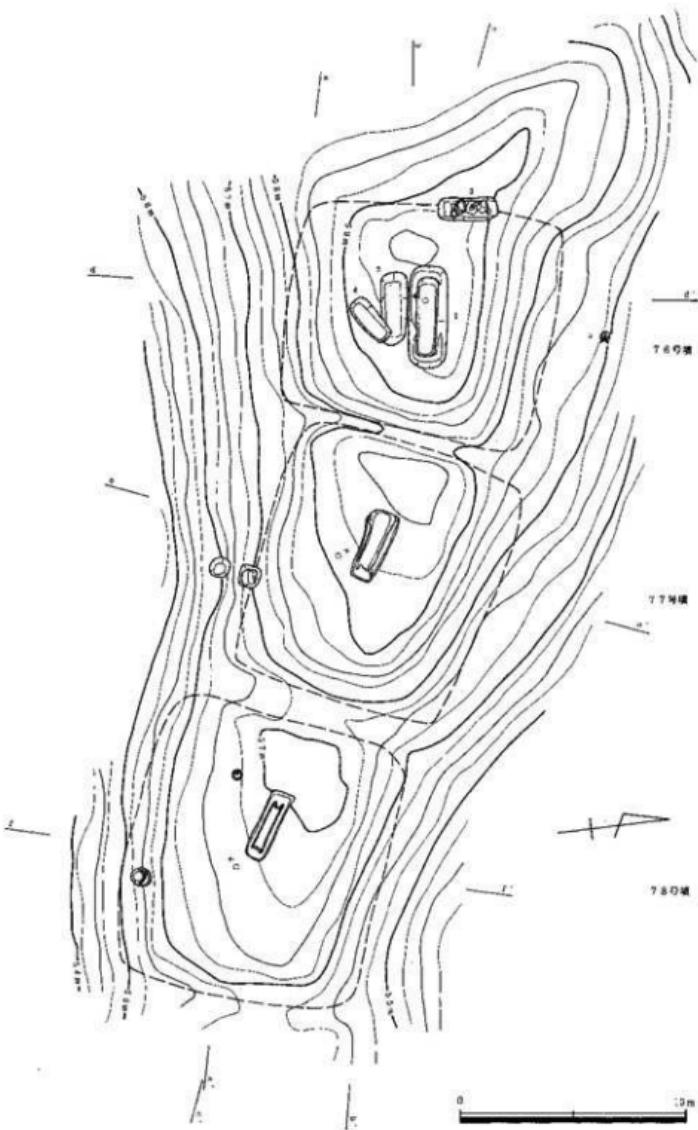
墳丘は、基本的に古墳の立地する尾根に直交して掘削された直線状の溝と尾根斜面を削平することによって造られたテラス状の段によって築造されている。盛土はわずかに認められるが墳形の整形に伴って施されたものと考えられる。東側の溝は隣接する77号墳の溝を掘削して設けられ、土層断面の観察では、幅1.2m、深さ0.4m程度である。77、78号墳に比べれば規模の小さいものとなる。遺存状態が悪く詳細は不明だが、西側の溝も同程度であろう。北側のテラスは比較的明瞭であるが、南側には明確な段状の地形は認められない。本米墳掘を画するテラス状の加工が南側斜面にもなされていたものか、現状では墳丘断面の観察によても明確ではない。墳丘規模は、これら墳丘の概を画する溝、テラス状の段によってほぼ東西10m、南北辺12m程度を測る方形墳と考えられる。墳丘の高さは北側墳裾から現状で約2.0mを測る。葺石等の墳丘外部施設は検出されなかった。墳丘からの出土遺物として各所から土師器の小片が出土しているほか、西側周溝底から杯部を失った高杯の脚部が出土している。このほか墳丘の表土除去作業時に磨製石斧が出土しているが、本古墳に伴うものではないだろう。

表土をはいだ墳頂部は、東側にやや傾斜するが平坦で方形を呈する。埋葬施設は、この平坦部から3基、西側の周溝内から1基、北側のテラス部から1基、合計5基検出した。

第1主体部は、76号墳のほぼ中心部から検出した。墓壙はやや隅の丸い長方形を呈しており、地山を掘り込んで造られている。主軸を東西にとり、尾根の稜線に平行である。墓壙は、二段に掘り込まれていて長軸4.71m、短軸1.73m、検出面からの深さ0.8mを測る。二段目の墓壙のテラス状の平坦部は、両端の小口部でははっきりしているが南北の長辺側は不明確で特に北側では傾斜角度の変換が見られるだけである。床面の規模は長さ3.2m、幅0.72mを測り平坦である。木棺は組合せ式のものと考えられ、床面に直接据えられていたものと考えられる。床面近くで南北の両側板の痕跡が認められた。この痕跡の観察から木棺の内法の幅は0.45mを測るものと考えられる。木棺長は、主体部上層から2m程度である。この第1主体部からは、土師器鼓形器台が2点、鉄斧1点、ヤリガンナが出土した。2点の土師器鼓形器台は、東西の両小口部からそれぞれ0.5m、1mの位置で出土しており、いわゆる土器転用枕と考えられる。東側の器台は受け部を上にして出土し、口縁部の打ち欠きがみられる。2点の器台は受部、脚部とも大きく外反し、接合部に棱を持つものである。東側の器台は器高9.7cm、受部径19.2cm、脚部径17.2cm、西側の

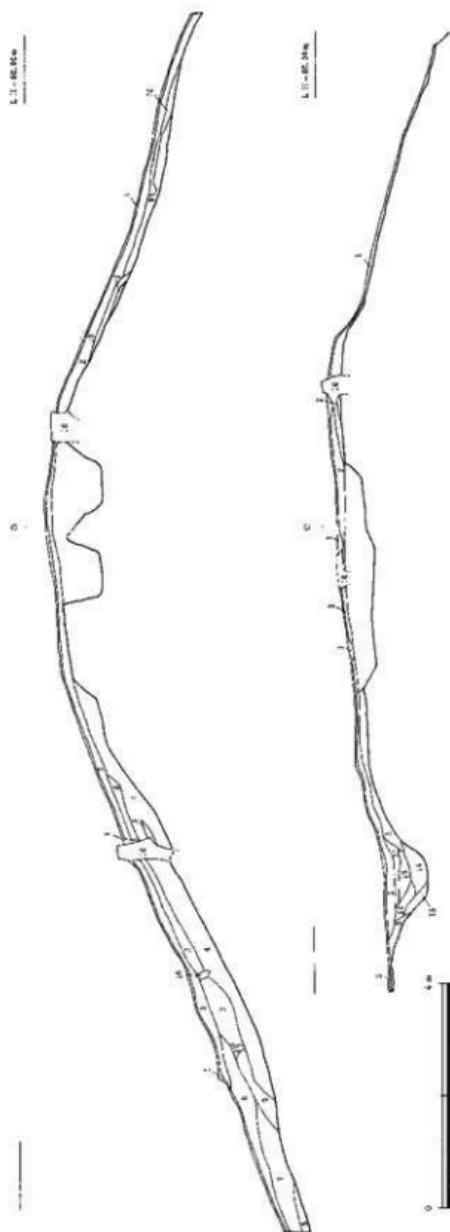


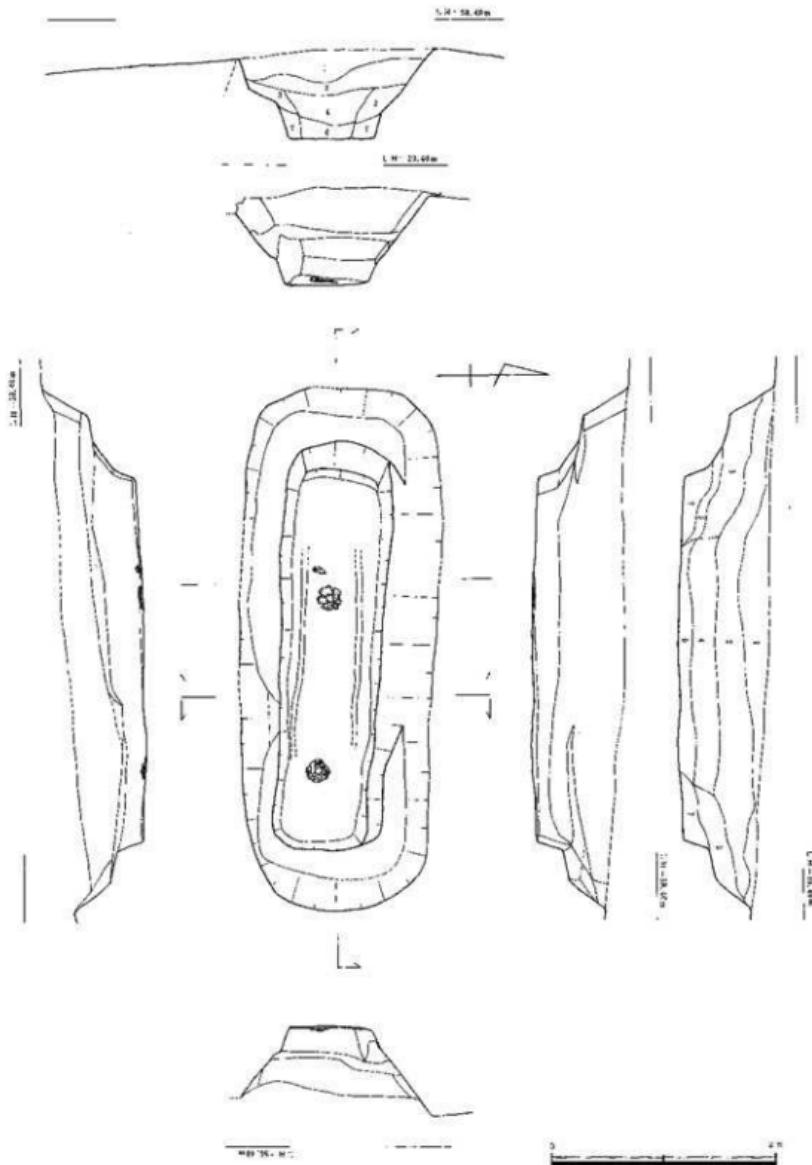
第2図 広岡76・77・78号塘地形実測図



第3図 広岡76・77・78号墳墳丘遺存図

第4図 広野76号埠塲丘断面図

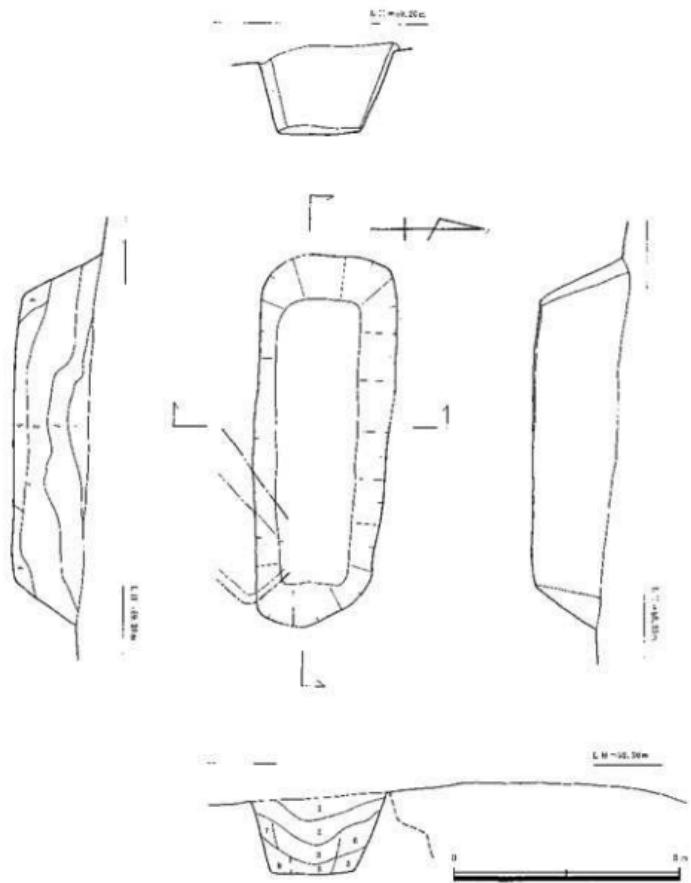




第5図 広岡76号墳第1主体部実測図

器台は器高9.1cm、受部径19.0cm、脚部径17.1cmを測る。東側出土の器台はこの2点の上器を枕として考えるならば、少なくとも2体の埋葬が行なわれたことになる。墓壙の土層観察からは一度の埋葬としか考えられず2体を同時にごく近接した時期に埋葬したものと推定される。鉄斧、ヤリガンナは、西側の器台の小口寄りから出土した。鉄斧は、柄の装着部が袋状になったもので、この装着部と刃部の間はわずかに幅を減ずるが段は持たない。全長10.0cm、刃幅3.8cmを測る。なお、ヤリガンナには断面四角形の鉄製品の一部が鏽によって接着しているが用途は不明である。

第2主体部は、第1主体部の南側に隣接していて検出した。墓壙は第1主体部と同様やや隅の



第6図 広岡76号墳第2主体部実測図

丸い長方形を呈しており、地山を掘り込んで造られている。主軸を東西にとり、尾根の稜線に平行である。墓壙は、長軸3.33m、短軸1.18m、検出面からの深さ0.7mを測り、床面は平坦である。第2主体部も第1主体部と同様に板材を組合せた箱形の木棺が据えられていたものと考えられる。木棺の規模は、断面観察から長さ1.6m、幅0.35m程度と推定できる。この第2主体部からは、土師器鉢形器台が1点、用途不明の鉄製品が出土した。土師器鉢形器台は西側小口部寄りから出土しており、いわゆる土器転用枕と考えられる。この器台も受け部を上にして出土し、口縁部の打ち欠きがみられる。第1主体部と同様受部、脚裾部とも大きく外反し、接合部に稜を持つものである。器高9.5cm、受部径18.0cm、脚部径16.6cmを測る。

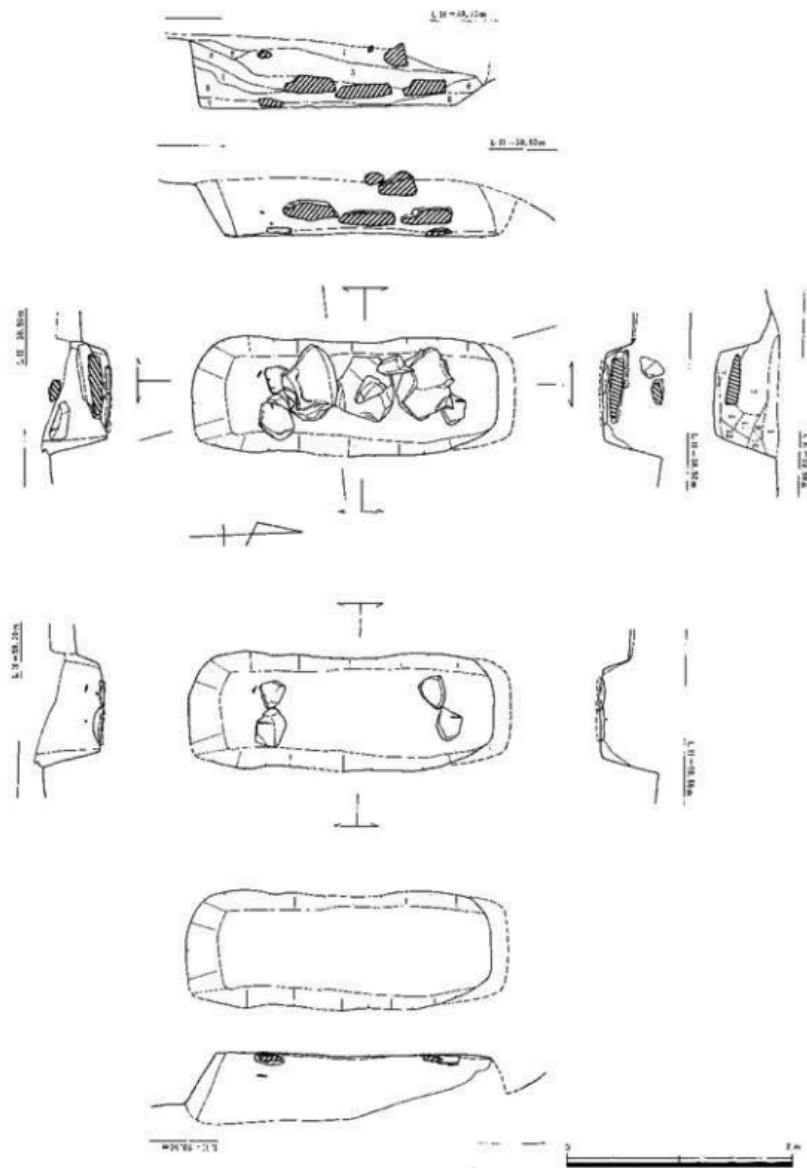
第3主体部は、西側の溝のやや北よりで検出した。墓壙平面は、長軸2.87m、短軸1.03mを測る長方形である。この墓壙に納められていた棺は、釘を使った木棺である。棺の上部は、長さ50cm程度の扁平な板石を3枚被せており、石蓋土壙状となっている。しかし、土壤肩部には石は掛かっていない。また、土壙底の両小口端に2個づつ計4個の人頭大の平石が検出された。棺台として使用されていたものと考えられる。この主体部の出土遺物として鉄釘4点がある。それぞれ棺台の石に乗るように墓壙の4方から出土した。釘は、断面四角形の角釘で、頭部は扁平で約90度の角度で折れ曲がっている。いずれも全長10cm程で木質が遺存している。この主体部は、鉄釘を使った木棺、木棺に被せた平石、そして棺台と古墳時代前半期には類例の少ないと思われる埋葬施設である。76号墳に伴う埋葬施設として考えられるものか、今後の類例の増加を待って検討する必要があろう。

第4主体部は、第2主体部と切りあって検出された。墓壙は、隅の丸い長方形を呈しており、長軸2.23m、短軸0.91m、検出面からの深さ0.5mを測る。主軸を南西~北東にとり、北東部が第2主体部と切りあう。墓壙の床面は平坦であるが、木棺が使用されていたかは定かでない。遺物は出土しなかった。

第5主体部は、墳丘北側のテラスで検出した土器棺である。複合口縁の壺が半裁された状態で出土しているが、墳丘の流失等によるものであろう。本来は横に寝かせた状態で埋納されていたものと考えられる。

【76号墳墳丘断面上層】 1. 橙褐色土 2. 橙黄褐色土 3. 暗橙黄褐色粘質土 4. 橙黄褐色粘質土(0.5~2cm大の礫を含む) 5. 明黄褐色土 6. 暗橙褐色土 7. 黑橙黄褐色土 8. 橙黄褐色土(0.5~1.5cm大の礫を含む) 9. 黑橙黄褐色土 10. 黄褐色土 11. 暗橙黄褐色粘質土(0.5~1cm大の礫を含む) 12. 橙褐色土 13. 黑褐色土(0.3~2cm大の礫を大量に含む) 14. 暗黄褐色粘砂質土(0.3~1cm大の礫を多く含む) 15. 暗黄褐色粘砂質土(14よりやや明るく礫はほとんど含まない) 16. 木根

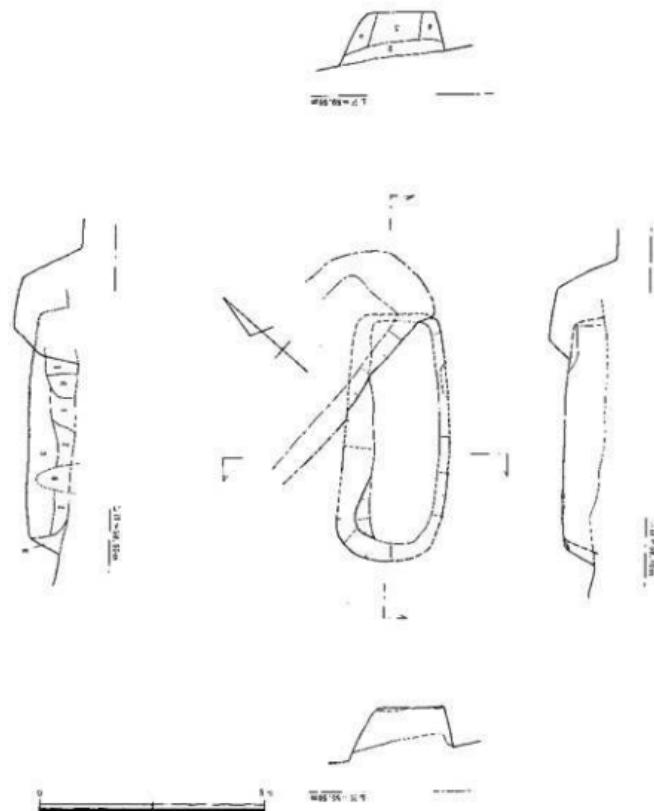
【76号墳第1主体部土層】 1. 暗黄褐色粘質土(礫を含む) 2. 橙黄褐色土(礫を多量に含む) 3.



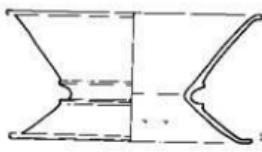
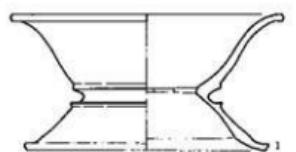
第7図 広岡76号墳第3主体部実測図

明橙黄褐色土（礫を多量に含む、4よりしまっている） 4. 明橙黄褐色土（礫をわずかに含む、3より礫の粒度は小さくやや暗い） 5. 橙黄灰褐色土（地山ブロックを含む、6よりしまっている） 6. 橙黄灰褐色土（地山ブロックをわずかに含む） 7. 橙褐色粘質土（礫を含む、しまっている）

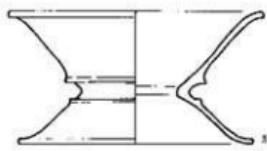
【76号墳第2主体部土層】 1. 明黄褐色粘質土（礫を含む） 2. 橙黄褐色土（礫を多く含む） 3. 明橙黄褐色土（礫を含む） 4. 黄褐色粘質土（地山ブロック及び礫を含む） 5. 橙褐色粘質土（地山ブロックを含む） 6. 橙黄褐色土（2よりやや暗くしまっている、地山ブロック及び礫を含む） 7. 暗橙黄褐色土（3よりやや暗くしまっている、礫を含む） 8. 暗橙褐色粘質土（しまっている）



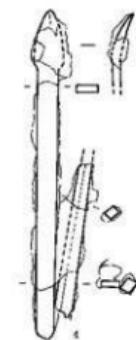
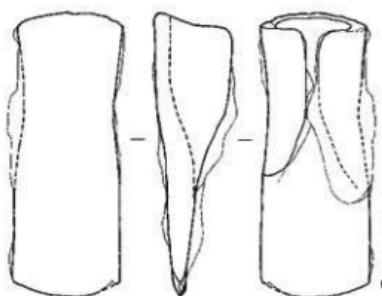
第8図 広岡76号墳第4主体部実測図



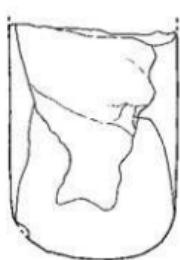
第1主体部



第2主体部

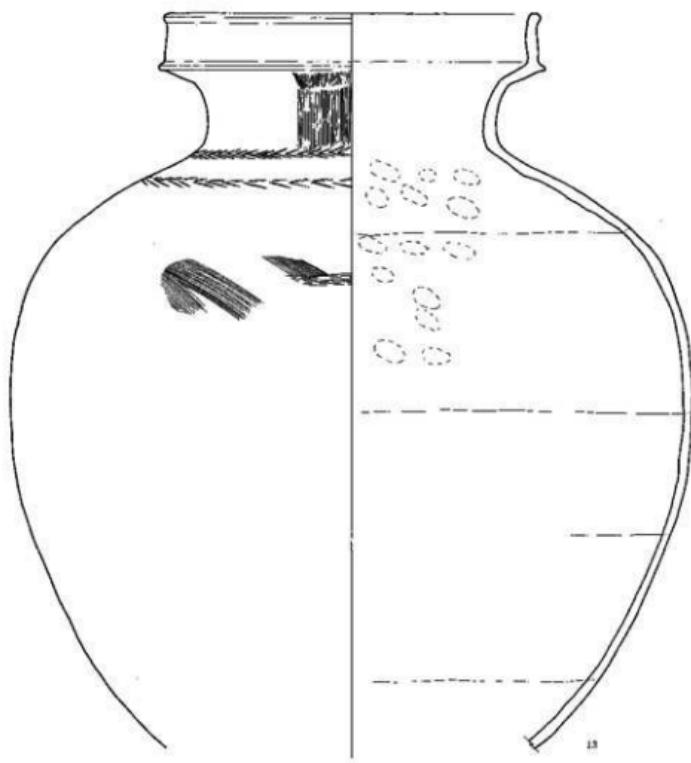


第3主体部

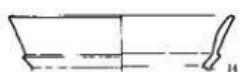


灰1

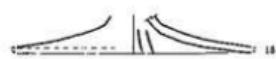
第9图 広岡76号出土遺物実測図(1)



第5主体部



墳丘



第10図 広岡76号墳出土遺物実測図(2)

【76号墳第3主体部土層】 1.淡褐色粘質土 2.褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 3.黒灰色粘質土(黄褐色土ブロック点在) 4.淡黃褐色粘質土(暗褐色土ブロックを含む) 5.暗褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 6.淡黄褐色粘質土(乳白色土ブロックを含む) 7.黄褐色粘質土(乳白色土ブロックを多く含む) 8.黒灰色粘質土(乳白色土ブロック点在) 9.褐色粘質土 10.暗褐色粘質土 11.暗褐色粘質土(黄褐色粘質土、乳灰色土ブロックを含む) 12.灰褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む)

【76号墳第4主体部土層】 1.茶褐色粘質土(1~2cm大の礫を多く含む) 2.黄褐色粘質土 3.淡黄褐色粘質土(0.5~1cm大の礫を多く含む) 4.暗褐色粘質土(1~2cm大の礫が点在) 5.暗黄褐色粘質土(0.5~1cm大の礫が点在) 6.木根

### 3. 広岡77号墳

広岡77号墳は、広岡76号墳の東側に隣接し、西側には78号墳が接する。調査前の現況は、墳丘東西の溝の部分にあたる尾根がややくびれ、中央がややふくらみを持っていた。墳頂部は、南側がやや下がるが平坦であった。

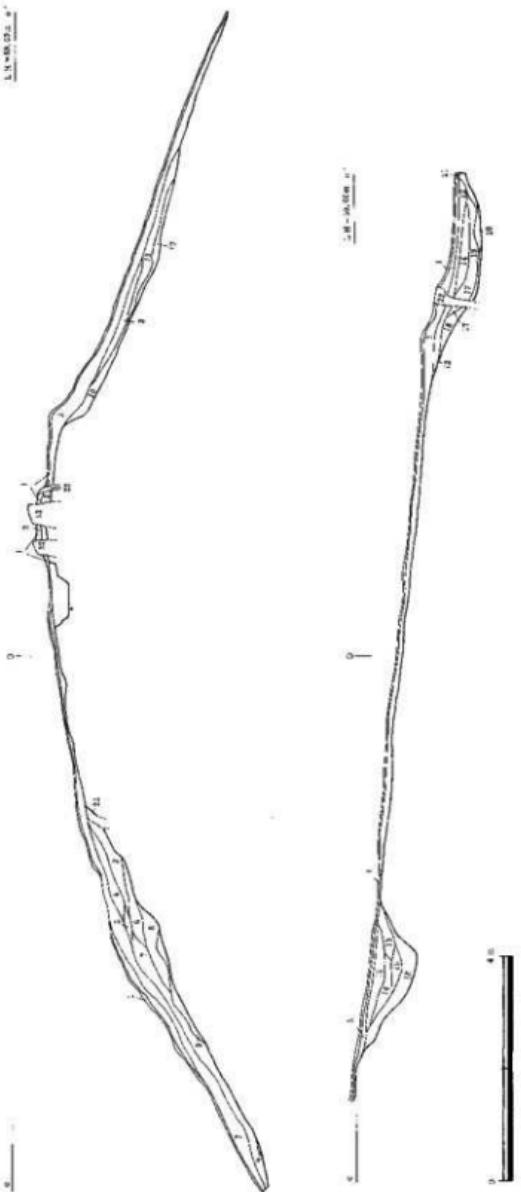
墳丘は、76号墳と同様に、基本的に古墳の立地する尾根に直交して掘削された直線状の溝と尾根斜面を削平することによって造られたテラス状の段によって築造されている。盛土はわずかに認められるが墳形の整形段階に施されたものと考えられる。東西の溝は、隣接する76、78号墳と重なる。北側のテラスは比較的明瞭であるが南側には明瞭な段状の地形は認められない。これら墳丘の縁を画する溝、テラス状の段によって東西12m、南北11mの墳丘規模を測るほど正方形の方形墳と考えられる。墳丘の高さは現状で2mを測る。葺石等の墳丘外部施設は検出されなかった。

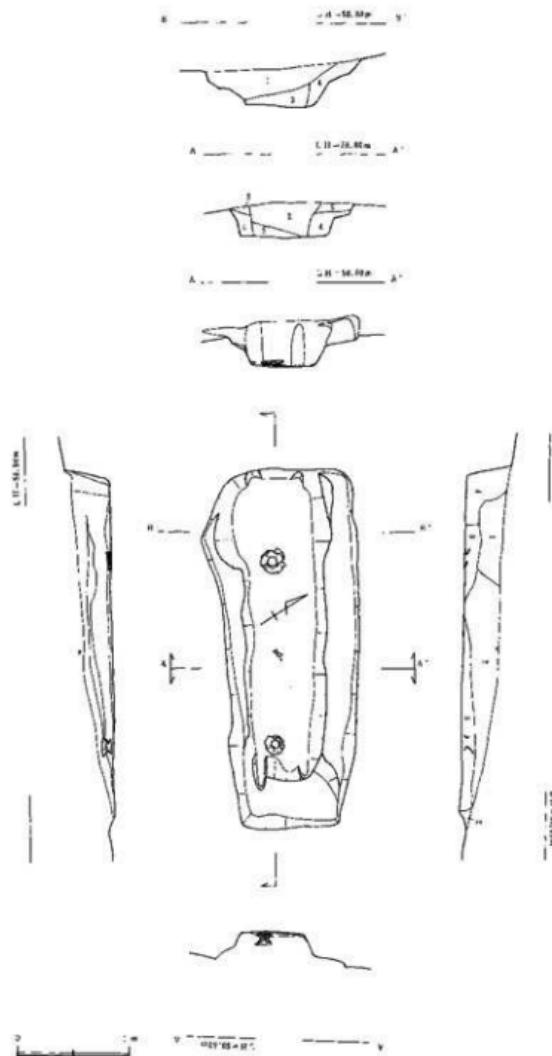
表土をはいだ墳頂部は、平坦で方形を呈する。埋葬施設は、この平坦部の中央から1基、検出した。

主体部は、77号墳のはば中心にあり古墳の東西辺に主軸をあわせるように設置しており、墓壙平面はやや隅の丸い長方形を呈している。地山を掘り込んで造られた墓壙は、長軸4.71m、短軸1.73mを測る。深いところで0.35mと検出面からの深さは、墳丘流失のためか浅い。床面は平坦である。木棺は、この床面に直接掘えられていたものと考えられる。木棺の構造は、木棺痕跡の検討から76号墳第1主体部と同様に板材を組み合わせた木棺と考えられ、小口板を両側板ではさみ込むものである。木棺痕跡から考えられる側板の長さは2.7mであるが、小口板は内側にはいるので棺の規模は2.2m、幅0.53m程度と考えられる。この主体部からは、土師器鼓形器台が2点、鉄製品が出土した。2点の土師器鼓形器台はそれぞれ両小口部から0.6mの位置から出土しており、いわゆる土器転用枕と考えられる。西側の器台は受け部を下にして、東側の器台は受け部を上にして出土した。また、口縁部の打ち欠きがともにみられる。この2点の土器を枕として考えるならば、76号墳第1主体部と同様に少なくとも2体の埋葬が行なわれたことになる。

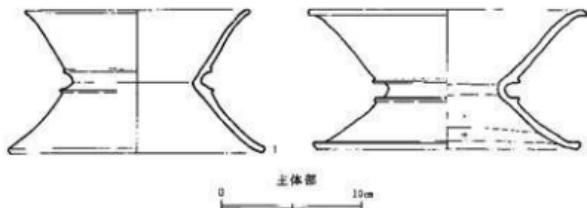
【77号古墳墳丘断面土層】 1.腐葉土 2.橙黄褐色土 3.暗橙褐色土(礫を含む) 4.淡橙褐色土  
5.淡黄褐色土(礫を含む) 6.橙黄褐色土(礫を含む) 7.黄褐色土 8.橙褐色土(礫を含む)  
9.橙黄褐色粘質土(礫を含む) 10.橙褐色粘質土(礫を含む) 11.黒橙黄褐色土 12.橙黄褐色土(1~1.5cm大の礫を含む、2よりやや暗い) 13.橙褐色土 14.暗橙褐色粘質土(0.5~1cm  
大の礫を含む) 15.黒褐色土(0.3~2cm大の礫を大量に含む) 16.明黄褐色粘砂質土(0.3~1cm  
大の礫を多く含む) 17.暗橙褐色粘質土(0.5~1.5cm大の礫を含む、14よりやや暗い) 18.橙褐色粘質土(0.5~1.5cm大の礫を含む) 19.灰褐色粘質土(0.3~0.5cm大の礫を含む) 20.暗灰褐色  
粘質土(1~2cm大の礫を含む) 21.橙黄褐色砂質土 22.木根

第11圖 広岡77号墳墳丘断面図





第12図 広岡77号墳主体部実測図



第13図 広岡77号墳出土遺物実測図

【77号古墳主体部土層】 1.暗黄褐色砂質土(礫を含む) 2.暗黄褐色砂質土(礫・地山ブロックを含む、1よりやや明るい) 3.橙黄褐色砂質土(礫・地山ブロックを含む) 4.明橙黄褐色粘質土(地山ブロックを多く含む) 5.橙黄褐色粘砂質土(礫・地山ブロックを含む、3よりやや明るい) 6.橙褐色土(地山ブロックを含む)

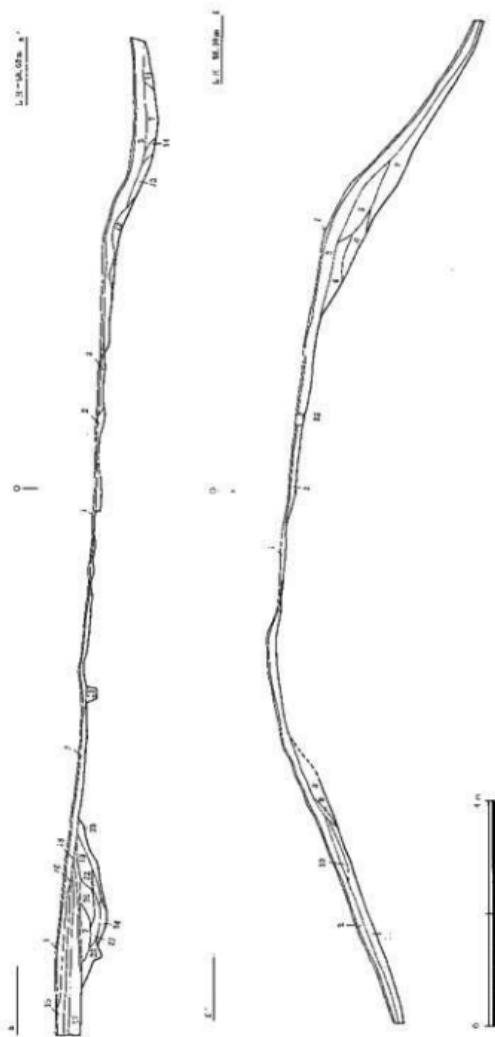
#### 4. 広岡78号墳

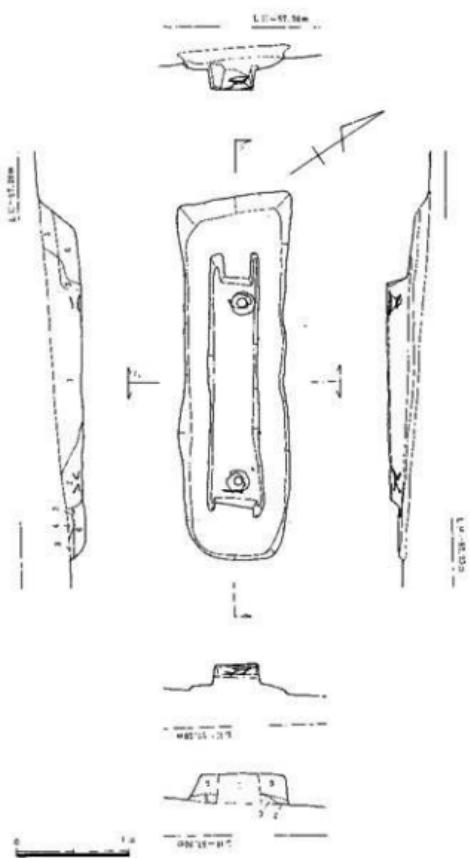
広岡78号墳は、広岡77号墳の東側に隣接し、西側の尾根の続きには79~82号墳の一群がある。77・78号墳に比べて埴丘の流失が激しいようで、地山の露出している部分も認められた。調査前の現況は、77号墳と同じように埴丘の東西の溝の部分がややくびれ、尾根中央部は、平坦なややふくらみを持った地形となっていた。

埴丘は、76号墳や77号墳と同様の方法によって築造されていたものと考えられる。78号墳も古墳の立地する尾根に直交して掘削された直線状の溝が検出された。しかし、76・77号墳と異なり尾根斜面を削平することによって造られたテラス状の段は明確ではない。埴丘の遺存状況によるものと考えられる。西側の溝は隣接する77号墳と共有する。埴丘規模は、ほぼ東西13m、南北11mを測る方形墳と考えられる。埴丘の高さは現状で1.5mを測る。葺石等の埴丘外部施設は検出されなかった。なお、埴丘の南側斜面には後世の土塙が2基検出されている。

表土をはいだ墳頂部は、平坦で方形を呈する。埋葬施設は、この平坦部の中央から1基、検出した。主体部は、古墳の東西辺に主軸をあわせるように設置されていて、墓壙平面はやや隅の丸い長方形を呈している。地山を掘り込んで造られた墓壙は、長軸3.24m、短軸0.88mを測る。検出面からの深さは、埴丘流失のためか浅く深いところで0.3mであり、床面は平坦である。木棺は、この床面に直接据えられたものと考えられる。木棺の構造は、板材を組み合わせた木棺と考えられ、木棺痕跡の検討から77号墳第1主体部と同様に小口板を長さ2.1m程度の両側板ではさみ込むものである。規模は、長さ1.9m、幅0.35m程度と考えられる。この主体部からは、土師器鼓形器台2点、ヤリガンナ2点、勾玉1点が出土した。2点の土師器鼓形器台はそれぞれ両小口部から出土しており、いわゆる土器転用枕と考えられる。77号墳とまったく同様に西側の器台は受

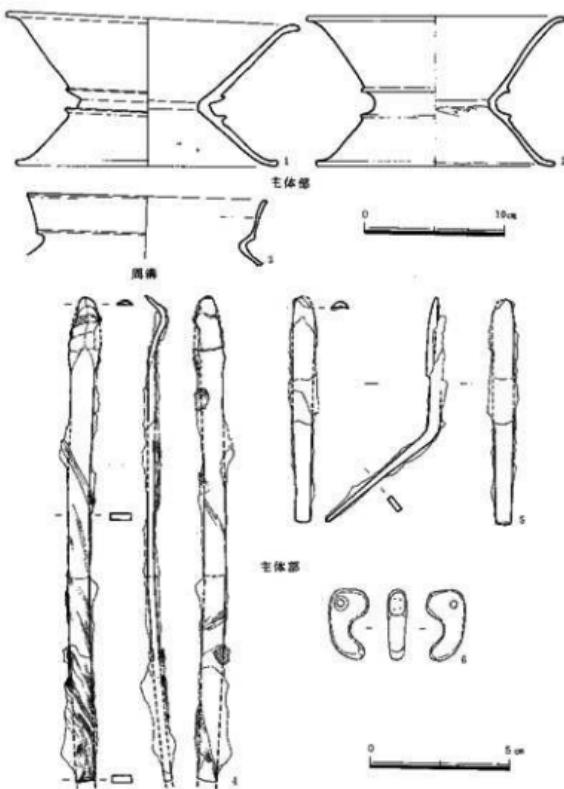
第14圖 広岡78号堆積丘断面図





第15図 広岡78号墳主体部実測図

け部を下にして、東側の器台は受け部を上にして出土した。また、口縁部の打ち欠きがみられることも同じである。この2点の上器を枕として考えるならば、76号墳第1主体部と同様に少なくとも2体の埋葬が行なわれたことになる。ヤリガンナは東側の器台の小口よりに重なって出土し、勾玉は東側の器台の北側から出土した。器台は、76、77号墳と同様の形態をしたものである。東側の器台は、器高10.6cm、受部径18.4cm、脚部径17.0cm、西側の器台は器高10.5cm、受部径20.8cm、脚部径18.6cmを測る。ヤリガンナは2点あり、大きさ形態がことなる。大きい方は刀部がややふ



第16図 広岡78号墳出土遺物実測図

くらむが小さいものは茎部からそのまま刃部となる。ともに意図的に折り曲げられたかのような状態を呈している。全長2.5cmのひすい製の勾玉は、扁平な造りで頭部が大きい。片面からの穿孔である。

【78号墳墳丘断面上層】 1.腐葉土 2.橙黄褐色土 3.暗黄灰褐色土 4.暗黄褐色土(砂礫を含む) 5.明橙黄褐色土(砂礫を含む) 6.暗橙褐色土 7.暗橙黄褐色土 8.明黄褐色土 9.暗橙褐色土 10.暗橙褐色土(よりやや暗い) 11.黒橙黄褐色土 12.黄褐色粘質土 13.橙褐色粘質土(0.3cm大の礫を含む) 14.淡橙褐色粘質土(0.3cm大の礫を含む) 15.橙黄褐色砂質土(0.1~0.5cm大の礫を含む) 16.明黄褐色砂質土(0.1~0.5cm大の礫を含む) 17.橙黄褐色粘質土(0.1~0.5cm大の礫を含む)

~0.5cm大の礫を含む) 18. 橙黄褐色土(0.5~1cm大の礫を大量に含む) 19. 暗橙褐色粘質土  
20. 暗橙褐色土 21. 黒橙褐色土(0.5~1cm大の礫を含む) 22. 橙褐色土 23. 暗黄褐色粘質土  
24. 黄褐色砂質土 25. 木根

【78号墳主体部土層】 1. 暗黄褐色粘砂質土(地山ブロックを含む) 2. 橙黄褐色粘砂質土(地山  
ブロックを含む) 3. 明黄褐色粘質土(地山ブロックを含む) 4. 橙黄褐色粘砂質土(地山ブロッ  
クを含む、2よりやや明るい) 5. 黄褐色粘質土(地山ブロックを含む) 6. 明黄灰褐色粘質土  
(地山ブロックを多く含む)

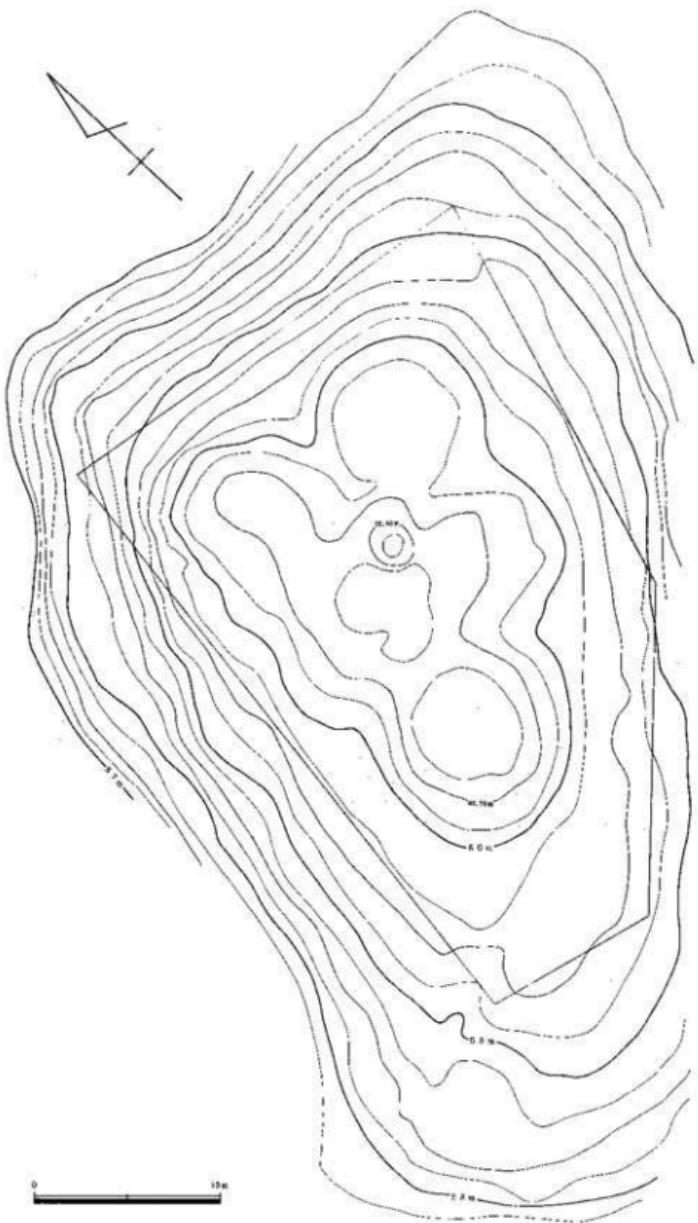
#### 5. 広岡79号墳

広岡79号墳は、広岡78号墳の東側50mに位置する。ここは、主稟線頂部から西に派生する尾根  
が北側に屈曲する部分で標高60m前後の平坦な高まりになっており、79~82号墳の一群が築造さ  
れている。広岡79号墳はこの一群の中では最も南側に位置する。北側は80分墳に接しているが、  
他の三方はゆるやかな斜面となっている。調査前の現況は、円形の比較整った墳丘状の高まりが  
あり、古墳と認識することは比較的容易であった。

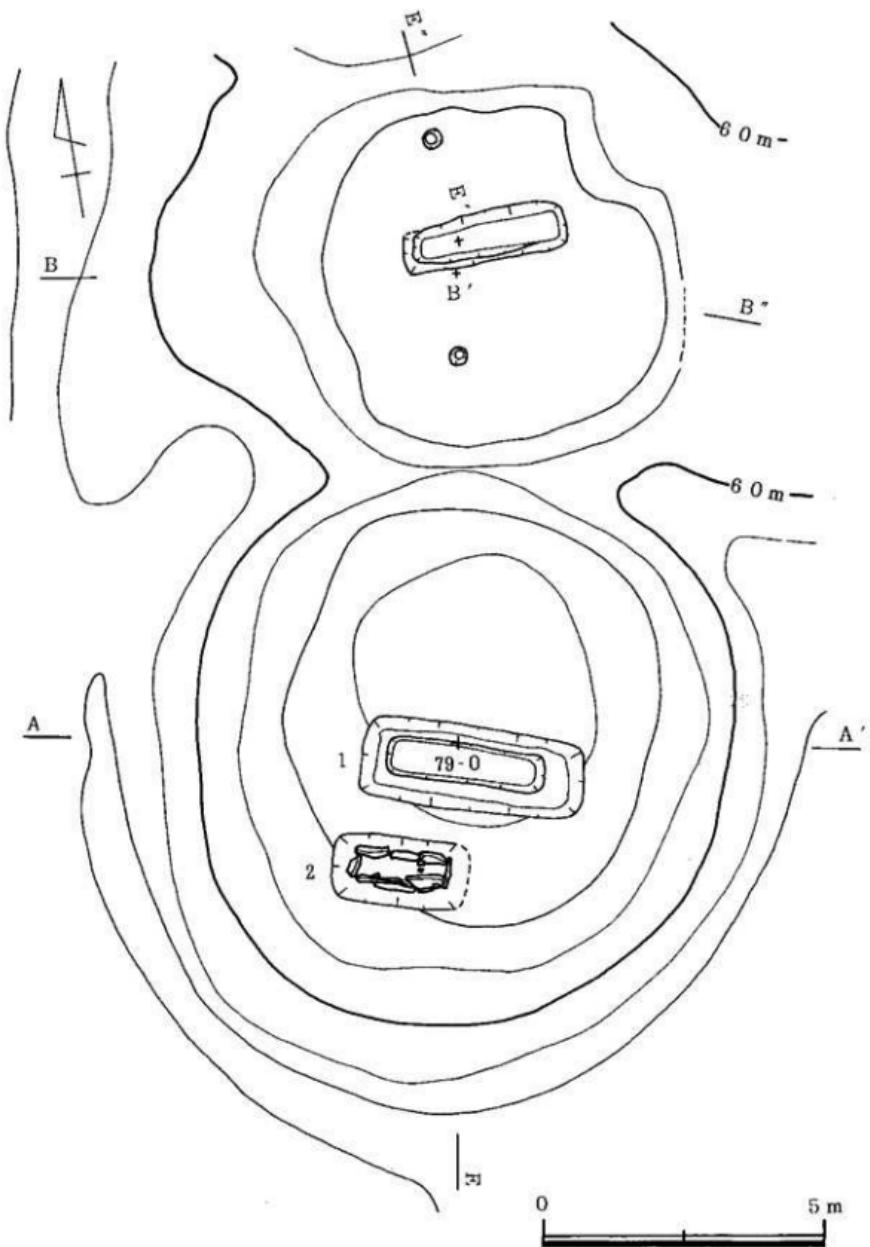
79号墳の墳丘は76~78号墳と異なった形態、築造方法をとっており、全周する円形の周溝によっ  
て区画され、墳丘の高まりは盛土によって造られている。周溝は、ほぼ真円を描くもので幅は2m  
内外を測り、深いところで0.3m前後を測る。断面はゆるやかな舟底状を呈する。盛土の最大高  
は0.6mである。以上のことから墳丘規模は、直径12m、高さは南側周溝底から約1.5mを測る。  
葺石等の墳丘外表施設は検出されなかった。墳丘等にかかる遺物として、周溝から出土した叩  
き石がある。長さ18cmの角柱状をした自然石で、両端に顯著な使用痕が認められる。

墳頂部は平坦で、中央部に並行して配置された埋葬施設を2基検出した。主体部は、北側の主  
体部を第1主体部、南側を第2主体部とする。

第1主体部は、木棺直葬と考えられるもので主軸をほぼ東西にとる。墓壙は、隅丸長方形の平  
面形を呈し、二段に掘り込まれている。上面の規模は、長軸3.95m、短軸1.45m、遺存する深さ  
は0.6mを測る。二段目は長軸2.75m、短軸0.67m、深さは0.13mを測る。床面は平坦で、東側  
小口端には長さ約0.4mの幅の狭い長方形の石材が据えられていた。木棺はこの石材を利用して  
床面に直接据えられたものと考えられるが、明確な構造は類例も少なく詳細は不明である。棺の  
規模は、上層断面の観察では長さ2.5m、幅0.4m程度であろう。この主体部からは、土師器鼓形  
器台、高杯が各1点、鉄斧1点等が出土した。西側の器台は小口部から出土しており、いわゆる  
土器転用枕と考えられる。器高11.6cm、受部径20.6cm、脚幅径19.3cm。脚部の欠損した高杯は、  
東小口の石材から0.6mの中央部寄りから出土している。口縁部が外反しながら立ち上がる杯部  
で、口径16.7cmを測る。転用枕の可能性も大きいが、他の可能性も検討する必要があろう。副葬  
品の鉄斧は、西側の器台と一緒に出土している。全長6.1cm刃幅3.5cmを測る小型の袋状鉄斧であ  
る。刃部はバチ状に開く。鉄斧と一緒に刀子の刃部が出土している。



第17図 広岡79、80、81、82号墳地形実測図

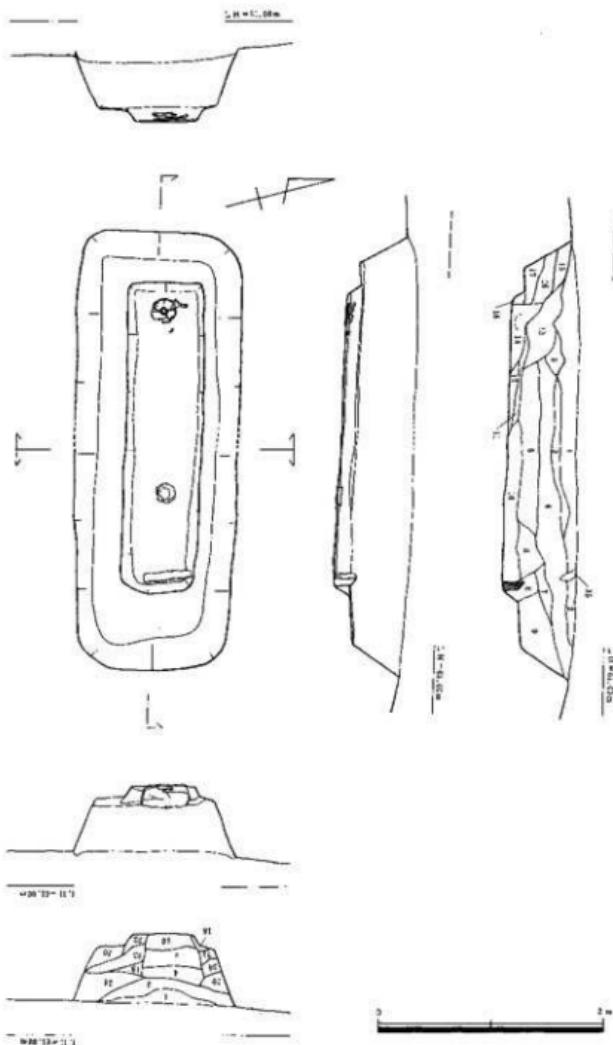


第18図 広岡79、80号墳墳丘遺存図

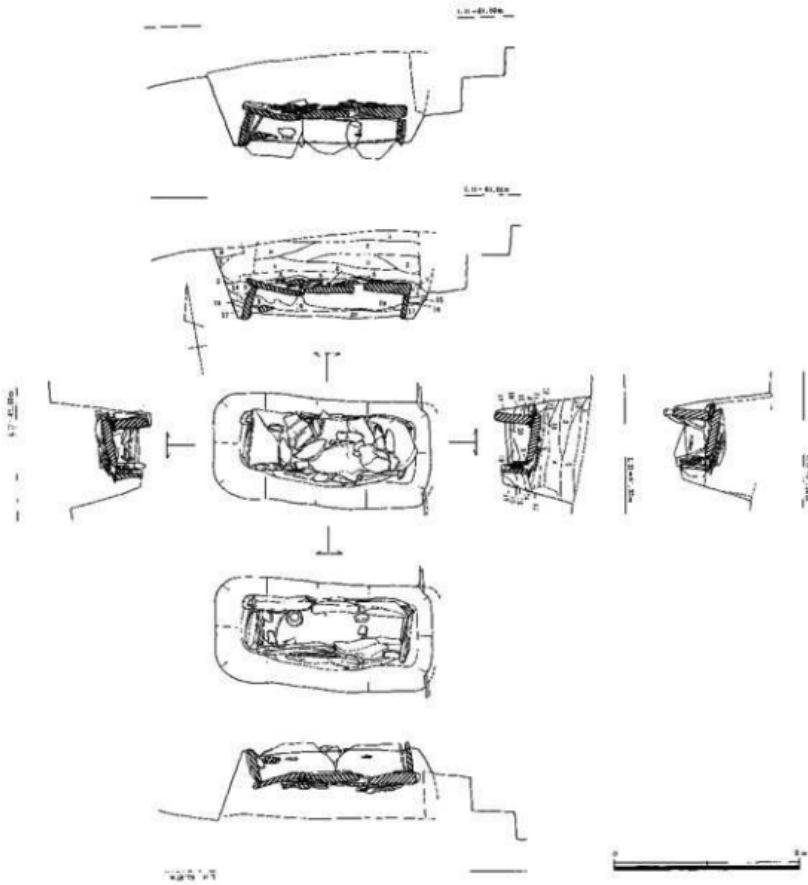
第2主体部は、第1主体部の南側に位置する箱形石棺である。主軸をほぼ東西にとり第1主体部の主軸方向に平行する。墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈しており、規模は、長軸2.45m、短軸1.2m、遺存する深さは0.85mを測る。四周の各壁は比較的急に掘り込まれている。また、底面には、棺材を据え置き、高さを整えるための溝が掘られている。石棺は非常に残りのよいもので棺材は完存していた。また、棺内への流入土も石材の継ぎ目に沿って見られる程度であった。蓋石は、まず3枚の比較的大きい不定形の板石を乗せ、その後こぶりの板石で隙間をふさいでいる。側板は、北側3枚、南側2枚で構成されている。小口との接合部分は南北で異なっており、南側では小山石材に挟まるが北側では端部を突き合わせる。側板を構成している各石材の接合は、重なりあわすそれぞれの端部を突き合わせている。また、各石材の接合部には、黄白色系の粘土で目張りが施されている。小口の石材はそれぞれ1枚で構成されており、敷石はみられなかった。なお、側板、小口の石材とも丸みのある自然石を利用している。石棺の規模は、床面内法で長さ1.6m、幅0.5m、深さ0.25mである。副葬品はみられなかったが、棺内から枕として使用した土師器の壺が1点出土した。この壺は口縁部を下にして置かれており、遺体の頭部が座りやすいように胸部から下半分を打ち欠いたものである。口径13cmのこの壺は、やや外反する複合口縁を持ち口縁部の稜は鈍い。

【79号墳墳丘断面上層】 1.腐葉土 2.橙黃褐色粘質土 3.暗橙黃褐色粘質土 4.黃褐色粘質土 5.暗黃褐色粘質土 6.黒褐色粘質土 7.暗黄色茶褐色粘質土 8.5と6の混合 8'.8と同じ(8よりやや暗い) 9.淡黒褐色粘質土 10.橙黄色粘質土 11.暗橙黃褐色粘質土(3~5mm大的礫を若干含む) 12.暗橙黃褐色粘質土(11より明るい、地山ブロックを含む) 13.暗橙黃褐色粘質土(11よりやや暗い、地山ブロックを12より少なめに含む) 14.明橙黃褐色粘質土(地山ブロックを密に含む) 15.淡黒黃褐色粘質土 16.暗橙黃褐色粘質土(11よりやや暗い、地山ブロックをわずかに含む) 17.黃褐色粘質土(4よりやや明るい) 18.暗橙褐色粘質土(3~5mm大的礫をわずかに含む) 19.暗黃褐色粘質土(5よりやや暗い) 20.淡黒黃褐色粘質土(15より暗い) 21.橙黃褐色粘質土(2より暗い) 23.暗褐色粘質土(黃褐色土ブロックを含む) ア.木根・木根による擾乱

【79号墳第1主体部土層】 1.黒灰色粘質土(2~4cm大的円礫点在) 2.暗褐色粘質土 3.暗黃褐色粘質土(淡黄色土ブロックを含む) 4.褐色粘質土(黃褐色土、暗灰色土ブロックを含む) 5.茶褐色粘質土(0.5~1cm大的礫点在) 6.黃褐色粘質土(乳白色土ブロックを含む) 7.茶色粘質土 8.暗黃褐色粘質土(しまっている) 9.褐色粘質土(黃褐色土ブロックを含む) 10.暗黃褐色粘質土(黃褐色土ブロックを含む) 11.明黃褐色粘質土(乳白色土ブロックを含む) 12.黃褐色粘質土 13.暗黃褐色粘質土(0.3~0.5cm大的礫を多く含む) 14.暗褐色粘質土 15.黃褐色粘質土(暗褐色土ブロックを含む) 16.黃褐色粘質土 17.明黃褐色粘質土(しまっている) 18.



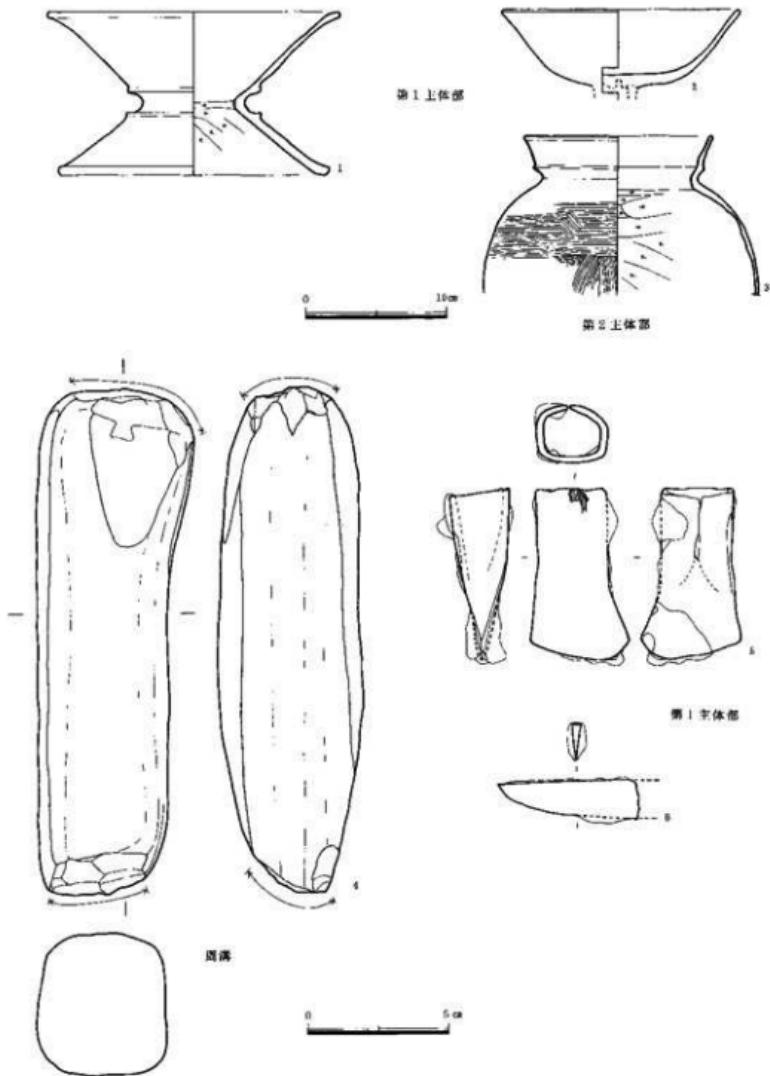
第19図 広岡79号墳第1主体部実測図



第20図 広岡79号墳第2主体部実測図

暗灰色粘質土(しまっている) 19.明黄褐色粘質土 20.黄褐色粘質土 21.褐色粘質土(しまっている) 22.明黄褐色粘質土 23.褐色粘質土 24.黄褐色粘質土(0.3~0.5cm大の礫を多く含む) 25.木根

【79号墳第2主体部土層】 1.暗褐色粘質土 2.黄褐色粘質土(1~2cm大の地山ブロックを含む) 3.暗黄褐色粘質土(1~3cm大の地山ブロックを多く含む) 4.褐色粘質土(密) 5.黄褐色粘質土(2cm大の乳白色土ブロック点在) 6.暗褐色粘質土(1cm大の地山ブロックを含む、



第21図 广岡79号墳出土遺物実測図

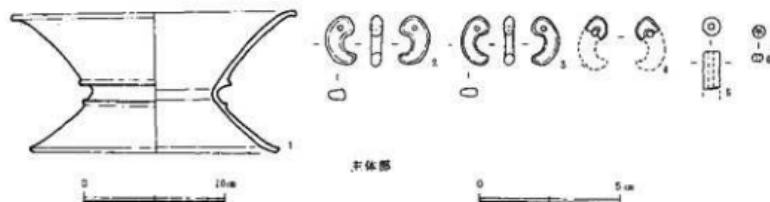
粗) 7. 黄褐色粘質土(密) 8. 乳白色粘土(目張り) 9. 暗黄褐色粘質土(乳白色土ブロック点在) 10. 褐色粘質土 11. 褐色粘質土(密) 12. 暗褐色粘質土 13. 明黄褐色粘質土(密) 14. 黄褐色粘質土(0.5~1cm大的乳白色土ブロック点在) 15. 暗黄褐色粘質土(0.5~1cm大的乳白色土ブロック点在) 16. 橙黄褐色粘質土 17. 明黄褐色粘質土(地山ブロックを含む) 18. 淡黒褐色粘質土 19. 暗黄褐色粘質土(流入土) 20. 暗黄褐色粘質土と0.1~2cm大的礫との混合土

#### 6. 広岡80号墳

広岡80号墳は、広岡79号墳の北側に位置する円墳である。南側を79号墳に、北側を81号墳に接していて79~82号墳の一群のはば中央部に位置する。平坦で墳丘状の高まりも少なく、比較的墳丘の明瞭な79、81号墳に挟まれていたため、調査前には古墳と確信することができなかった。墳丘の北東側には拔根によると考えられる攪乱穴が認められた。

80号墳の墳丘は基本的に79号墳と同様の築造方法をとっておるが、周溝は全周せず西側は、テラス状に削平して墳城を画している。墳丘の高まりは、周溝の掘削と地山の切削、そして盛土によって造られておりほぼ真円を描いている。流失等によって盛土は最大でも10cm強の厚さしか遺存していない。周溝の南北部分は、それぞれ79、81号墳の周溝を切って掘削されている。墳丘規模は、直径7m、高さは西側墳城から約0.5mを測るものと考えられる。蓋石等の墳丘外表施設は検出されなかった。

墳頂部は平坦で、中央部に配された埋葬施設を1基検出した。主体部は、木棺直葬と考えられるもので主軸をほぼ東西にとる。墓壙は隅丸長方形の平面形を呈し、上面の規模は、長軸2.80m、短軸0.85m、遺存する深さは0.58mを測る。床面は平坦で、長さ1.90m、幅0.45mを測る。この床面に板材を組合せた木棺が直接掘えられていたものと考えられる。主体部の土層断面の観察からは、長さ1.60m、幅0.38m程度と思われる。この主体部からは、土師器鼓形器台1点、勾玉3点、管毛、小毛各1点が出土した。鼓形器台はいわゆる土器転用枕と考えられ、東側小口部から中央部へ0.7mの位置から出土している。受部を上にし、墓壙中央に向いた受部の口縁に打ち欠きがみられる。器高10cm、受部径2.0cm、胸幅17.7cm玉類は、西側小口から30cmの位置に埋まって出土した。勾玉はひすい製で、完形の2点は長さ1.7cmである。管毛・小毛はガラス製である。

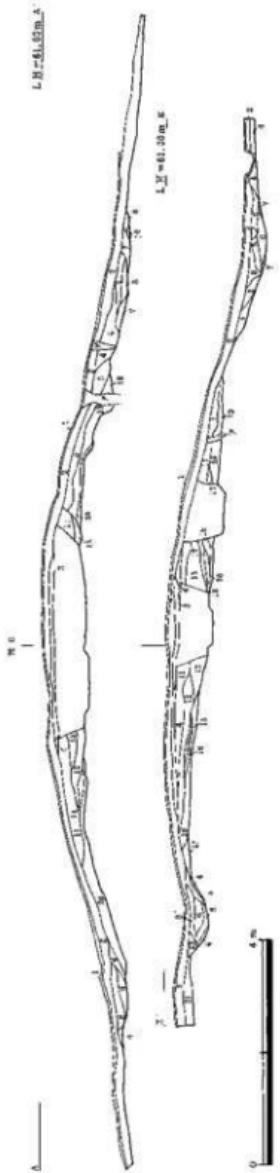


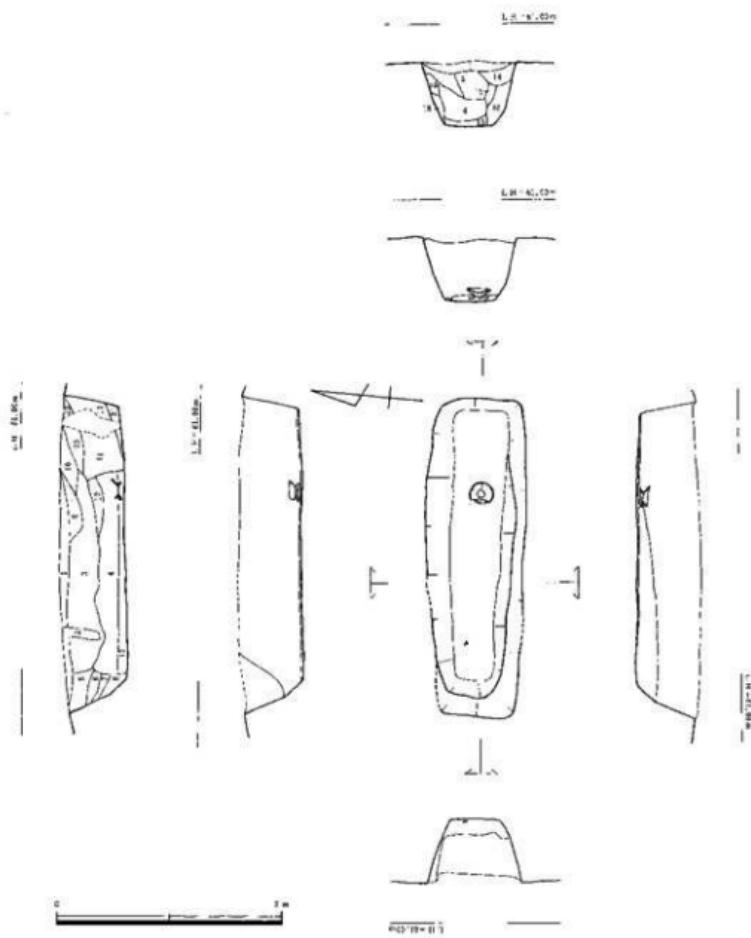
第22図 広岡80号墳出土遺物実測図

第24图 庆阳80号填埋丘断面图



第23图 庆阳79号填埋丘断面图





第25圖 广岡80号墳主体部実測図

【80号墳墳丘断面上層】 1.腐葉土 2.橙黄褐色粘質土 4.黄褐色粘質土 5.暗黄褐色粘質土  
6.黒褐色粘質土 8.5と6の混合 8'.8と同じ(8よりやや暗い) 12.暗橙黄褐色粘質土(11  
より明るい、地山ブロックを含む) 20.淡黒黄褐色粘質土(15より暗い) 21.橙黄褐色粘質土(2  
より暗い) 22.暗黄褐色粘質土(炭を含む) 23.暗褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 24.暗  
黄褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 25.暗灰色粘質土 26.黒灰色粘質土 27.暗褐色粘質  
土 28.暗黄褐色粘質土 29.黄褐色粘質土 30.暗黄褐色粘質土 31.褐色粘質土 32.暗黄褐色  
粘質土 33.暗灰褐色粘質土 34.暗褐色粘質土 35.褐色粘質土 36.灰色粘質土 ア.木根・木  
根による攪乱

【80号墳主体部土層】 1.暗灰色粘質土 2.暗褐色粘質土(根) 3.褐色粘質土(黄褐色ブロック  
を含む) 4.暗黄褐色粘質土 5.明黄褐色粘質土 6.暗褐色粘質土 7.明黄褐色粘質土(し  
まっている) 8.暗褐色粘質土(しまっている) 9.黄褐色粘質土 10.明黄褐色粘質土 11.黄  
褐色粘質土(しまっている、1~1.5cmの疊点在) 12.暗褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む)  
13.明黄褐色粘質土 14.明黄褐色粘質土 15.灰褐色粘質土(しまっている) 16.暗褐色粘質土  
(しまっている) 17.暗褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 18.明黄褐色粘質土 19.黄褐色  
粘質土 20.暗褐色粘質土(黄褐色ブロックを含む) 21.明黄褐色粘質土

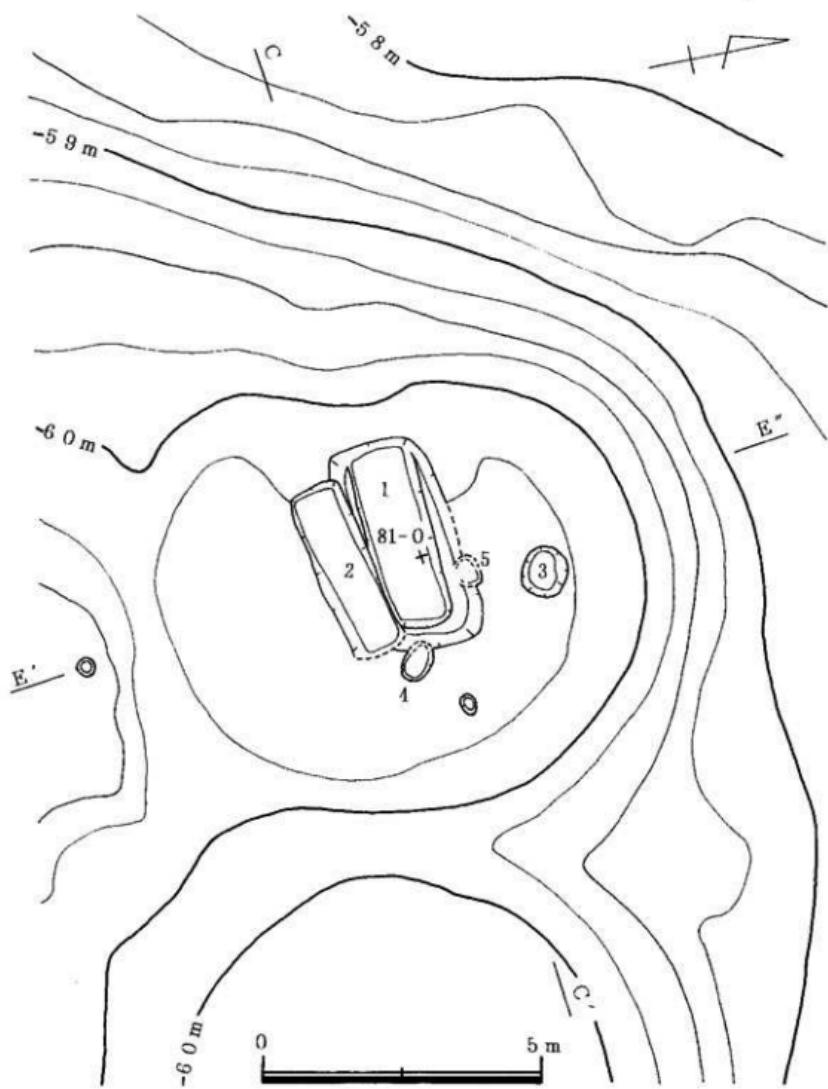
## 7、広岡81号墳

広岡81号墳は、79~82号墳の一群では最も北側に位置する。南側に80号墳が接し、東側には82  
号墳が接する。西側は丘陵斜面となっているが、北側はやや高度を下げたところで小さな尾根状  
を呈する。調査前の現況は、円形の墳丘状の高まりがあり、79号墳と同様古墳と認識することは  
比較的容易であった。

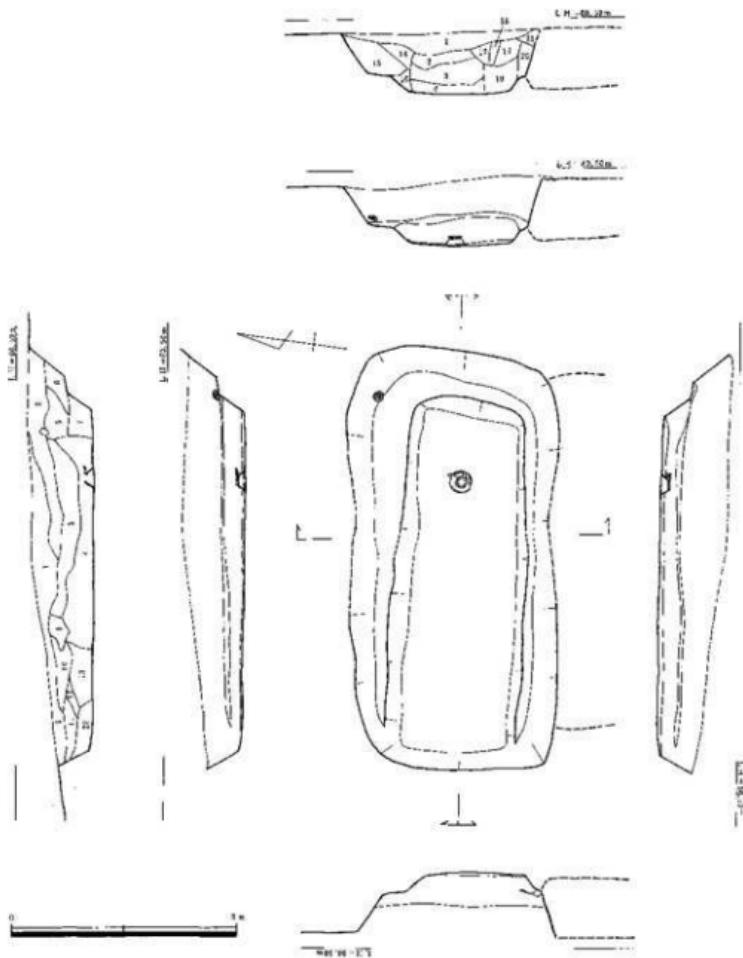
81号墳の墳丘は、80号墳と同様基本的に79号墳と同じ築造方法をとっている。周溝は全周せず、  
北及び西側はテラス状に削平して墳裾を画している。墳丘の高まりは、周溝の掘削と地山の切削、  
そして盛土によって造られており、ほぼ真円を描くものと考えられる。盛土は、流失等によつて  
あまり残っておらず最大でも約20cmである。周溝の南、東部分は、それぞれ80、82号墳の周溝に  
切られている。西側の墳裾のテラスは、明確ではないが後世の削平、流失によるものと考えられ  
る。墳丘規模は、直径11m、高さは北側墳裾から約1.5を測る。葺石等の墳丘外表施設は検出さ  
れなかった。

表土を剥いた墳頂部は平坦で、中央部に並行して配置された木棺直葬の埋葬施設を2基と土器  
棺3基を検出した。

第1主体部は主軸をほぼ東西にとり、墓壙は隅丸長方形の平面形を呈する。西側を除く三方は  
二段に掘り込まれている。上面の規模は、長軸3.70m、短軸1.70m、遺存する深さは0.55mを測  
る。二段目の床面は長さ3.00m、幅0.90mを測る。床面は平坦で、木棺はこの床面に直接据えら  
れていたものと考えられる。構造は板材を組み合わせた箱型の棺と思われ、土層断面の観察から



第26図 広岡81号墳墳丘遺存



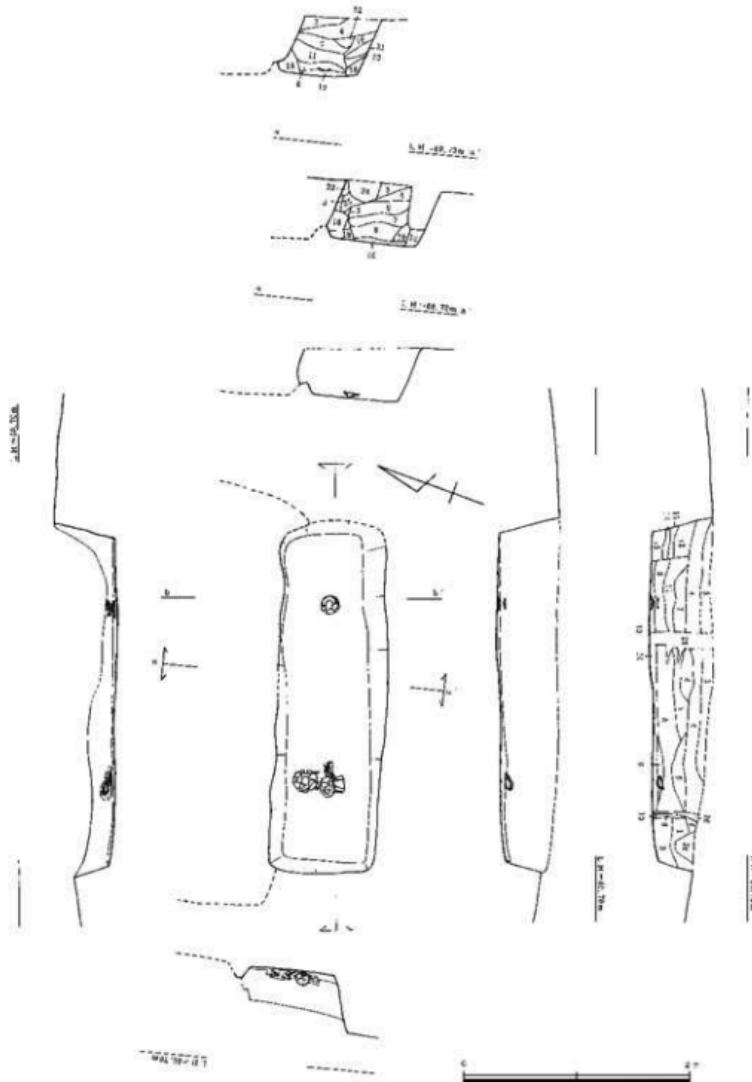
第27図 広岡81号墳第1主体部実測図

は長さ1.85m、幅0.63m程度の規模と推定できる。また、棺は北側及び東側に寄って埋納されていたと考えられる。この第1主体部からは、棺内の遺物として土師器の鼓形器台が1点、棺外から銅鏡が1面出土している。鼓形器台はいわゆる土器転用枕と考えられ、東側小口部から中央部へ60cmの位置で出土している。受け部を下にし、打ち欠きがみられる。銅鏡は、墓域北東部の一段の壁と墓壇中段のテラス部の接する隅の部分から出土した。鏡背を上に向け、墓壇中央部へやや傾いた状態で出土している。出土状態から、先にも記したように棺外に供獻された遺物と考えられよう。この面径9.5cmの小型の鏡は、六花文の内行花文鏡である。青銅製だが比較的の保存状態はよい。外縁は無文で一段高くなり、上方へ反りがみられる。櫛歯文、一列の珠文が廻り主文の内行花文となる。半円弧形の花文の間は、規則性を持ちながら大小二種の珠文が配される。珠文の内側は櫛歯文帯が廻ったちちゅうとなる。

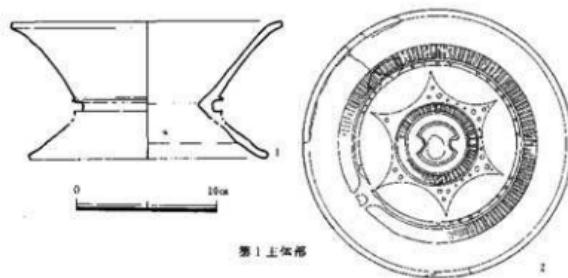
第2主体部は、やや角度を振って第1主体部の掘り方と切り合う。墓壇は隅丸長方形の平面形を呈する。検出面の規模は、長軸3.15m、短軸0.95m、遺存する深さは0.55mを測る。床面は長さ2.80m、幅0.72mを測る。床面は平坦で、木棺はこの床面に直接据えられていたものと考えられる。構造は板材を組み合わせた箱型の棺と考えられ、規模は上層断面の観察から長さ2.27m、幅0.45m程度と推定できる。この第1主体部からは、土師器鼓形器台2点、土師器壺1点、鉄斧、ヤリガンナ、刀子、錐等の鉄製品、ガラス小玉1点が出土した。鼓形器台は土器転用枕と考えられ、それぞれ東西の両小口から60cmの位置で出土している。西側の器台はやや北寄りに位置し、その南側からは長頸壺が出土した。鉄製品、玉類ともこの西側器台周辺から出土している。出土した器台は、2点とも受部と脚部を分けるくびれ部に棱を持つもので、西側器台は受部径16.5cm、脚部径15.9cm、器高9.5cmを測る。東のそれはやや小さく受部径14.4cm、脚部径14.7cm、器高8.5cmを測る。長頸壺は、球形の体部とやや外反しながら上方に延びる口頭部を持ち、口径12.5cm、全高20cmである。鉄斧は肩の無い袋状鉄斧で袋部端から刃先まで11cmを測り、刃幅は一部欠損しているが4.2cm程度であろう。元形のヤリガンナは中央部で曲がっているが、現状での長さは16.6cmである。先端部を欠いた錐は、茎部に木質が残る。茎部に目釘穴を持つ刀子は、全長9.1cm、刃部長6.9cm、刃幅1.1cmで刃部の断面形は楔形を呈する。この他もう1点用途不明の鉄製品が出土している。小玉は青色で径5mm、長さ6.5mmである。

第3主体部は、第1主体部の北側1mで検出した土器棺である。土器を埋納した土壤の平面形はややいびつな円形で、長軸0.86m、短軸0.74m、深さ0.37mを測る。この土壤には隙間なく、棺として使用された大型の土師器壺が口縁部をやや上向きに埋納されていた。口縁部は東に向かっている。蓋と考えられる土器、石等は検出されなかった。また、土器の中からも遺物は検出されなかつた。棺に使用された土器は、やや内傾ぎみの複合口縁と丸底を持つ土師器の壺で、肩部には刺突文が施されている。器高63.5cm、口縁部径27cm、胴径47.5cmを測る。

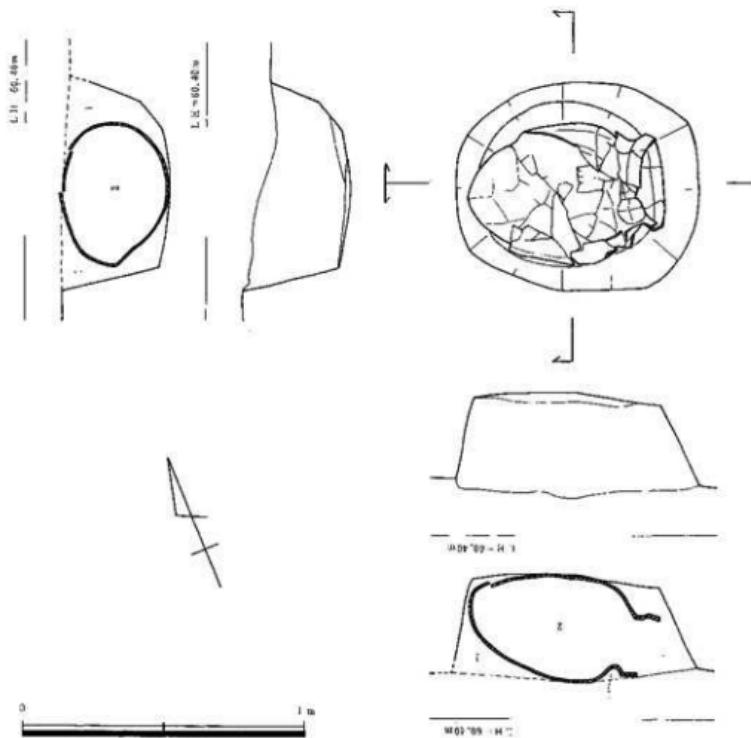
第4主体は、第1主体部墓壇の東側端部と切り合って検出された上器棺である。すでに墳丘盛



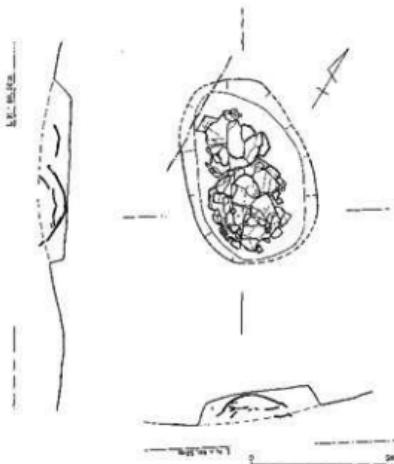
第28図 広岡81号墳第2主体部実測図



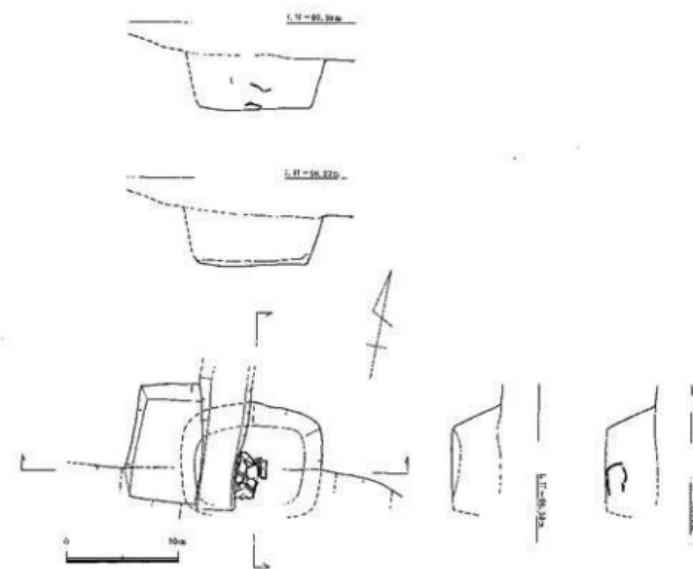
第29図 広岡81号墳第1主体部出土遺物実測図



第30図 広岡81号墳第3主体部実測図



第31図 広岡81号墳第4主体部実測図



第32図 広岡81号墳第5主体部実測図

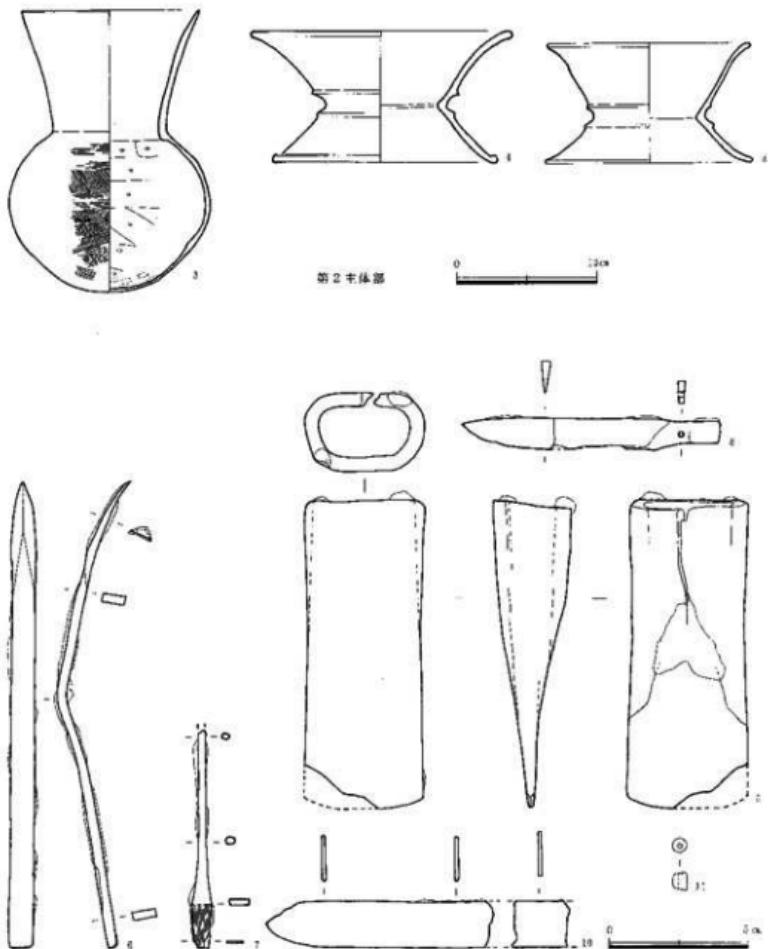
土の流失等によって、土壤上半が削平を受けており遺存状態はよくない。土壤の平面形はやや不整な楕円形で、検出時の規模は長軸0.66m、短軸0.45m、深さは0.10ほどである。土器もその多くを削平されていたが、遺存している土器から2個体の壺の口縁部を合わせて棺としたものと考えられる。

第5主体部も土器棺である。第1主体部墓壇の北辺部と切り合う。第1主体部の断ち割り調査時に検出した。土壤の平面形は隅丸方形をしており、規模は長軸0.6m、短軸0.5m程度と推定することができる。深さは約0.25mである。棺として使用されたと考えられる土器は土師器の壺である。

【81号墳丘断面土層】 1.腐葉土 2.橙黄褐色粘質土 20.淡黒黄褐色粘質土(15より暗い) 21.橙黄褐色粘質土(2より暗い) 22.暗黄褐色粘質土(炭を含む) 23.暗褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 24.暗黄褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 25.暗灰色粘質土 26.黒灰色粘質土 27.暗褐色粘質土 28.暗黄褐色粘質土 29.黄褐色粘質土 38.黄褐色粘質土 39.明橙黄褐色粘質土 40.褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 41.暗黄褐色粘質土 42.暗灰褐色粘質土 43.暗灰色粘質土 44.黒灰色粘質土 45.明黄褐色粘質土 46.暗黄褐色粘質土 47.黄褐色粘質土 48.暗褐色粘質土 49.暗黄褐色粘質土(炭を含む) 50.褐色粘質土 51.暗褐色粘質土 52.黄褐色粘質土 53.褐色粘質土 54.暗黄褐色粘質土 55.暗褐色粘質土 56.黄褐色粘質土 57.暗灰色粘質土 ア.木根・木根による攪乱

【81号墳第1主体部土層】 1.暗灰褐色粘質土 2.暗褐色粘質土 3.黄褐色粘質土(地山ブロック(明黄褐色土)を含む) 4.褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 5.暗黄褐色粘質土(しまっている) 6.明黄褐色粘質土 7.褐色粘質土(しまっている) 8.暗灰色粘質土(根による攪乱) 9.暗黄褐色粘質土(暗灰色土ブロックを含む) 10.褐色粘質土 11.明黄褐色粘質土 12.暗褐色粘質土 13.褐色粘質土(しまっている, 10よりわずかに明色) 14.暗褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む) 15.明黄褐色粘質土 16.暗黄褐色粘質土(よくしまっている) 17.明黄褐色粘質土 18.暗褐色粘質土 19.暗黄褐色粘質土(よくしまっている) 20.黄褐色粘質土 21.暗灰色粘質土 22.褐色粘質土

【81号墳第2主体部土層】 1.黄褐色粘質土(しまっている) 2.褐色粘質土(暗褐色土ブロックを含む、しまっている) 3.暗灰色粘質土 4.暗褐色粘質土(黄褐色土、ブロックを含む) 5.明黄褐色粘質土 6.暗褐色粘質土(4より暗い、0.2~0.5cmの礫を多く含む) 7.暗黄褐色粘質土 8.黄褐色粘質土(暗褐色土ブロックを含む) 9.灰黄褐色粘質土 10.明黄褐色粘質土 11.褐色粘質土 12.暗黄褐色粘質土(よくしまっている) 13.暗褐色粘質土(よくしまっている) 14.黄褐色粘質土(よくしまっている) 15.暗灰褐色粘質土(よくしまっている) 16.黄褐色粘質土(しまっている) 17.暗褐色粘質土 18.褐色粘質土(暗褐色土ブロックを含む、しまっている)



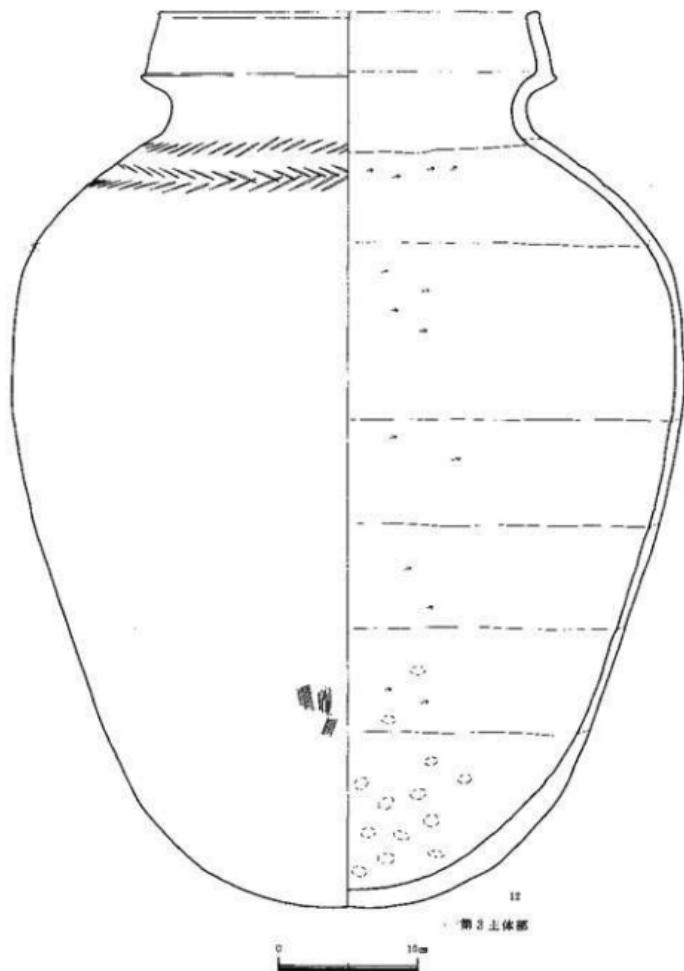
第33図 広岡81号墳第2主体部出土遺物実測図

- 19.褐色粘質土 20.明黄褐色粘質土 21.暗灰色粘質土 22.黄褐色粘質土(16よりしまっていない) 23.暗灰色粘質土(根による搅乱) 24.黒褐色粘質土(根による搅乱) 25.暗黄褐色粘質土(根による搅乱) 26.木根

【81号墳第3主体部上層】 1. 暗褐色粘質土 2. 暗褐色粘質土(1より細かく軟、少量の円錐を

含む)

【81号墳第4主体部土層】 1. 橙褐色粘質土

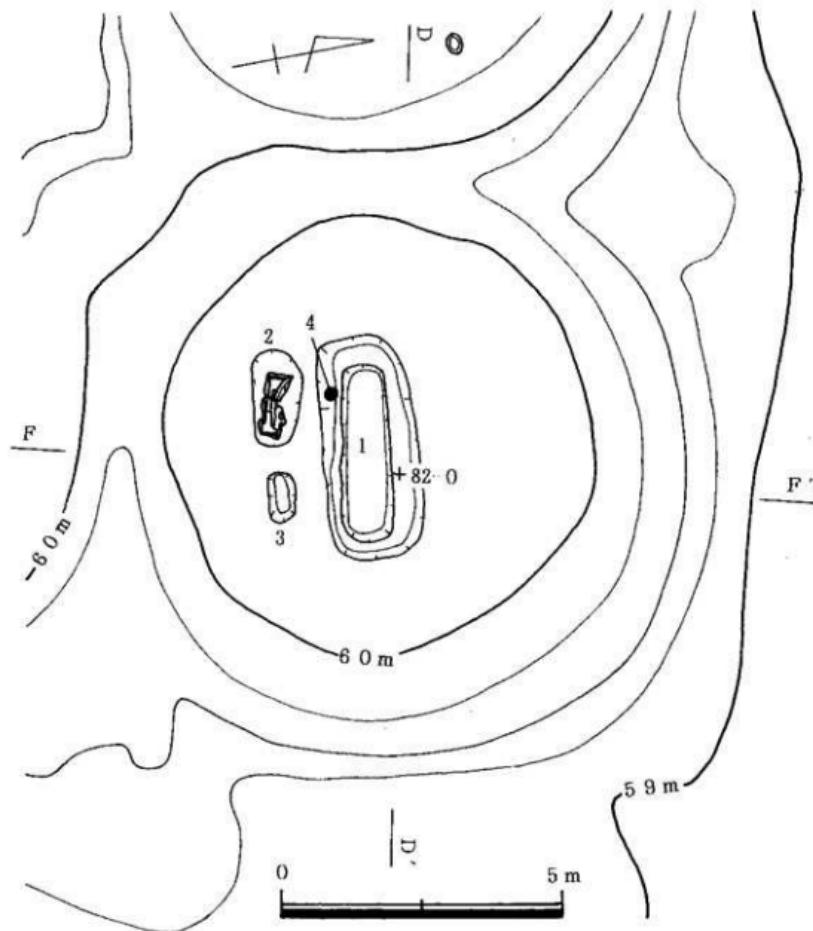


第34図 広岡81号墳第3主体部出土遺物実測図

### 8、広岡82号墳

広岡82号墳は、79~82号墳の一群の北東端に位置し、西側に81号墳が接する。東側は緩やかな丘陵斜面となって下っていくが、北側はやや下ったところで再び明瞭な尾根となって延びていく。調査前の現況は、円丘状の高まりがわずかに認められ、81号墳と同様古墳と認識することができた。

82号墳の墳丘は、基本的に79号墳と同様の築造方法をとっている。周溝は全周せず、北側はテ

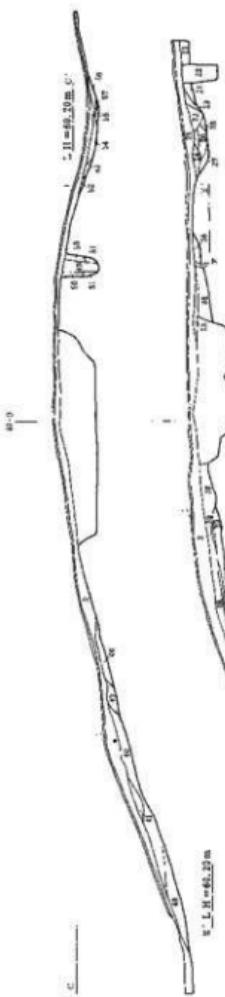


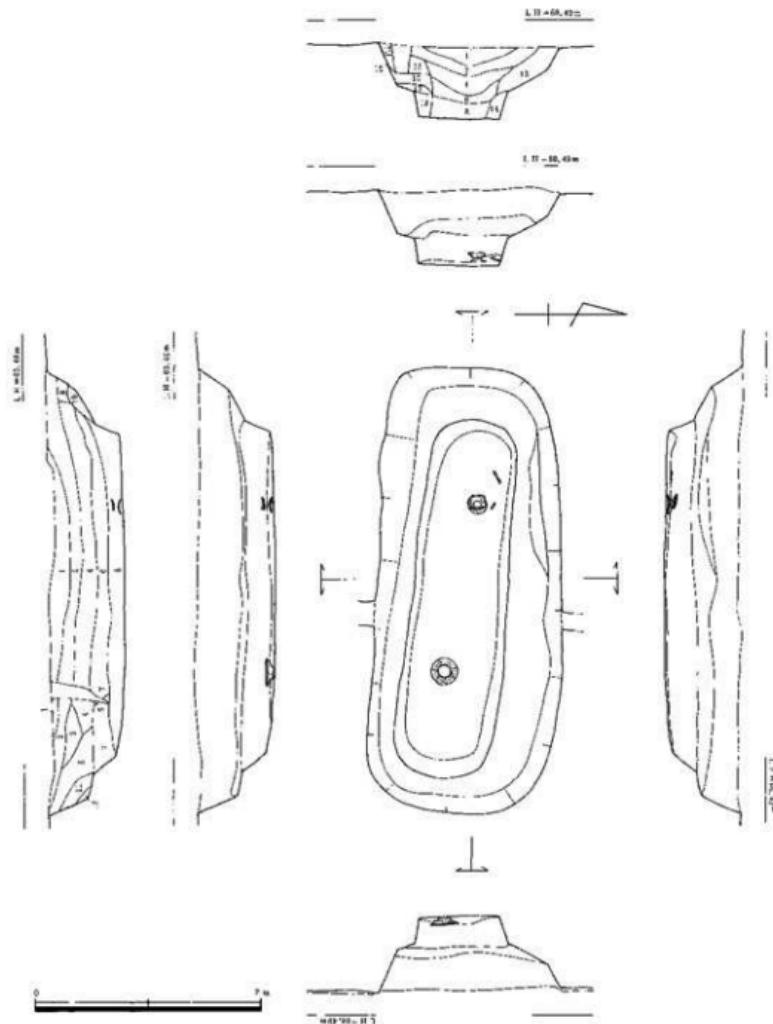
第35図 広岡82号墳墳丘遺存図

第374圖 廣開82號堆積丘斷面圖

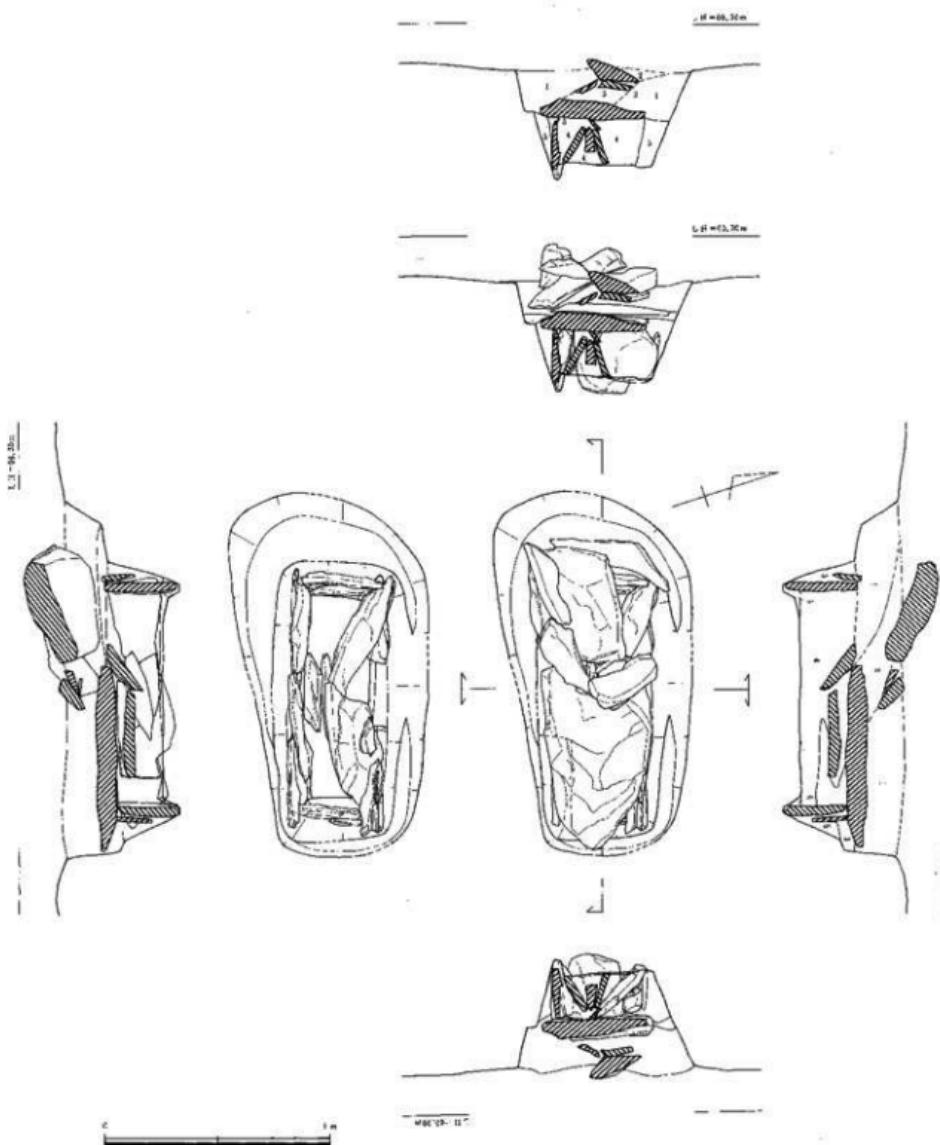


第364圖 廣開81號堆積丘斷面圖

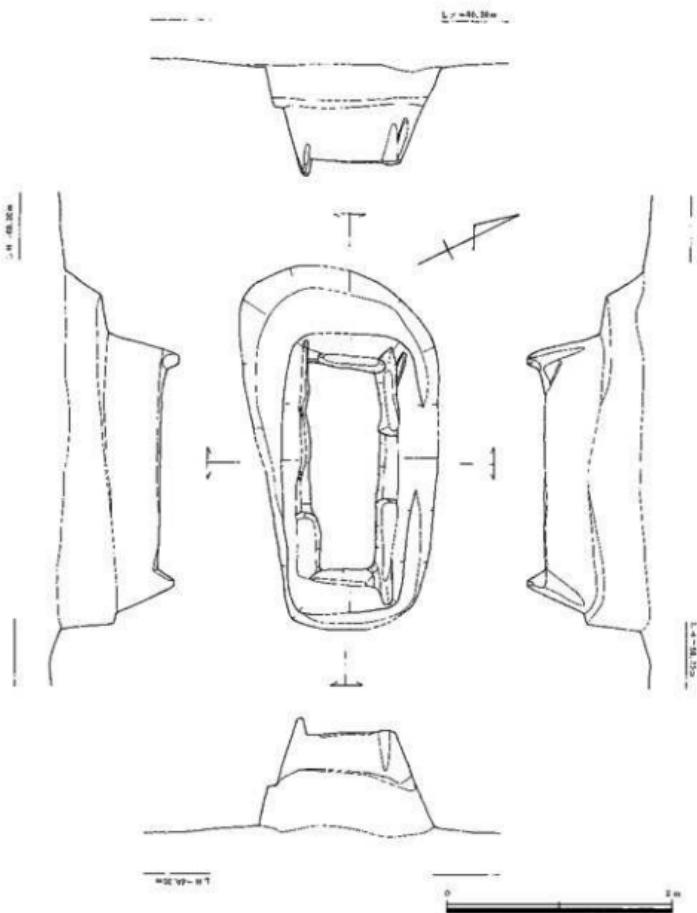




第38図 広岡82号墳第1主体部実測図



第39図 広岡82号墳第2主体部実測図



第40図 広岡82号墳第2主体部墓壙実測図

ラス状に削平して墳裾を画している。墳丘の高まりは、周溝の掘削と地山の切削、そして盛土によって造られており、ほぼ真円を描くものと考えられる。盛土は、流失等はよってあまり残っておらず最大でも約40cmである。周溝の西部分は、81号墳の周溝を切っている。墳丘規模は、直径11m、高さは北側埴縄から約1mを測る。埴石等の墳丘外表施設は検出されなかった。

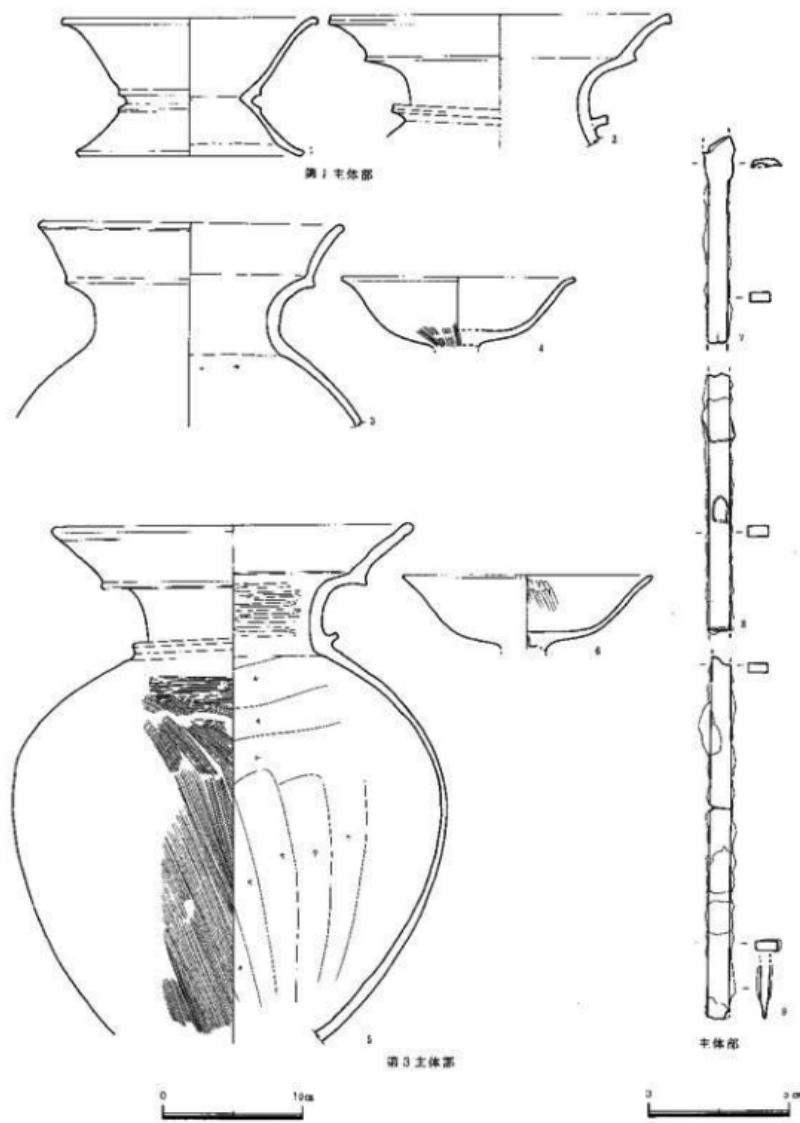
表土を剥いだ墳頂部は平坦で、中央部から木棺直葬の埋葬施設を1基と土器棺2基、箱形石棺

を1基検出した。

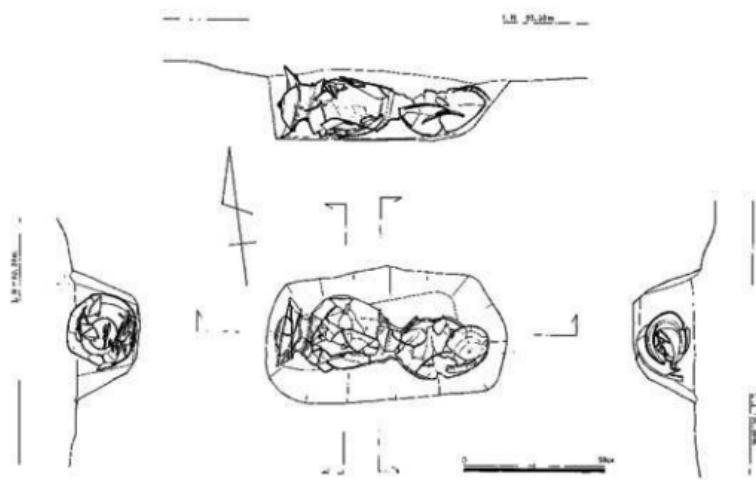
第1主体部は中央部から検出して木棺直葬と考えられる埋葬施設である。墓壙は主軸をほぼ東西にとり、東側がやや幅広の隅丸長方形の平面形を呈する。この墓壙は二段に掘り込まれており、中段にやや傾斜をもったテラスが残る。上面の規模は、長軸3.95m、短軸1.65m、遺存する深さは0.70mを測る。二段目の床面は長さ3.10m、幅0.80を測る。床面は平坦で、木棺はこの床面に直接据えられていたものと考えられる。構造は板材を組み合わせた箱型の棺と考えられる。土層断面の観察でも棺の長さははっきりしないが、ほぼ二段目墓壙の規模から長さ2.50m程度、幅0.50m程度の棺が棺が復元できよう。この第1主体部からは、土師器の壺、鼓形器台各1点、ヤリガンナ1点が出土した。壺、鼓形器台はいわゆる土器転用枕と考えられ、それぞれ小口部から中央部へ70cm、55cmの位置で出土している。器台は受部を上にし、打ち欠きがみられる。壺も肩部以下を打ち欠き口縁部端を上に向かって出土した。器台は、器高9.8cm、受部径18.2cm、脚幅径16.0cmを測る。主体部東側から出土した壺は、頸部に凸帯を貼付し大きく外反する複合口縁を持つ。口径は24cmである。西側の器台に近接して出土したヤリガンナは、刃部の一部を欠き3片に折れていたが本来1個体のものであろう。全長30cmほどに復元できる。莖部の先端は薄くなってしまい、断面形は楔形となる。北辺に寄りやや浮いた状態で出土しており、棺外に供獻された遺物であった可能性もある。

第2主体部は、第1主体部の南西側に位置する小型の箱型石棺である。主軸をほぼ東西にとり、第1主体の主軸方向に平行する。墓壙の平面形は、隅丸長方形を呈しており、規模は、長軸1.6m、短軸0.8m、遺存する深さは0.45mを測る。底面の四周には棺材を据え置き、高さを整えるための溝が掘られている。この石棺は棺材は揃っているが蓋石、南側側板石とも原位置を動いており、遺存状態はよくない。蓋石は、2枚の比較的大きい不定形の板石を乗せ、こぶりの板石で隙間をふさいでいる。側板も板状に削った石材を使用し、北側2枚、南側3枚で構成されている。側板を構成している各石材の接合は重なりあっている。小口との接合部分は南北とも同じで側板の石材で小口の石材を挟む。小口の石材はそれぞれ1枚で構成されており、敷石はみられなかった。石棺の規模は、床面内法で長さ0.95m、幅0.3m、深さ0.2mである。遺物は出土しなかった。

第3主体部は、第1主体部の南側0.6m、第2主体部の東側0.5mで検出した上器棺である。土器を埋納した土壙の平面形は不整な隅丸長方形で、長軸0.85m、短軸0.46m、深さ0.25mを測る。主軸は東西を向き第1主体部に並行する。この土壙に上器器の壺2点、高杯の杯部2点を組み合わせた土器棺が埋納されていた。一つの壺の口縁部に底部を打ち欠いた壺の胴部下半を合わせ横向きに置き、底部と口縁部を高杯の杯部で蓋をしたものである。遺物は出土しなかった。使用された壺は、外反する複合口縁を持つ中型の壺で1点は頸部に凸帯を廻らす。高杯はともに脚部を欠き、やや深い皿状の杯部を持つものである。壺の口径は、21.7cm、25.6cm、高杯の口径はそれぞれ16.5cm、17.6cmである。



第41図 広岡82号墳出土遺物実測図



第42図 広岡82号墳第3主体部実測図

【82号墳墳丘断面土層】 1.腐葉土 2.橙黄褐色粘質土 20.淡黑黄褐色粘質土(15より暗い)  
 54.暗黄褐色粘質土 55.暗褐色粘質土 56.黄褐色粘質土 57.暗灰色粘質土 58.褐色粘質土  
 59.黄褐色粘質土(地山ブロックを含む) 60.暗褐色粘質土 61.暗黄褐色粘質土 62.暗灰褐色粘  
 質土 63.暗褐色粘質土 64.黄褐色粘質土 65.暗黄褐色粘質土 66.暗黄褐色粘質土(地山ブ  
 ロックを若干含む) 67.橙褐色粘質土 68.黄褐色粘質土 69.暗黄褐色粘質土 70.暗灰色粘質  
 土 71.暗褐色粘質土 72.褐色粘質土 73.明橙黄褐色粘質土 74.暗黄褐色粘質土 75.明橙黄  
 褐色粘質土(3~5mm大の礫を含む) 76.暗褐色粘質土 77.暗黄褐色粘質土 78.暗黄褐色粘質  
 土 79.黄褐色粘質土 80.暗灰色粘質土 81.黑灰色粘質土 82.灰色粘質土 83.暗橙黄褐色粘  
 質土 ア.木根・木根による攪乱

【82号墳第1主体部上層】 1.淡黑黄褐色粘土 2.黄褐色土 3.暗黄褐色粘質土 4.橙黄褐  
 色粘質土 5.暗橙黄褐色粘質土 6.橙褐色粘質土 7.5と6の混合土 8.暗橙褐色粘質土  
 9.暗橙黄褐色粘質土(5よりやや暗い) 10.暗橙色粘質土 11.暗黄褐色粘質土(3よりやや暗  
 い) 12.暗黄褐色粘質土(11よりやや暗い) 13.暗黄褐色粘質土(3よりやや暗い) 14.明橙褐  
 色粘質土 15.黄褐色粘質土(2よりやや明るい) 16.明黄褐色粘質土 17.暗黄褐色粘質土(3より  
 やや暗い) 18.明橙褐色粘質土

【82号墳第2主体部土層】 1.暗橙褐色粘質土 2.橙褐色粘質土(黄褐色土を少し含む) 3.黄  
 褐色粘質土(橙褐色粘質土を含む) 4.黄褐色土と橙褐色土の混合土(流入土) 5.暗橙褐色粘  
 質土(黄褐色土をブロック状に少し含む)

## IV 小 結

今回発掘調査を行なった古墳は、空山山塊から派出する標高60m前後の小丘陵上に立地する7基の古墳である。山麓からの比高差は約30mである。尾根筋に並ぶこれら7基の古墳は、一辺12m前後の方形墳3基と辺10m前後の円墳4基とで、それぞれ小群をなしていた。以下、7基の古墳を概括し、今回の発掘調査のまとめとしたい。

### 古墳の配置

7基の古墳は、その位置関係から2地点に小群を形成している。76・78号墳は、主稜線頂部からやや下がった尾根上に、高所から76・77・78号墳と隣接して順に築造された方形墳である。79～82号墳の4基は、主稜線頂部から西に派生する尾根が北側に屈曲する部分の比較的広い平坦な頂部に隣接して築造された円墳群である。両者の小群とも周溝を切り合い、共有しながら隣接して築造されるが、後者の小群は前者の直線的な群構成と異なり平面的に構成される。

### 墳丘・周溝

墳丘は、後世の墳丘盛土等の流失・削平によって完全に遺存しているものはなかった。周溝や地山加工の段状テラスなどから推定される墳丘の規模は、方墳が一辺12m前後、円墳が直径11～12m前後の3基と直径7mの1基であった。墳丘規模の上で際立った格差は認められないといえよう。本来の墳丘高は不明だが、埋葬施設の検出面からの深さなどを勘案すれば、本来はもう少し高かったものと考えられる。3基の方形墳の墳丘築造は、いずれも尾根に直交する掘り割り状の溝と尾根斜面をテラス状に加工することによっておこなわれ、墳丘盛土はそう多くなされてはいなかったものと考えられる。79～82号墳の4基は、いずれも円形ないし弧状にめぐる周溝によって区画され、墳丘は盛土と地山の掘削によって造られている。なお、葺石、埴輪樹立等の墳丘外表施設は認められなかった。

### 埋葬施設

複数の埋葬施設を検出した古墳が4基、1基検出された古墳が3基であった。最も多かった古墳は、76号墳、81号墳の各5基である。76～78号墳、79～82号墳の両群とも、埋葬施設の主軸方位は、ごくわずかの例外を除いて東西方向である。土器棺もおむね東西方向をとっており、当時の埋葬に伴う方位観をうかがうことができる。調査古墳の埋葬施設は、木棺直葬、箱形石棺、上器棺等各種検出されたが、木棺直葬が優位である。箱形石棺は、円墳である79、82号墳から各1基づつ検出したが、いずれも規模、墳丘での位置などから副次的な埋葬施設と考えられる。今回の調査古墳の半数をなす埋葬施設は、墳丘に墓壙を掘り込み直接木棺を納めたものである。木棺の痕跡や墓壙の断面観察から墓壙に納められていた木棺は、板剣を側板で小口板を挟み込むように組み合わせた箱形の木棺と考えられる。棺を納めた墓壙は隅丸長方形をしており、長さ3m以上の大きな墓壙には中段にテラスを造り、2段に掘り込まれているものが多い。

今回の調査古墳で特徴的なこととしていわゆる土器の転用枕がある。10基の主体部で使用され、すべての古墳にみられる。使用器種は、器台、壺、甕、高杯があり、それぞれ13点、1点、1点、1点と器台が主体である。いずれも打ち欠きがみられる。両端の小口で1点づつ複数の枕が出土した出土した主体部は6基ある。このうち4基は2点とも器台を使用している。1点の出土のうち、79号墳第2主体部の箱形石棺だけは甕を使用する。2点とも器台を使用する主体部の場合、その内1点を天地逆に置く例が多く注目される。両端の小口で2点出土した主体部はいずれも木棺直葬であり、遺体の枕と考えれば1基の木棺への複数同時埋葬となる。今後、器台の出土状況を含め細かい検討をする必要があろう。

#### 出土遺物

今回の調査では、埋葬施設および墳丘・周溝へ出土している。後者からの遺物の出土は少なく、土器類は細片が多い。

埋葬施設からは、枕として使用された上器類のほか鉄製品、銅鏡、玉類が出土した。鉄製品は、ヤリガンナ、鉄斧、刀子、鍤等の工具類に限られ、武器類は出土していないことが特徴であろう。82号墳のヤリガンナはもう少し検討する必要があるが、いずれも埋葬された遺体の頭部が位置すると考えられる土器枕周辺から出土している。銅鏡は、81号墳第1主体部の棺外から出土している。検討していないが、このような位置で出土した類例は少ないであろう。日本列島内で鋳造されたと考えられ、鏡背の紋様から内行花文鏡と呼ばれる鏡である。玉類には、勾玉、管玉、小玉があり、前者はいずれもひすい製で、後二者はガラス製である。79号墳周溝から出土した叩き石は、石棺構築時の石材加工の工具と考えられ、石棺等を埋葬施設に採用する古墳に類例が増加しつつある。

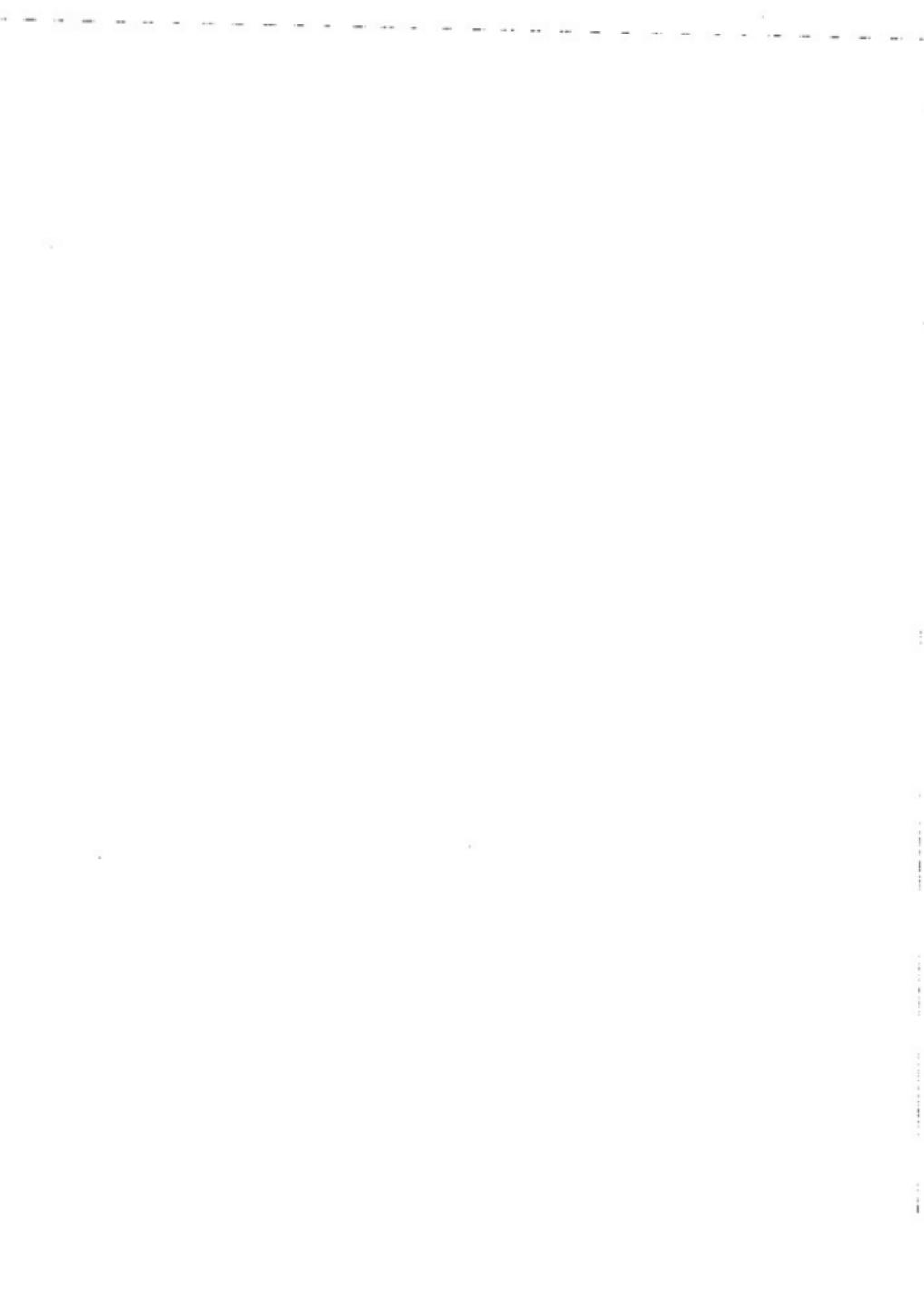
#### 築造時期

7基の古墳は、方形墳、円墳で構成する二つの小群に分かれる。この二群は、それぞれ小群ごとに墳形、規模、築造方法、埋葬施設、上器転用枕、主体部主軸方向、出土遺物等に齊一性と同質性を見ることができ、築造時期に大きな隔たりがあると考えがたい。しかし、小群間には上器転用枕、主体部主軸方向、出土遺物を同じくしながらも、墳形、築造方法、箱形石棺の採用等いくつかの異なる点がある。76~78号墳は弥生時代からの伝統的な墳形をとり、79~82号墳はこの時期始めて採用される円形の墳丘を採用し箱式石棺をとりいれている。このような観点からすれば、76~78号墳の小群から79~82号墳の小群へという移り変わりをみることができる。しかしながら、土器の編年観やその他の要素を評価すれば、単純に76~78号墳から79~82号墳へという図式は考えがたく、ある時期は重複して築造されたと考えることが自然であろう。この両群の墳形等の違いは、むしろ各小群に埋葬された被葬者の出自、系譜等に深く関わるものと考えたい。

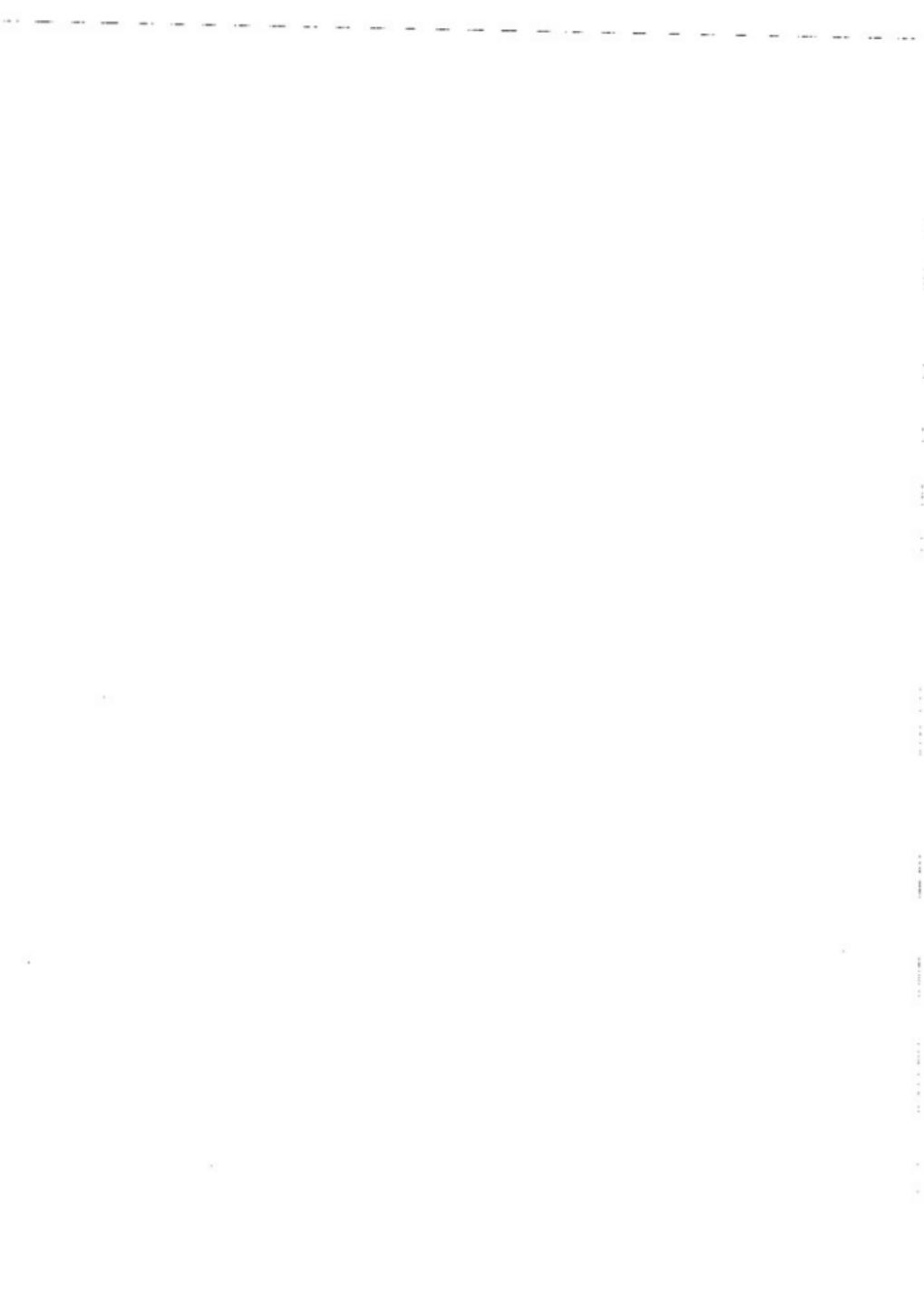
これら7基の古墳の築造時期は、出土した土器などから古墳時代前後半に相前後して築造された古墳と考えられる。

しかし、細かい古墳ごとの前後関係、相互の社会的な関係性等は今後の検討に委ねたい。

今回発掘調査を実施した7基の古墳は小規模で遺物も多くなく、当地にあっても特に傑出した古墳とはいえない。しかし、調査では7基の古墳を二群の小単位にして把握することができた。重層的かつ複雑な様相を示す古墳時代社会の解明にとって極めて貴重な資料となるであろう。だが、それぞれの古墳や出土遺物の持っている問題も複雑で、研究課題も多い。



# 図版



図版 1

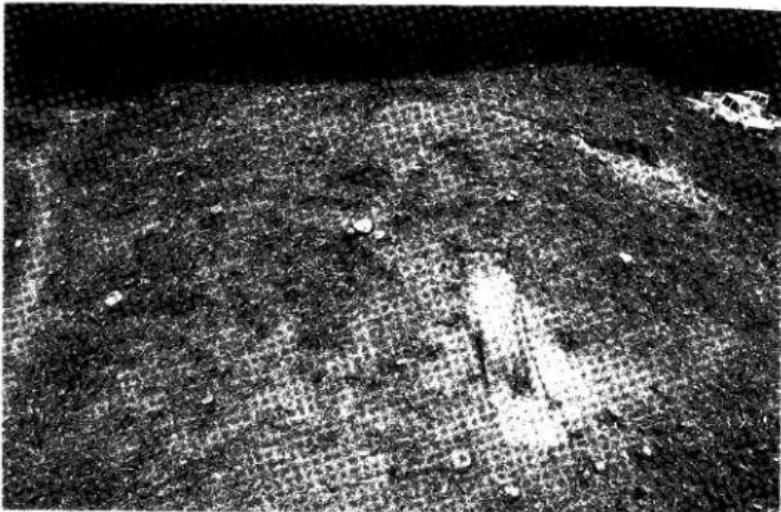


広岡76、77、78号墳調査前全景（東から）



広岡79、80、81、82号墳調査前遠景（西から）

図版 2



広岡76号墳調査前全景（東から）

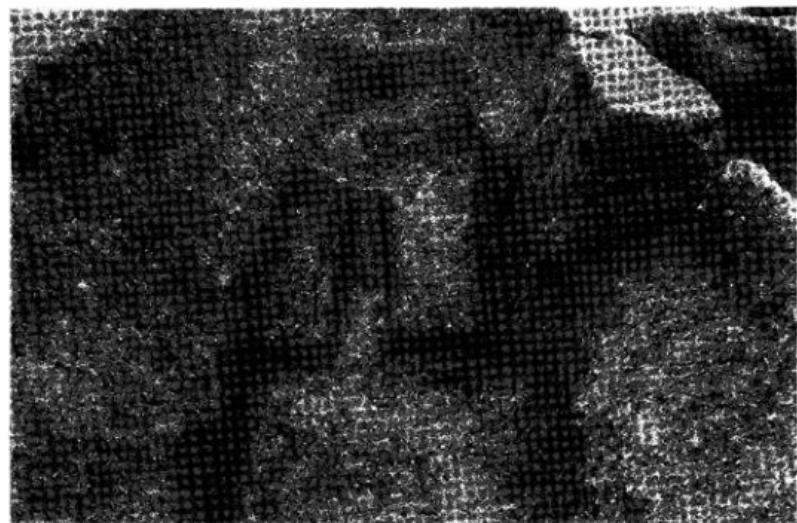


広岡76号墳調査後全景（東から）

図版 3



広岡76号墳第1主体部埋土状況

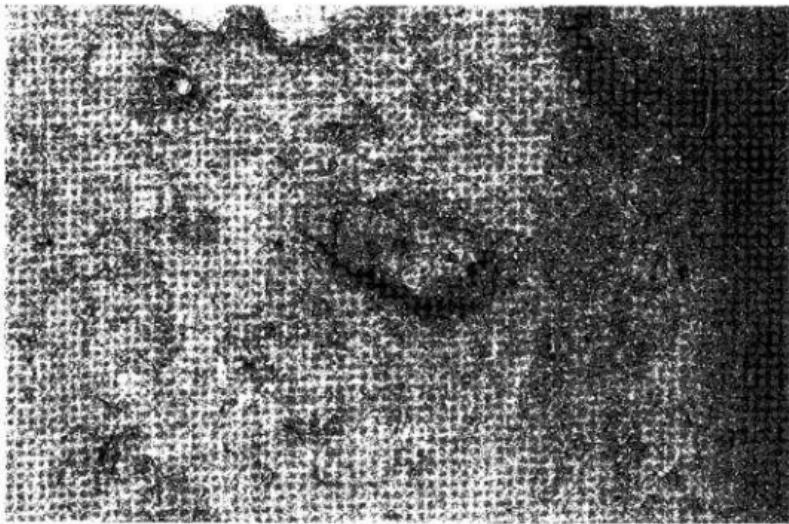


広岡76号墳第1主体部木棺痕跡検出状況

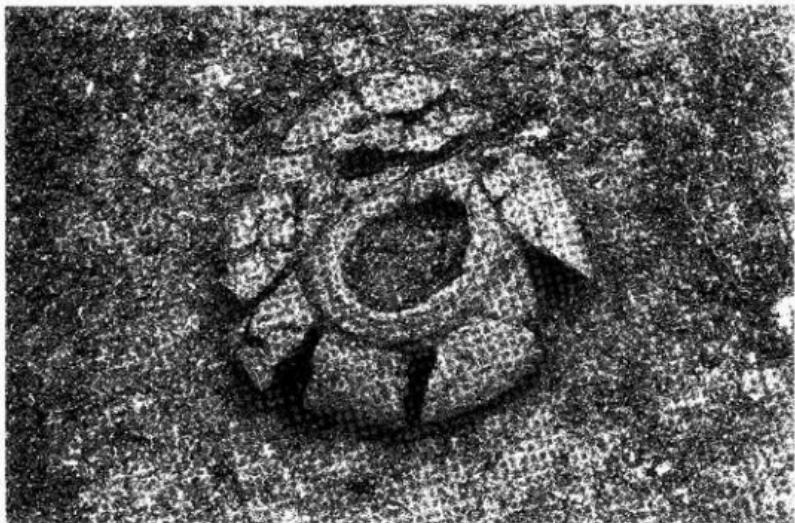
図版 4



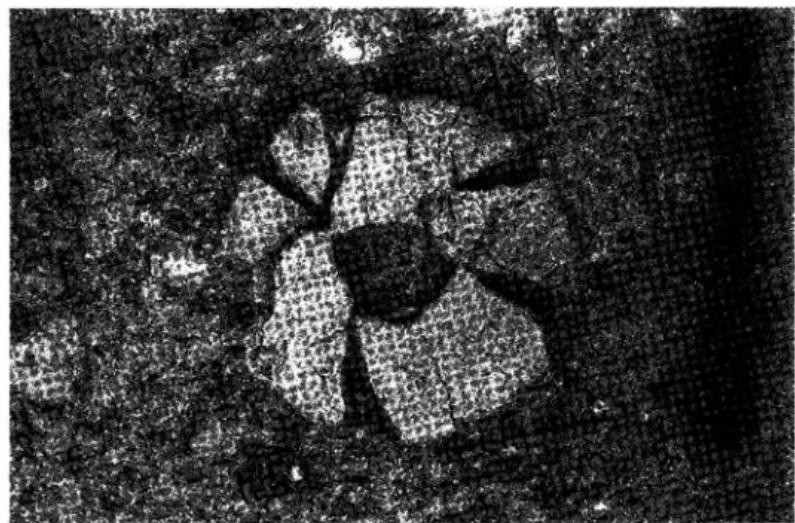
広岡76号墳第1、第2主体部（東から）



広岡76号墳第1主体部遺物出土状況



広岡76号墳第1主体部遺物出土状況



広岡76号墳第1主体部遺物出土状況

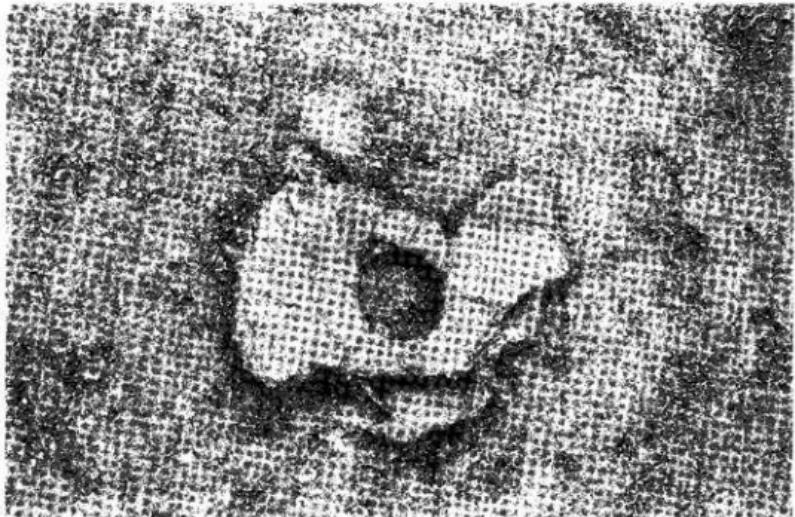
図版 6



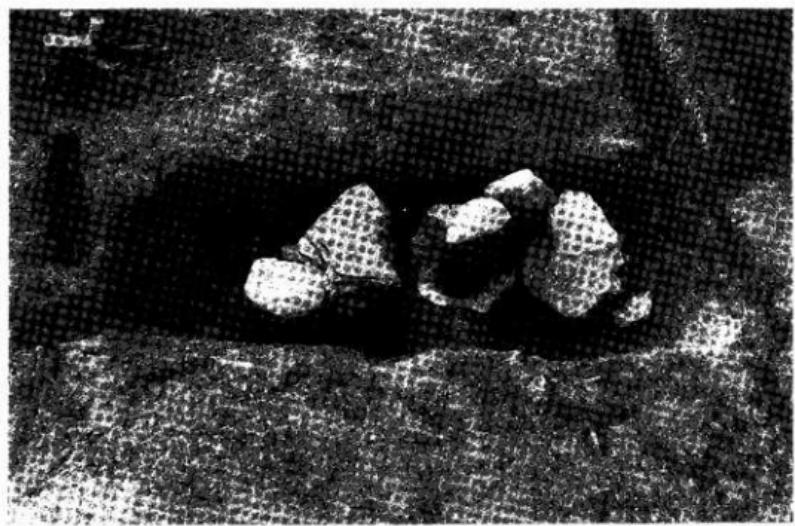
広岡76号墳第2主体部埋土状況



広岡76号墳第2主体部（東から）

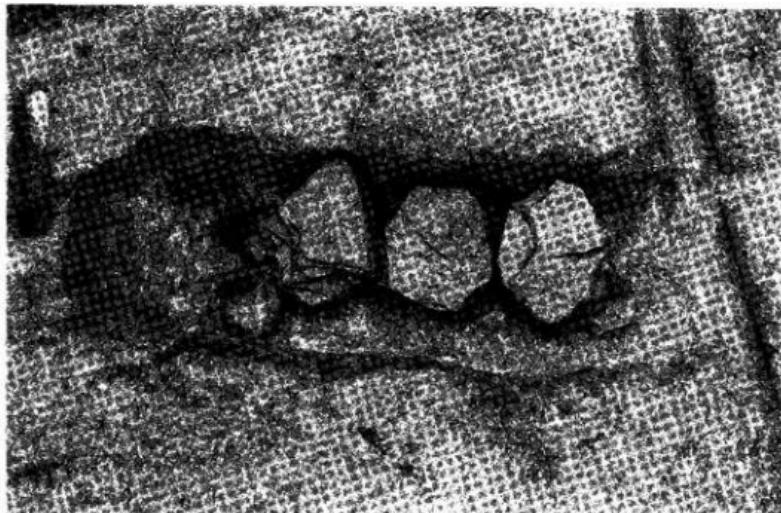


広岡76号墳第2主体部遺物出土状況

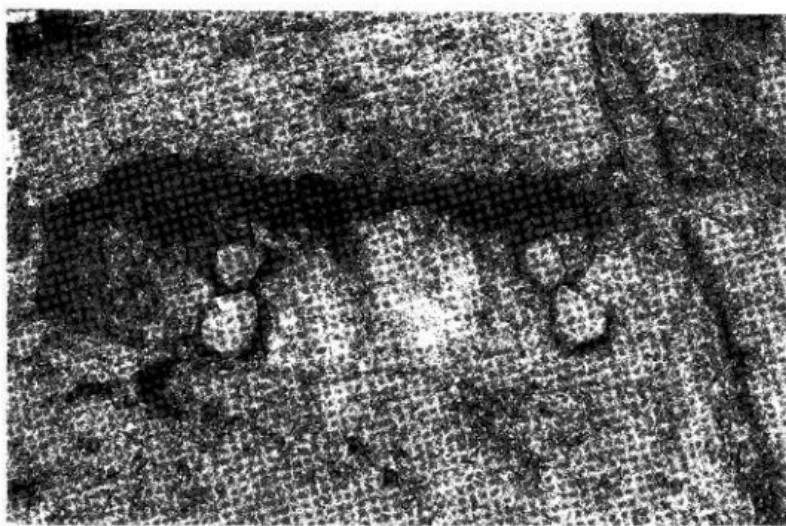


広岡76号墳第3主体部石材出土状況（東から）

図版 8



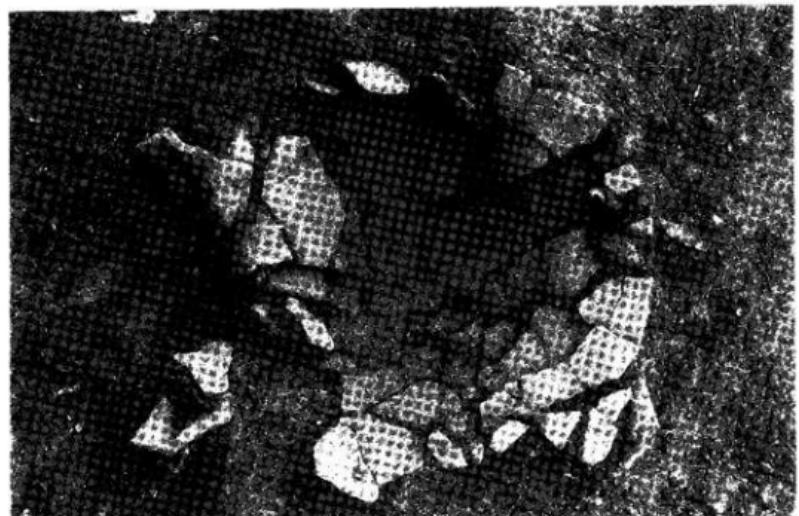
広岡76号墳第3主体部石材出土状況（東から）



広岡76号墳第3主体部床面石材出土状況（東から）



広岡76号墳第4主体部（北東から）

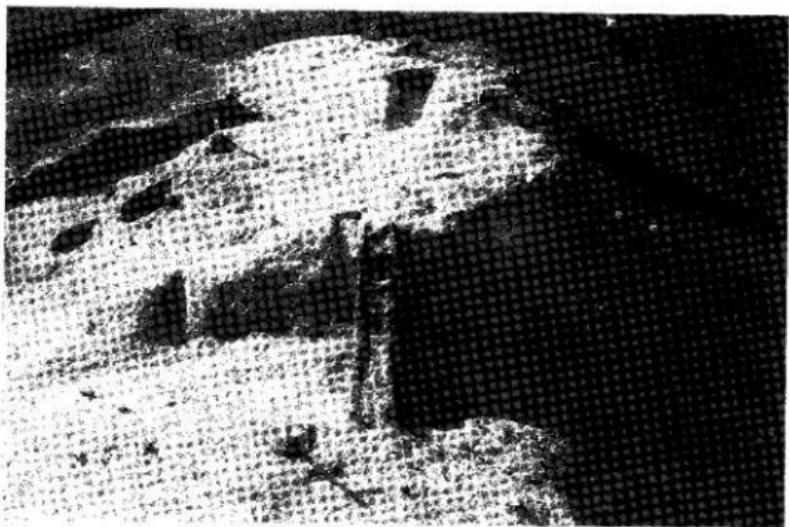


広岡76号墳第5主体部（土器棺）遺存状況

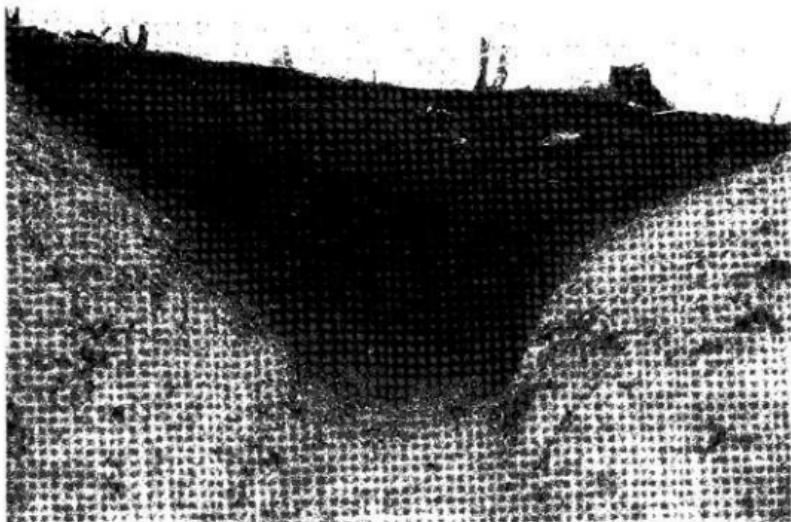
図版 10



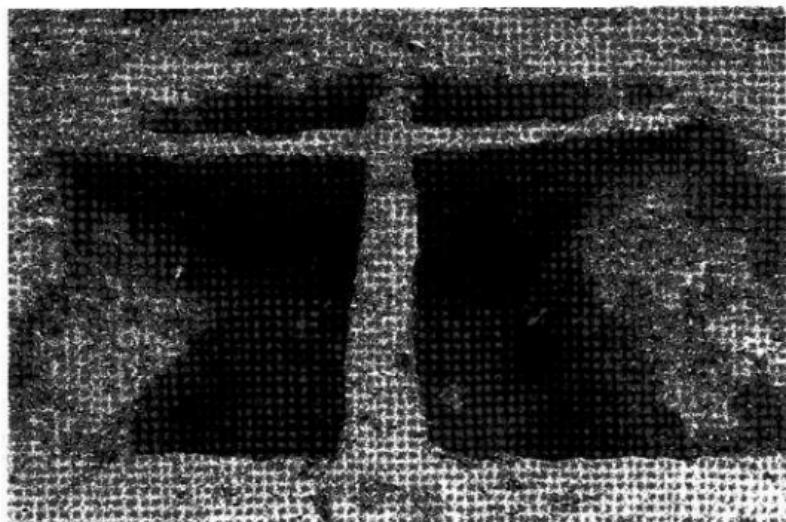
広岡77号墳調査前全景（東から）



広岡77号墳調査後全景（東から）

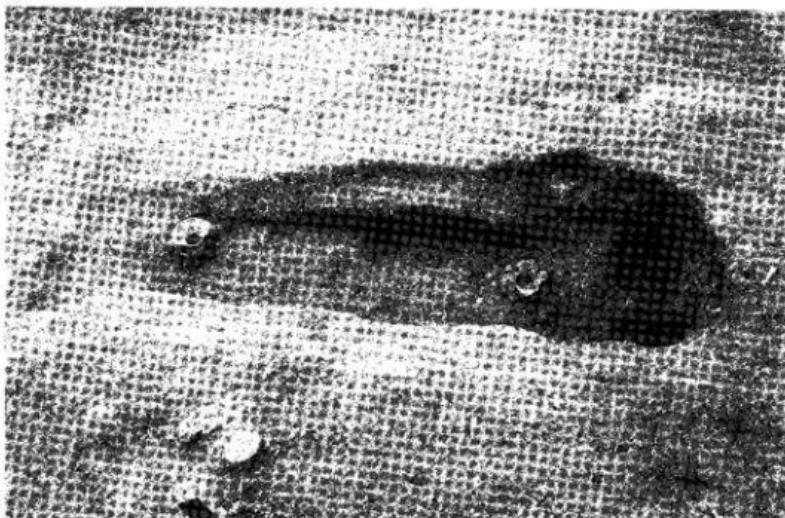


広岡77号墳周溝埋土状況（西側）

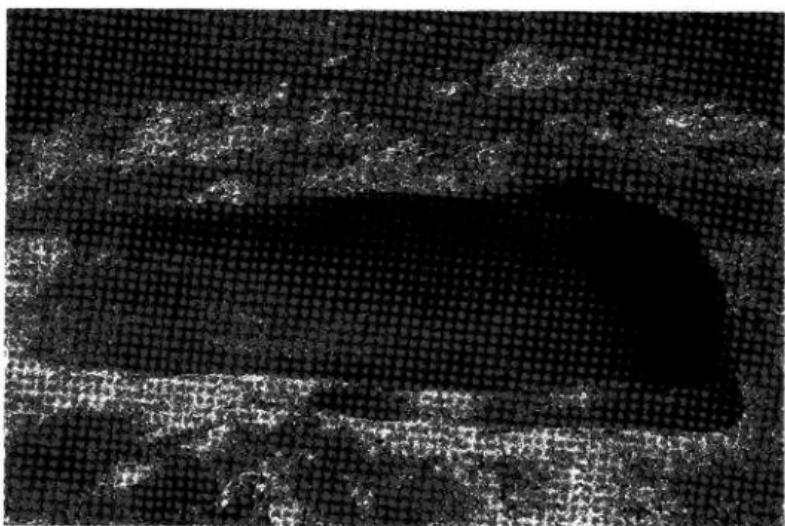


広岡77号墳主体部埋土状況

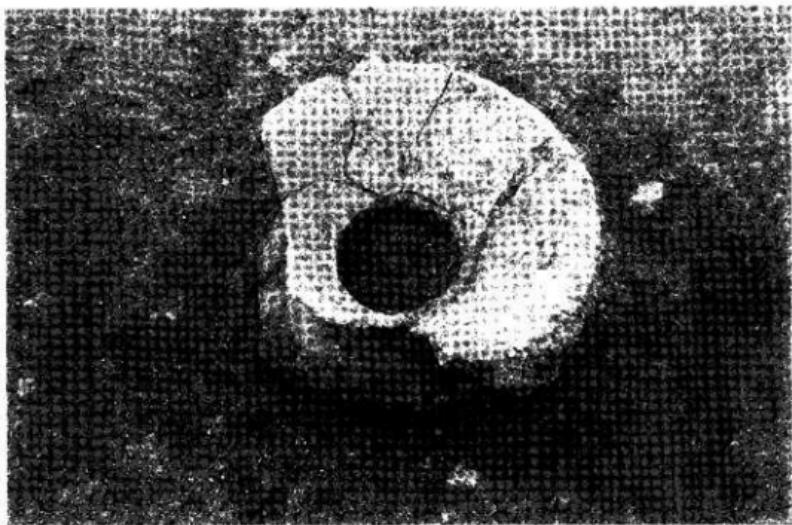
図版 12



広岡77号墳主体部（北から）



広岡77号墳主体部完掘後（北から）



広岡77号墳主体部遺物出土状況

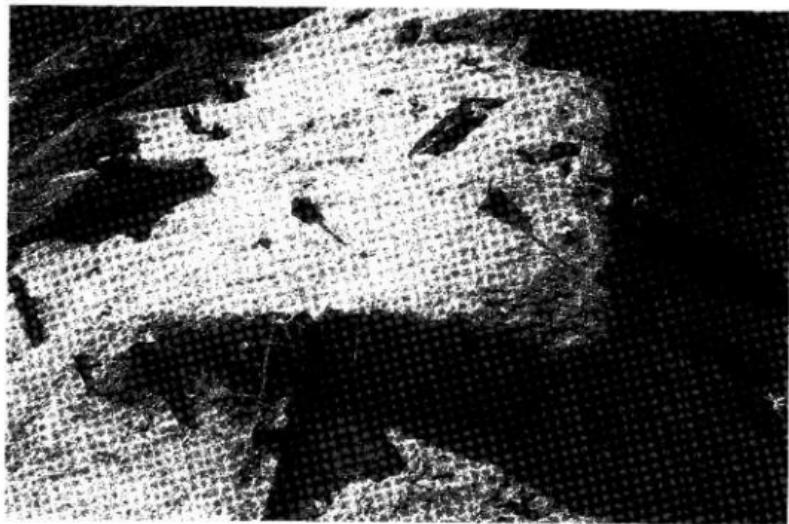


広岡77号墳主体部遺物出土状況

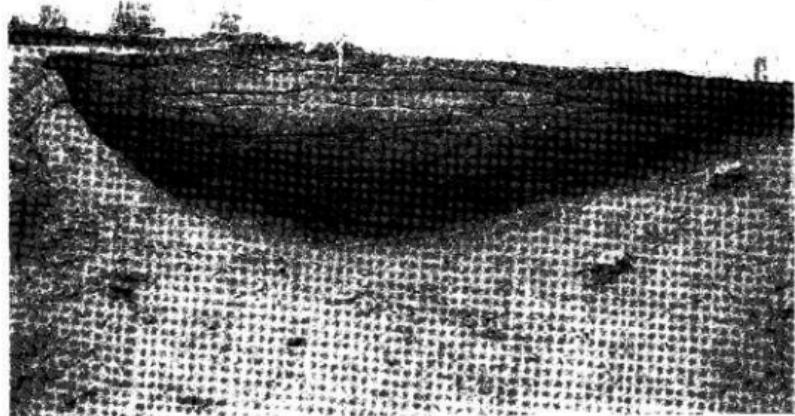
図版 14



広岡78号墳調査前全景（東から）



広岡78号墳全景（東から）

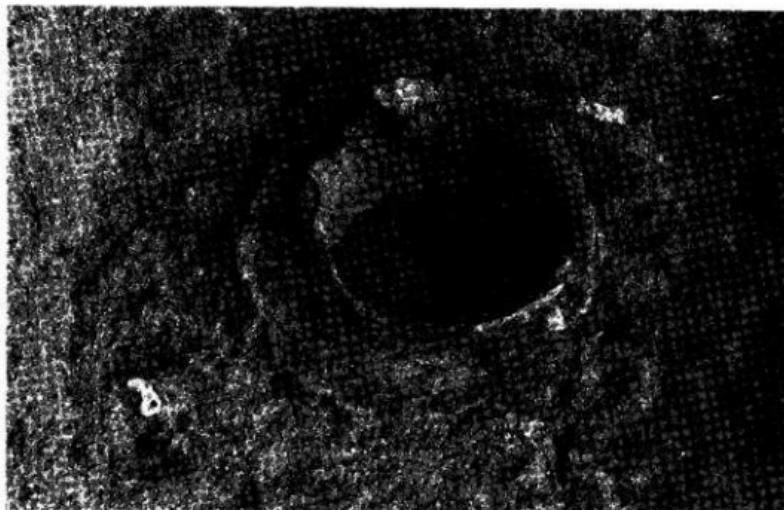


広岡78号墳周溝埋土状況（西側）

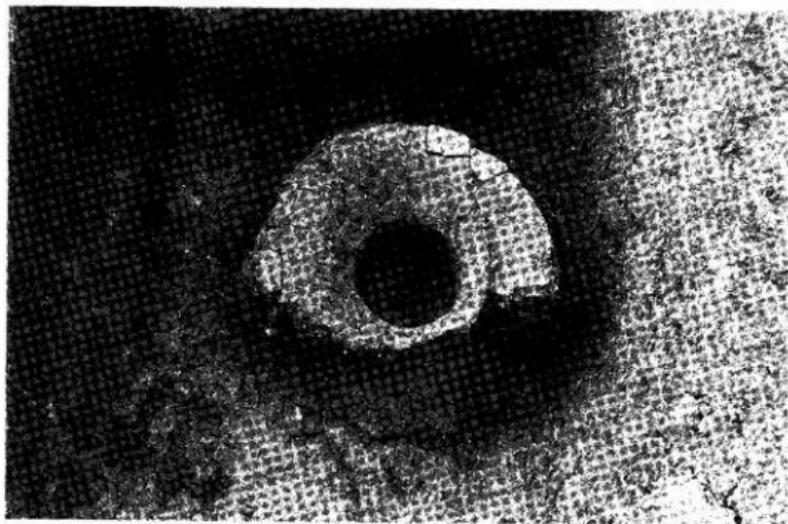


広岡78号墳主体部（北から）

図版 16



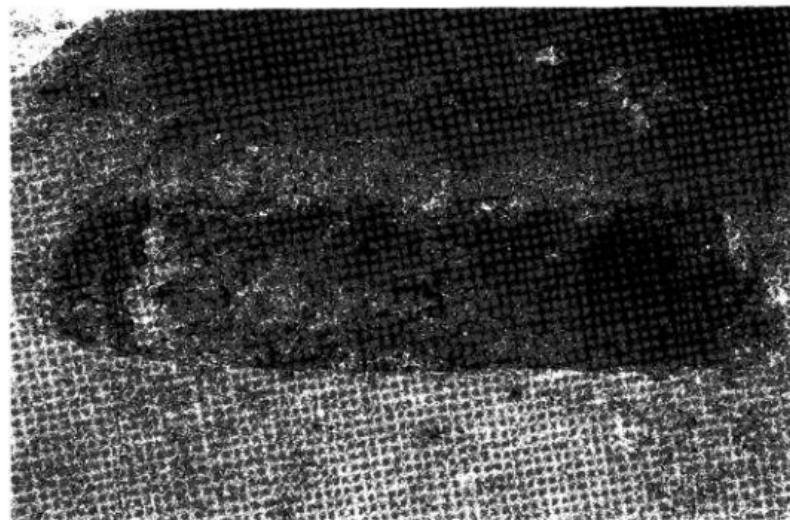
広岡78号墳主体部遺物出土状況



広岡78号墳主体部遺物出土状況

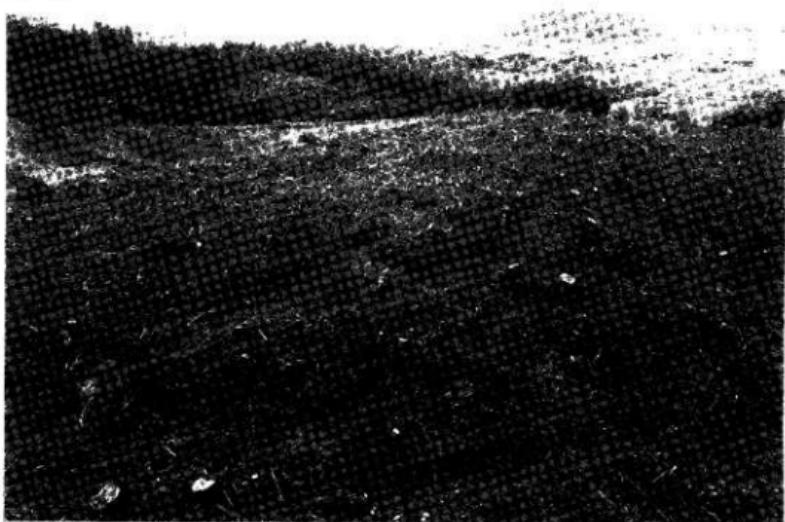


広岡78号墳主体部遺物出土状況

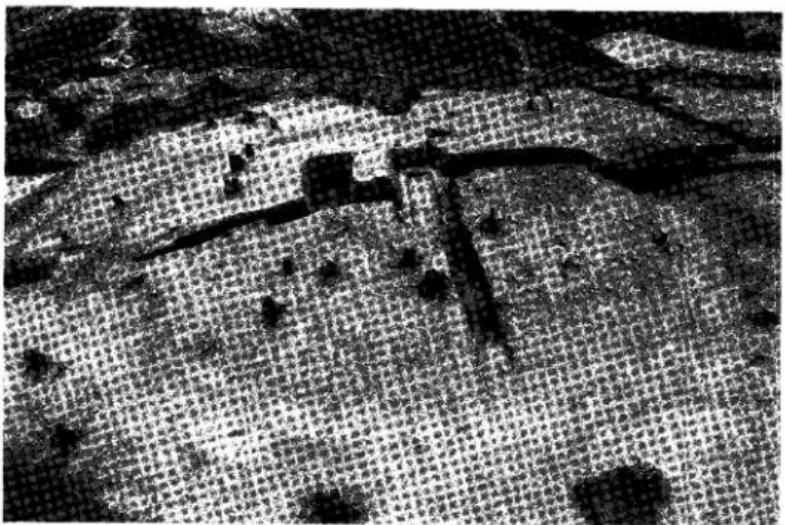


広岡78号墳主体部完掘後（北から）

図版 18



広岡79号墳調査前全景（南から）



広岡79号墳調査後全景（東から）

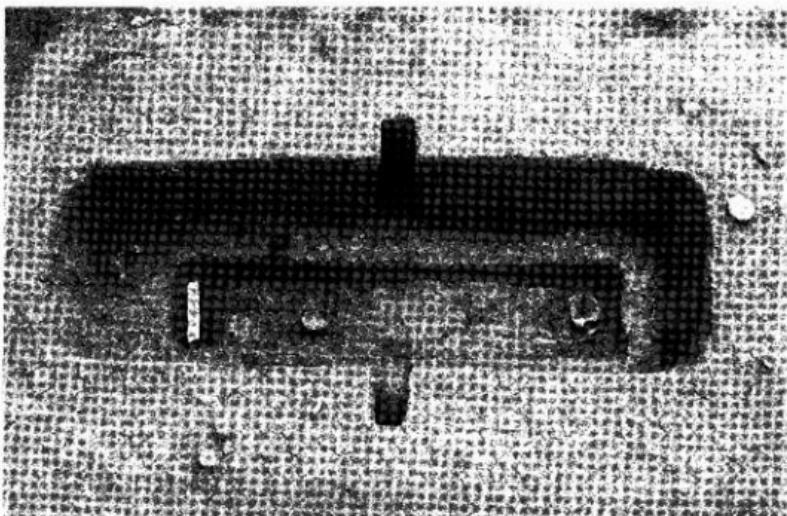


広岡79号墳周溝埋土状況（北側）

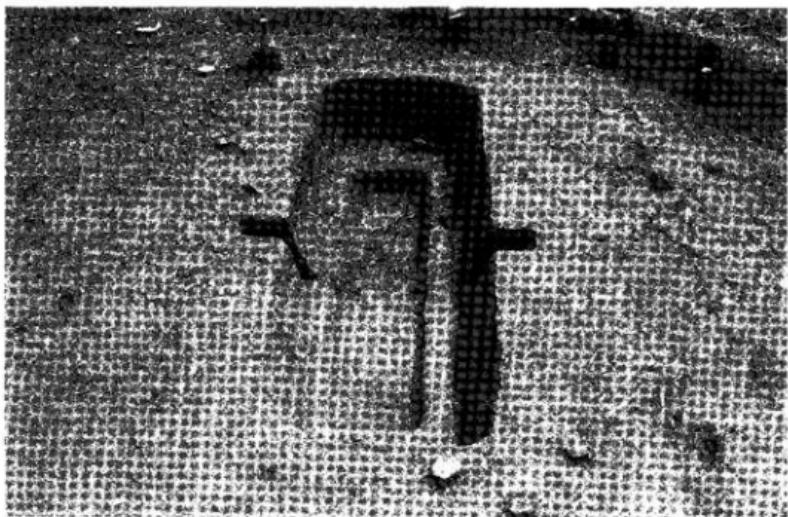


広岡79号墳第1主体部埋土状況

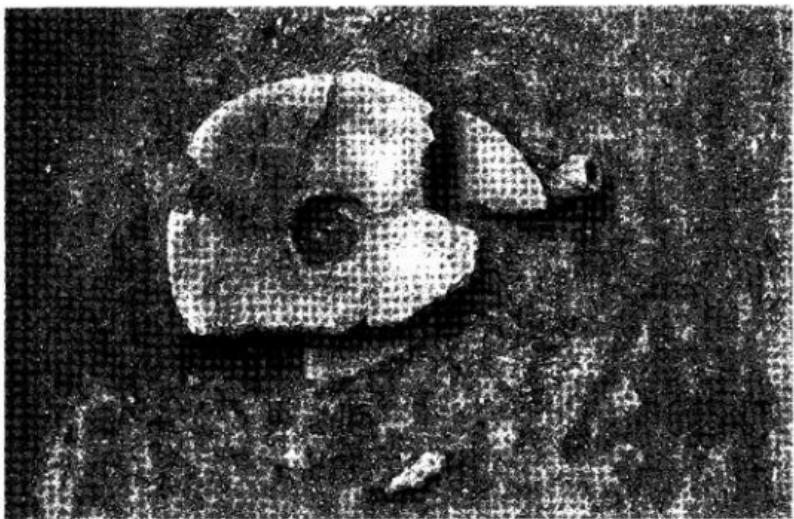
図版 20



広岡79号地第1主体部（北から）



広岡79号地第1主体部完掘後（西から）



広岡79号墳第1主体部遺物出土状況

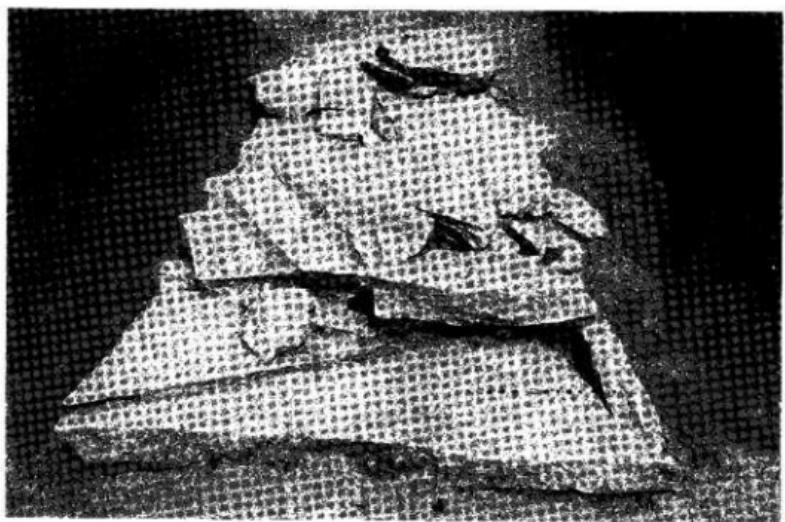


広岡79号墳第1主体部遺物出土状況

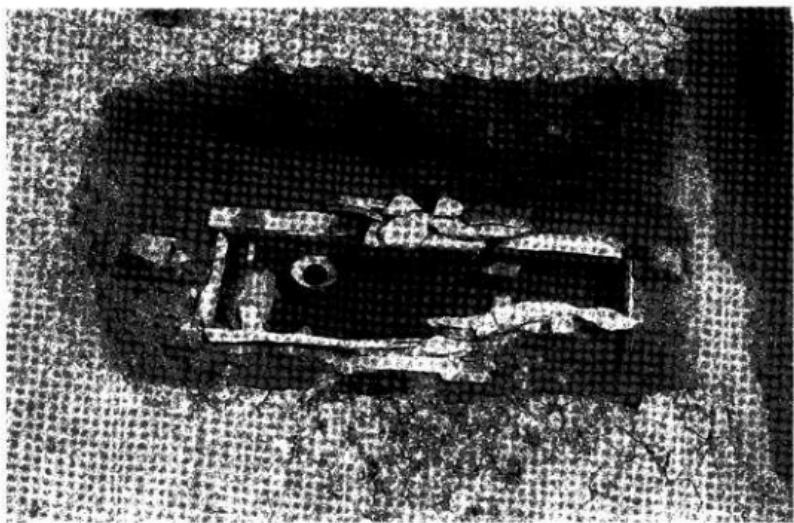
図版 22



広岡79号墳第2主体部石棺検出状況（東から）



広岡79号墳第2主体部蓋石遺存状況（西から）

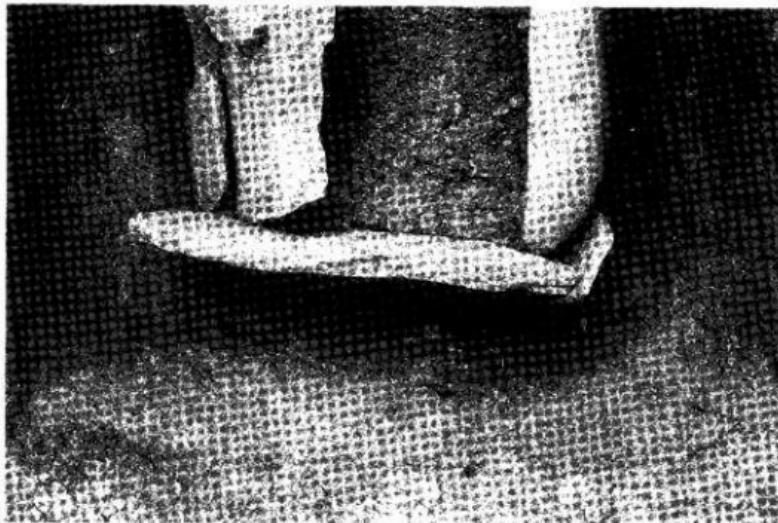


広岡79号墳第2主体部蓋石除去後（南から）

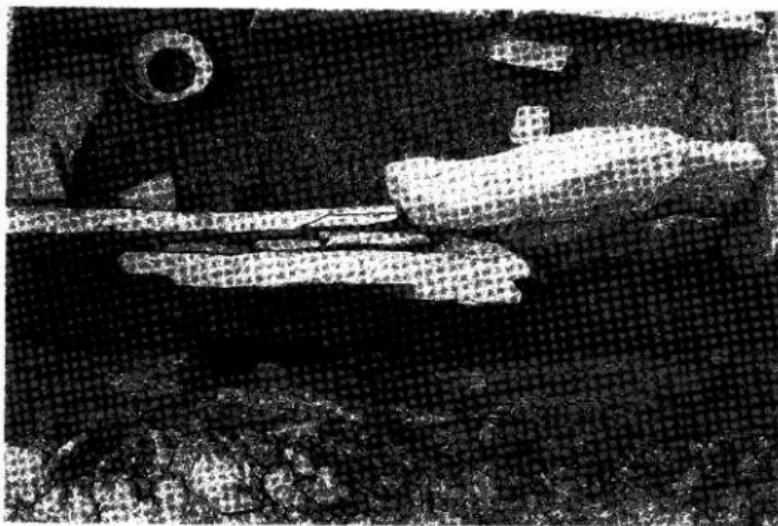


広岡79号墳第2主体部完掘後（東から）

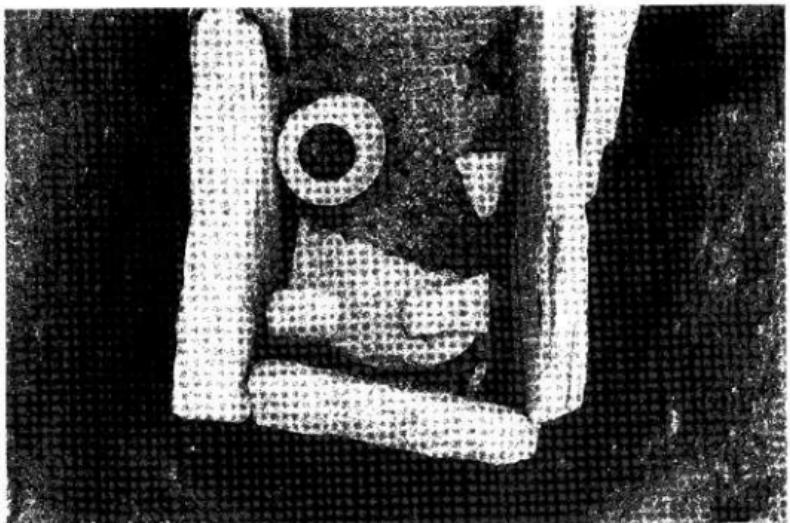
図版 24



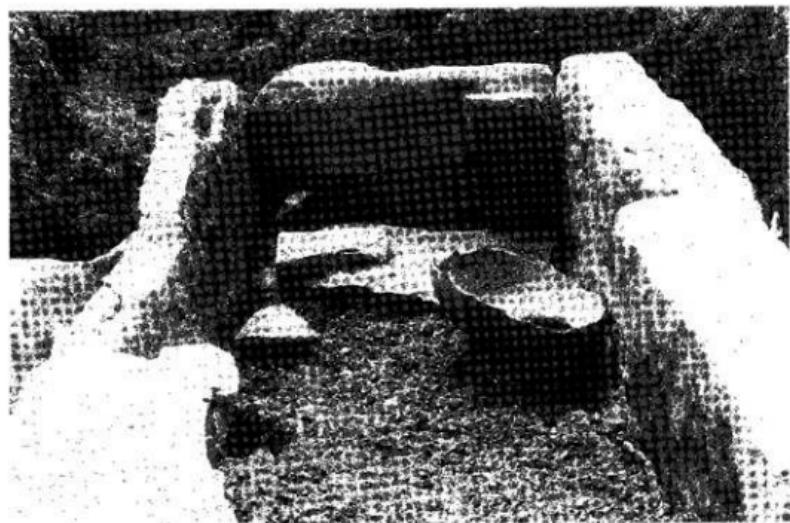
広岡79号墳第2主体部石棺東側小口遺存状況



広岡79号墳第2主体部石棺南側側板遺存状況

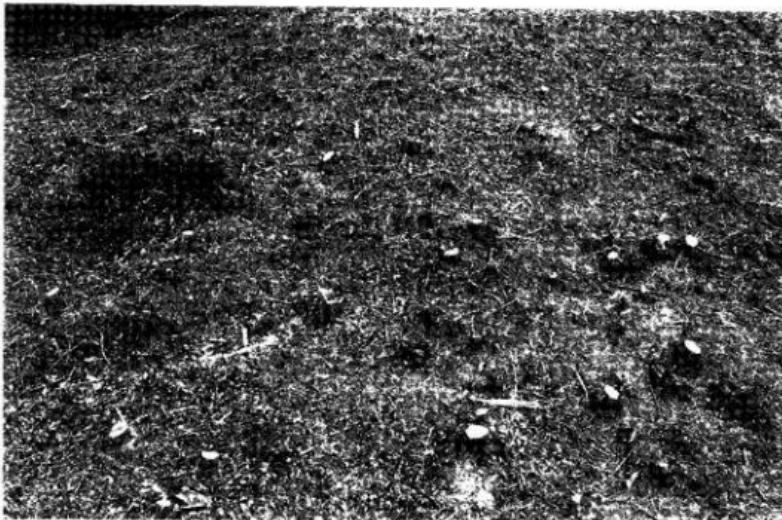


広岡79号墳第2主体部石棺内遺物出土状況

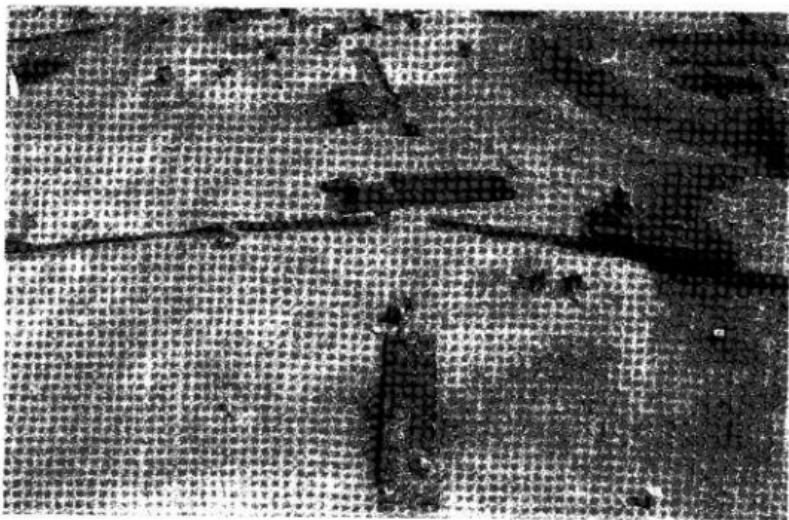


広岡79号墳第2主体部石棺内遺物出土状況

図版 26



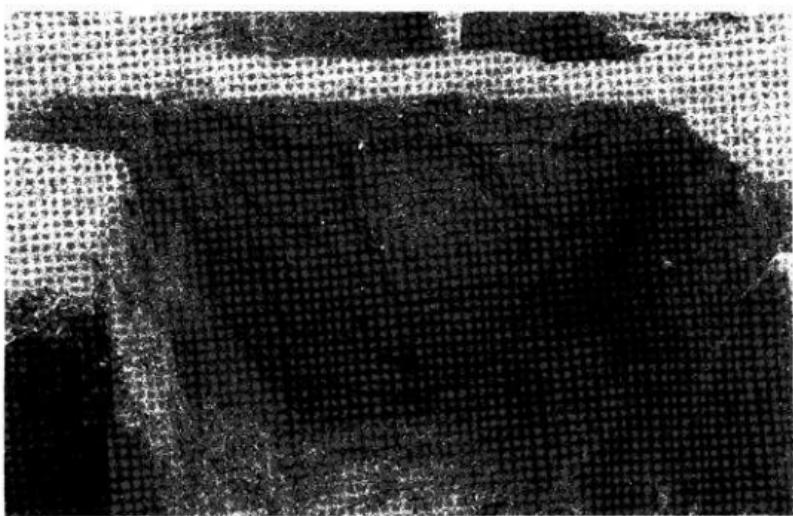
広岡80号墳調査前全景（西から）



広岡80号墳調査後全景（南から）



広岡80号墳周溝埋土状況（北側）

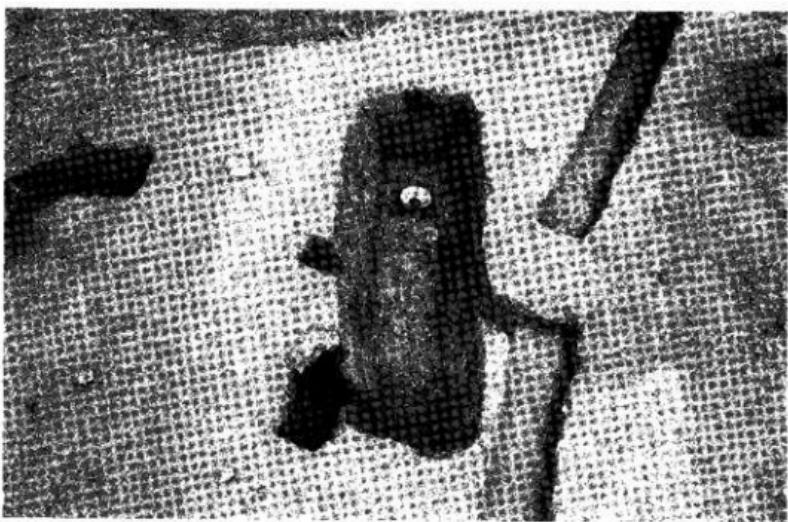


広岡80号墳主体部埋土状況

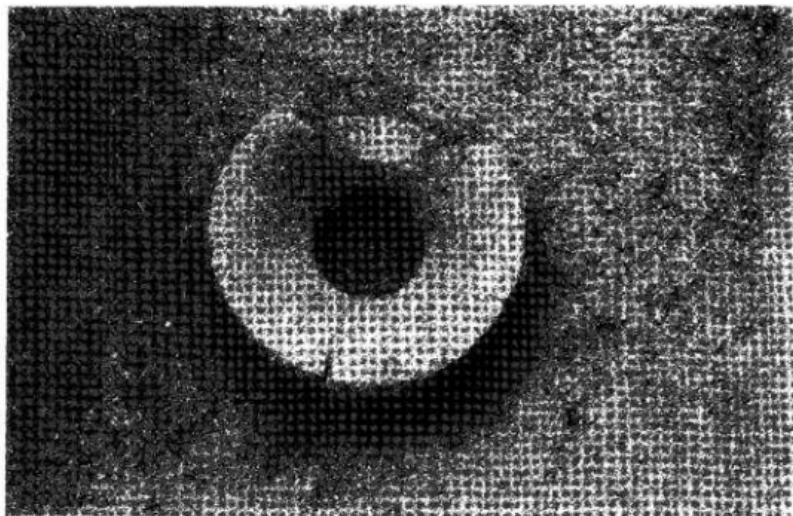
図版 28



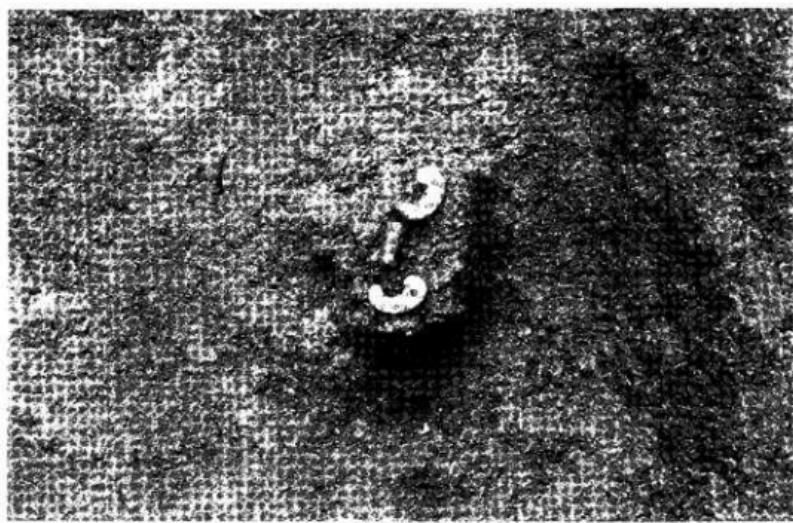
広岡80号墳主体部完掘後（東から）



広岡80号墳主体部（西から）



広岡80号墳主体部遺物出土状況



広岡80号墳主体部遺物出土状況

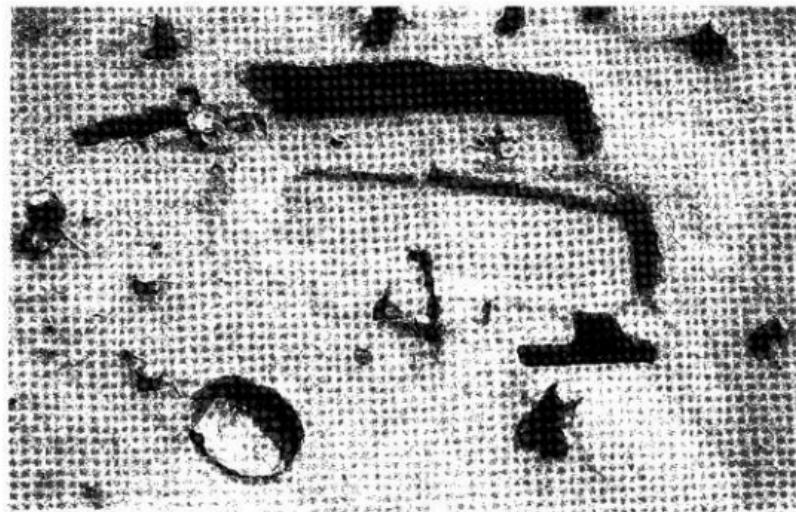
図版 30



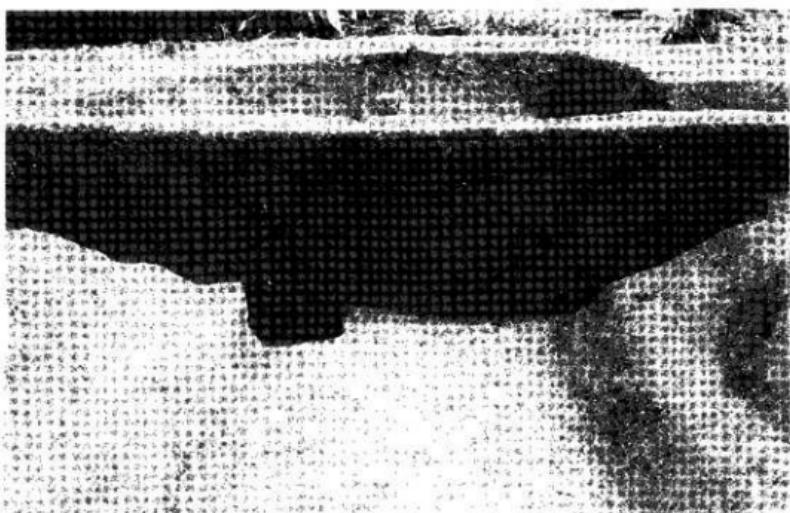
広岡81号墳調査前全景（西から）



広岡81号墳調査後全景（南から）

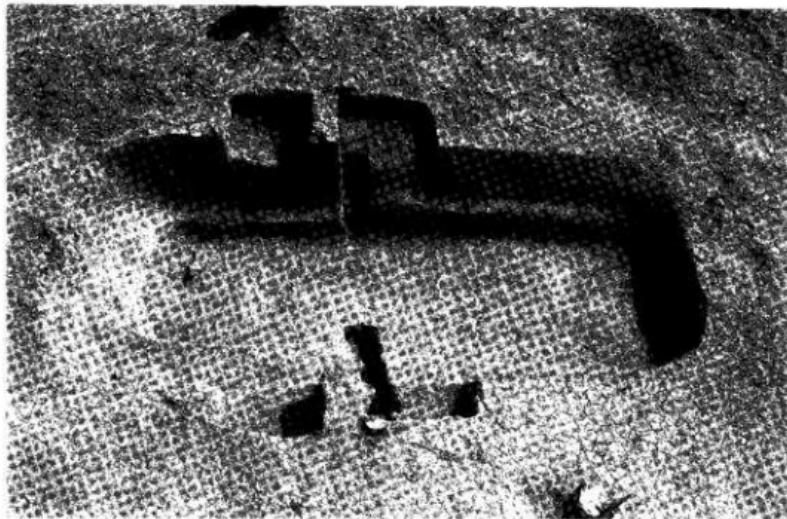


広岡81号墳主体部遺存状況（北から）

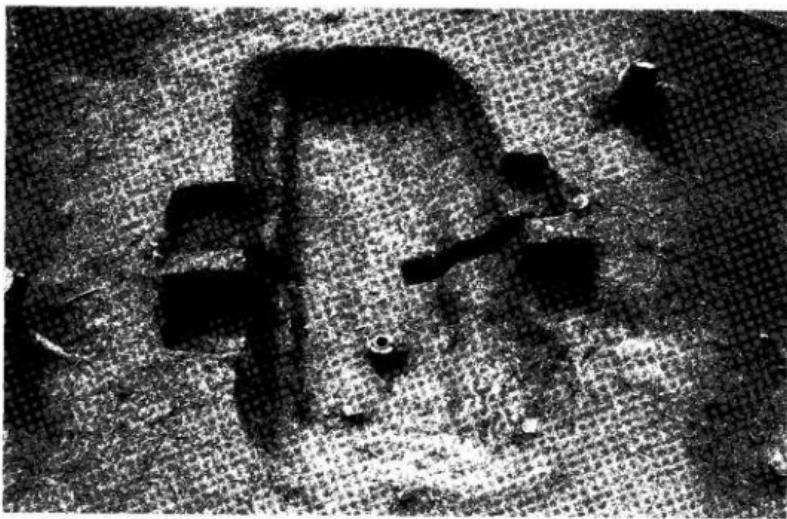


広岡81号墳第1主体部埋土状況

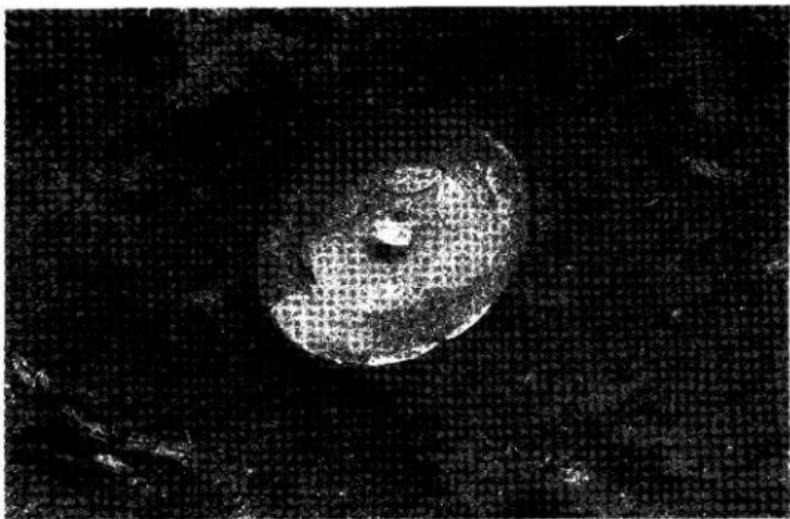
図版 32



広岡81号墳第1主体部完掘後（北から）



広岡81号墳第1主体部（東から）

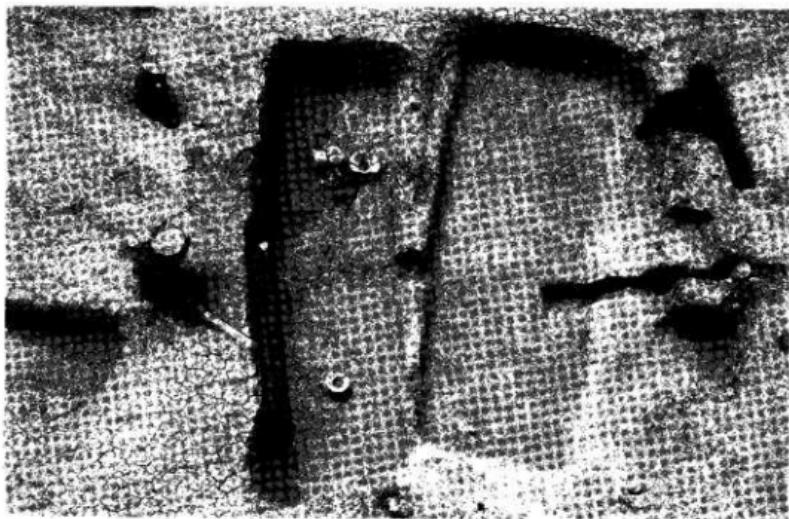


広岡81号墳第1主体部遺物出土状況

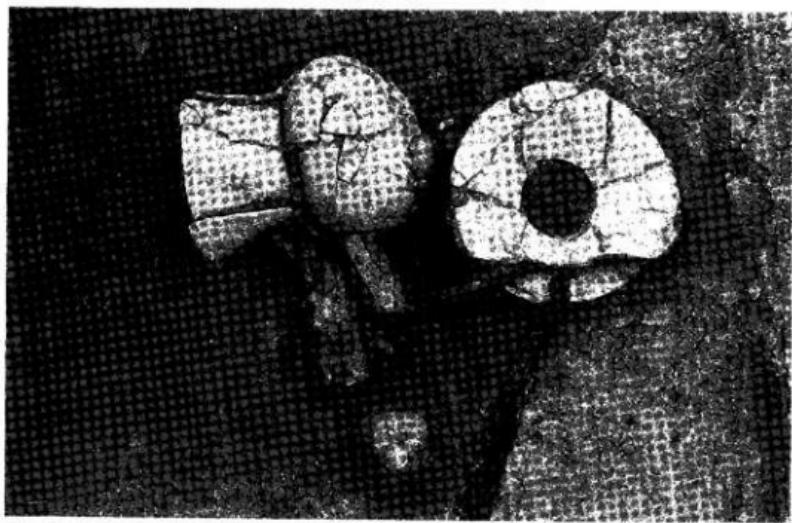


広岡81号墳第1主体部遺物出土状況

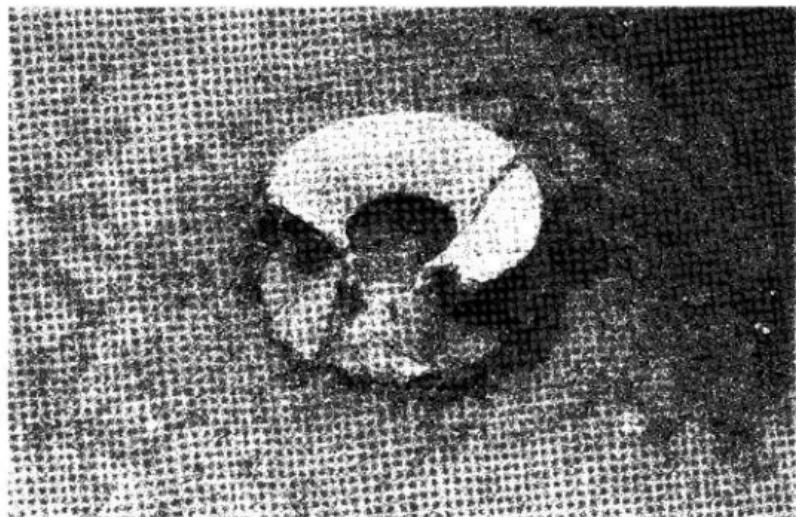
図版 34



広岡81号墳第2主体部（東から）



広岡81号墳第2主体部遺物出土状況

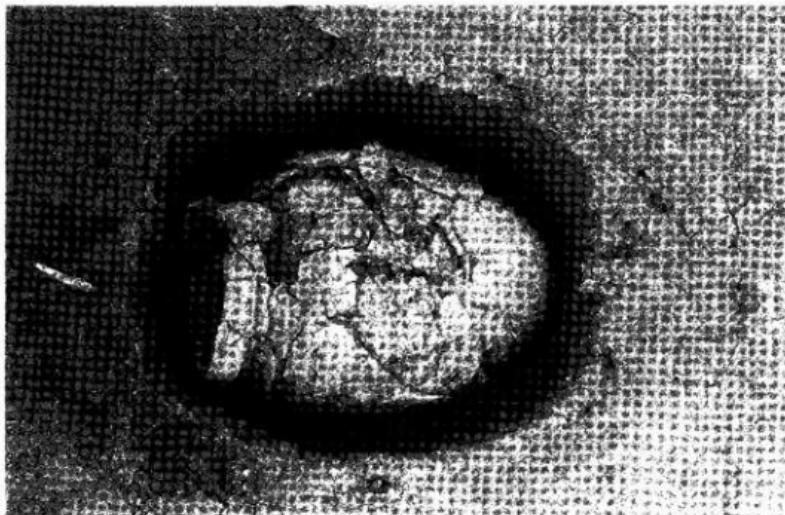


広岡81号墳第2主体部遺物出土状況

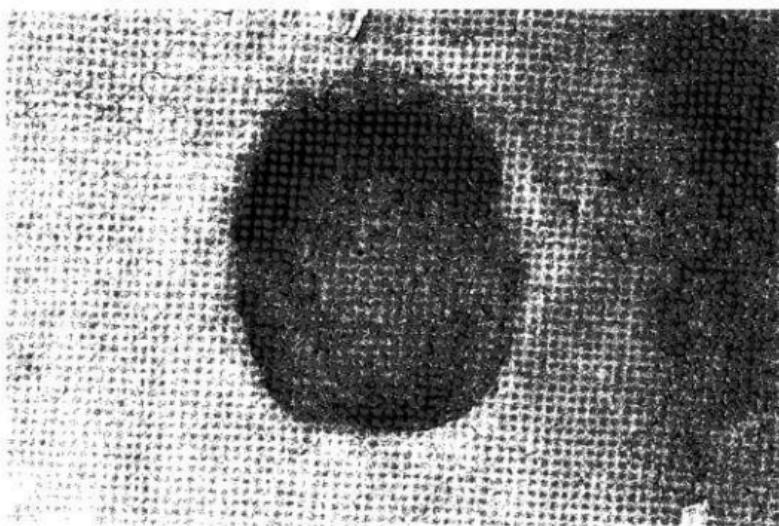


広岡81号墳第2主体部遺物出土状況

図版 36



広岡81号墳第3主体部（土器棺）遺存状況（北から）



広岡81号墳第3主体部完掘後（東から）



広岡81号墳第4主体部（土器棺）遺存状況



広岡81号墳第5主体部（北から）

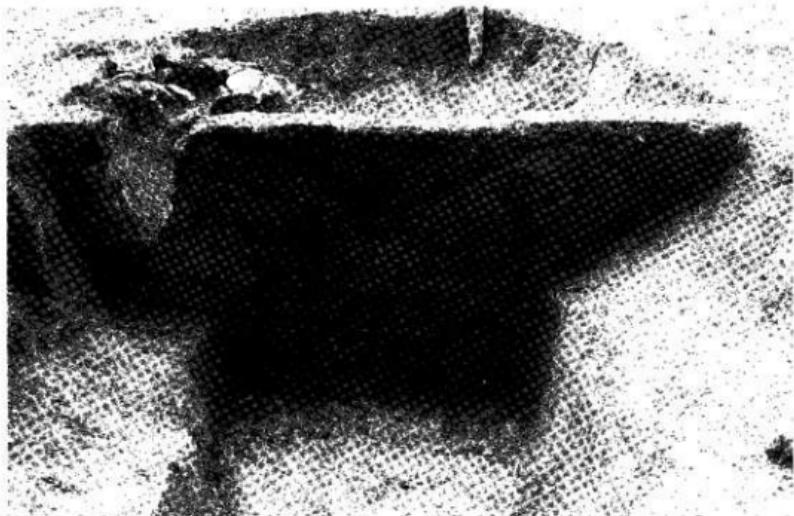
図版 38



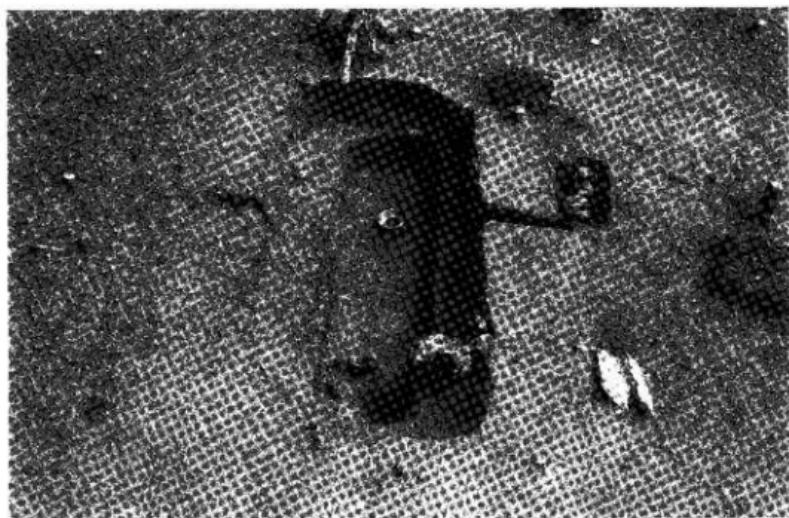
広岡82号墳調査前全景（北西から）



広岡82号墳調査後全景（南から）

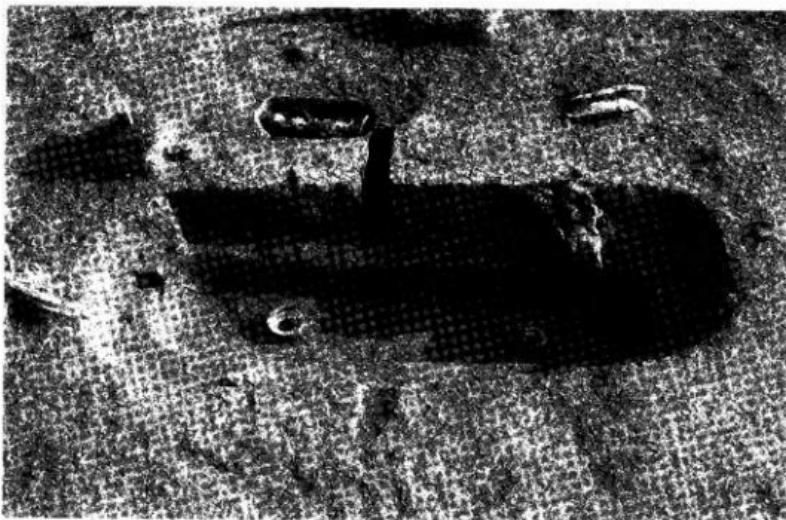


広岡82号墳第1主体部埋土状況

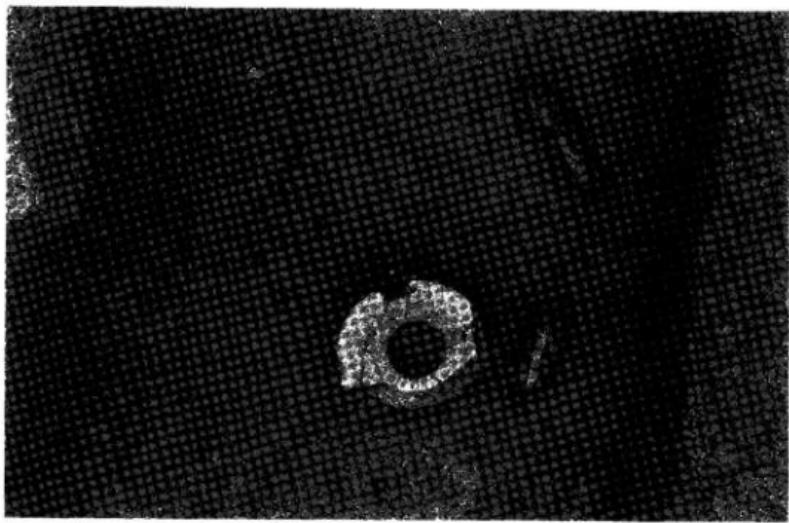


広岡82号墳第1主体部（西から）

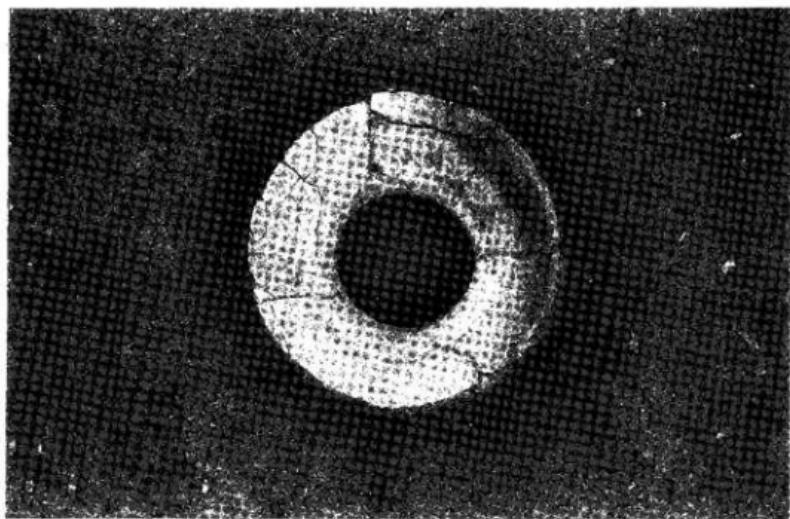
図版 40



広岡82号墳第1主体部（北から）



広岡82号墳第1主体部遺物出土状況

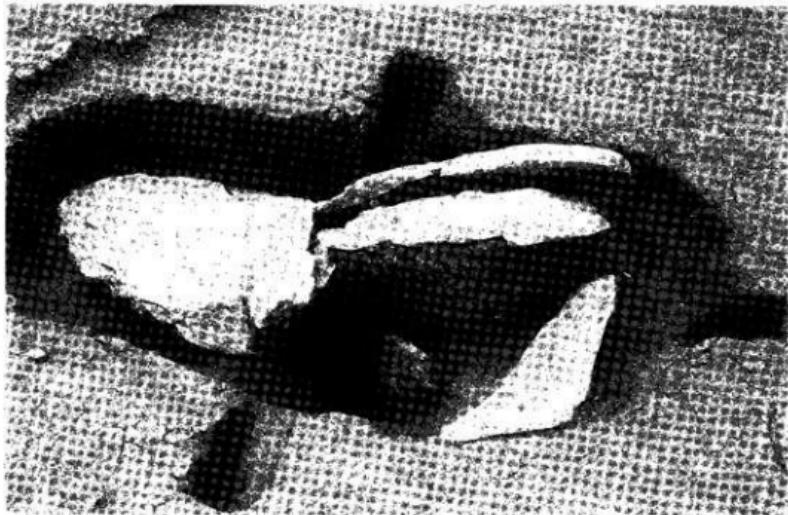


広岡82号墳第1主体部遺物出土状況

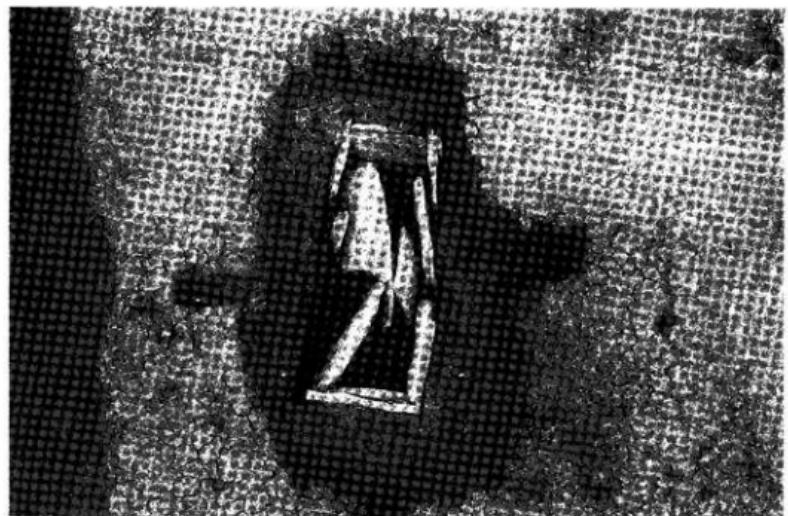


広岡82号墳第2主体部石棺遺存状況（東から）

図版 42



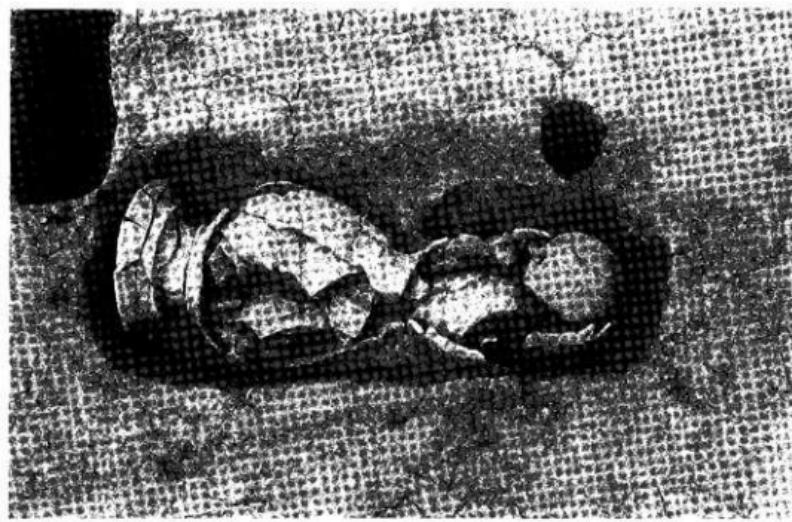
広岡82号墳第2主体部蓋石遺存状況（北東から）



広岡82号墳第2主体部蓋石除去後（西から）



広岡82号墳第2主体部完掘後（東から）

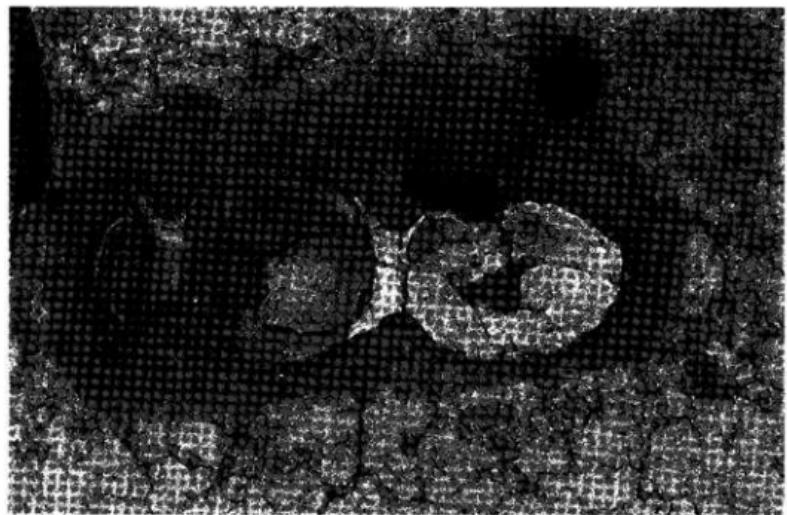


広岡82号墳第3主体部（土器館）遺存状況全景（南から）

図版 44

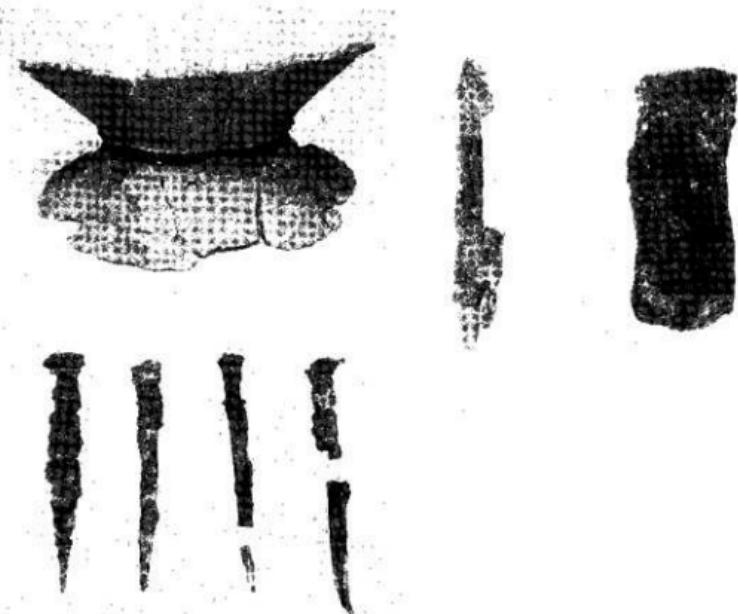


広岡82号墳第3主体部遺存状況（西側）

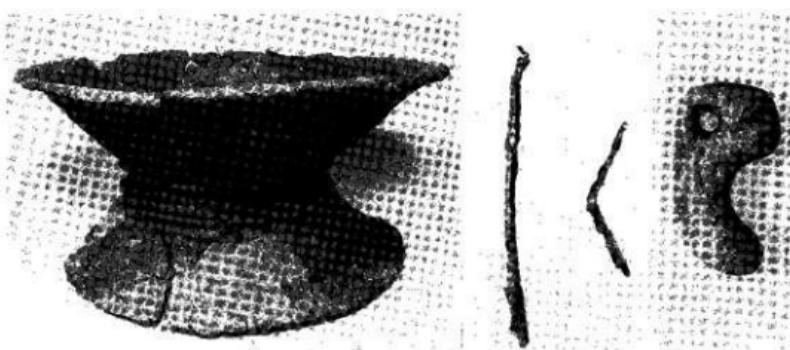


広岡82号墳第3主体部土器棺組合せ状況（南から）

図版 45



広岡76号墳出土遺物

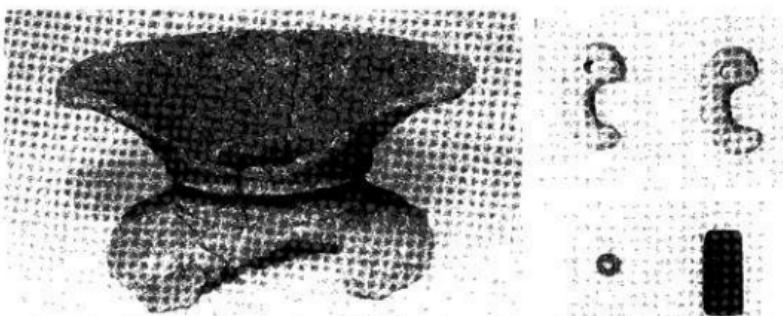


広岡78号墳出土遺物

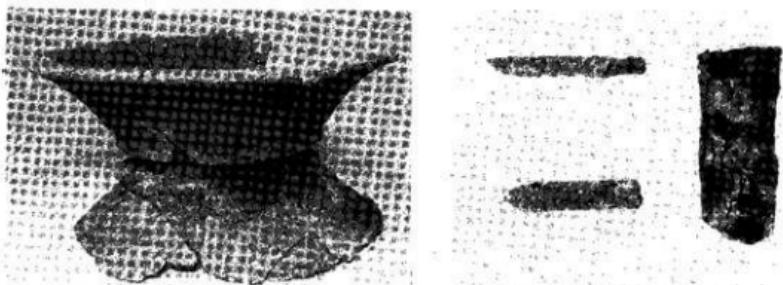
図版 46



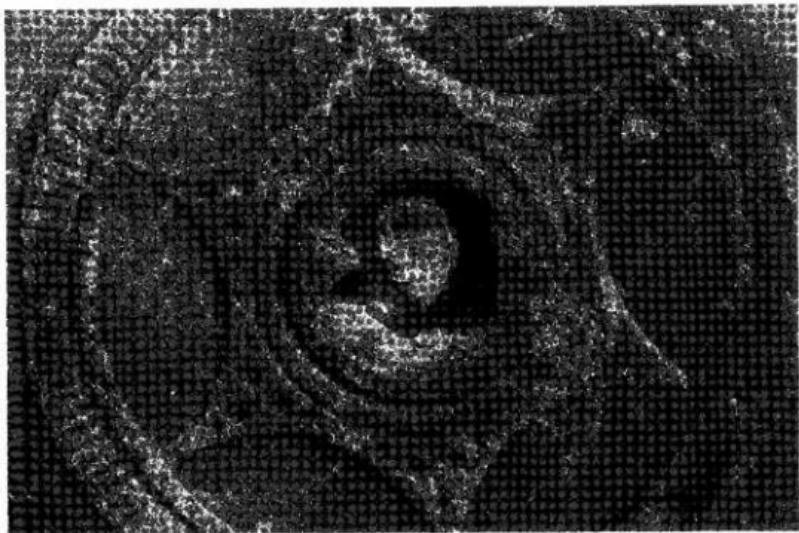
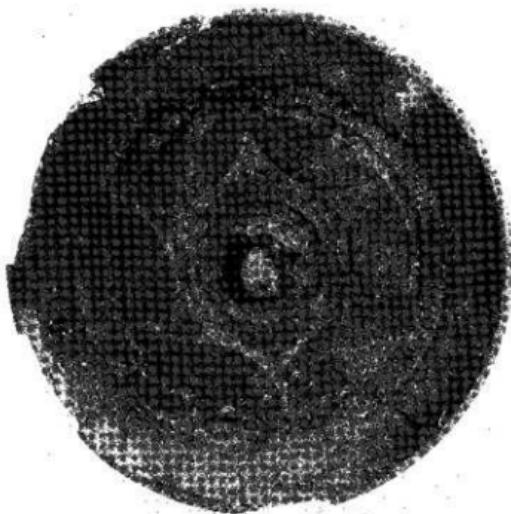
広岡79号墳出土遺物



広岡80号墳出土遺物



広岡81号墳出土遺物

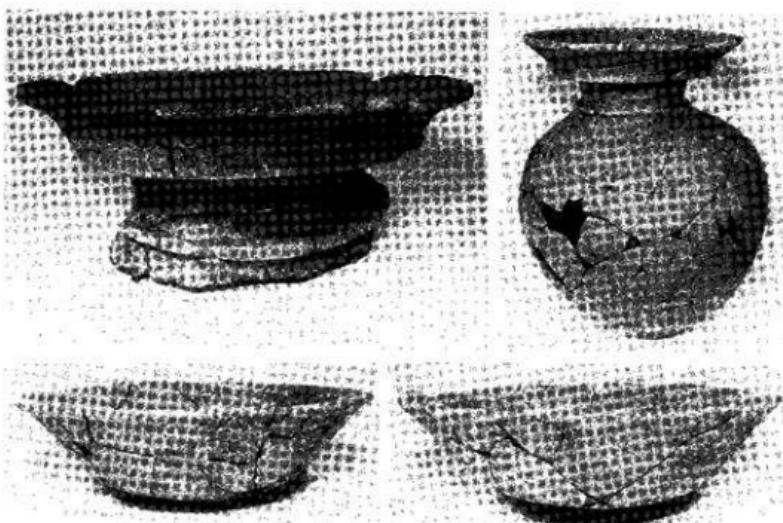


広岡81号墳出土内行花文鏡

図版 48



広岡81号墳出土土器棺



広岡82号墳出土遺物

---

**広岡古墳群発掘調査概要報告書**

平成元年3月

編集・発行 烏取市遺跡調査団

---